

II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)		旅行代理店（従業員）	・日並みの良いゴールデンウィークを起点として、観光需要を喚起するような情報が多く出されていることに加えて、道民割や自治体の観光振興策が打ち出されていることから、これまで蓄積されてきた旅行需要が今後顕在化することを期待している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・国の施策による後押しもあり、今後よほどの感染拡大が起きない限り、現在の好調な状況が続く。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染に対する嫌悪感が薄れている状況にある。また、新就職者、新入学者が新しい環境に慣れ、落ち着いてくる時期でもあることから、若年層の来街者数の増加につながり、飲食及び遊興施設などでの売上アップが期待できる。今後、何らかの規制などが生じなければ、道内外からの旅行者が微増することも見込まれ、飲食、交通、宿泊などでの売上アップも望める。
		商店街（代表者）	・コロナ禍の影響はあるものの、自粛行動が落ち着き始めていること、これからオンシーズンに向かうことなどから、今後の景気はやや良くなる。
		商店街（代表者）	・北海道の観光シーズンを迎えることから、疲弊した観光業界では大きく期待しているが、予約状況が芳しくないことから、今後への不安がある。全国規模の観光政策は重要であり、早期のGo To Travelキャンペーンの実施を懇願する。また、訪日外国人旅行者の調査において、日本は人気の場所であることから、安全な国から徐々に入国制限が開放されることを願っている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・新型コロナウイルスの第7波が起きるのではないかと皆心配しているが、自宅にこもってばかりいることに耐えられない人も多いとみられるため、今後の人出は確実に増加する。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・道民割や県民割などの近隣を目的地とする旅行喚起策はあるが、飛行機を利用するような旅行を喚起するためには、Go To Travelキャンペーンのような大々的なものが必要である。今後、こうした需要喚起策の早期実現を期待している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・新型コロナウイルスの影響が沈静化することが前提であるが、今後の景気は回復基調が続くことになる。
		百貨店（販売促進担当）	・ゴールデンウィーク明けの状況次第だが、今のところの見通しでは今後も客の購買意欲は高まり、景気は緩やかに回復基調になる。
		百貨店（営業販促担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少に転じることで来客数が戻ってくることを期待している。現状においても衣料品、服飾雑貨などで徐々に動きが出てきているため、全体の来客数が増えることで食品、雑貨なども回復することになる。
		百貨店（マネージャー）	・当地では4月29日からプレミアム付商品券の販売が開始された。ゴールデンウィークを含めて旅行に出掛ける人も増えているため、今後、衣料品やバッグなどの雑貨の売上増加につながることを期待している。
		スーパー（店長）	・7月の参議院選挙後に新型コロナウイルスの感染症法上での位置付けが2類から5類相当まで引き下げられることになれば、様々な部分で制限の緩和が始まることになり、それに伴って景気も上向くことになる。
	スーパー（店長）	・新型コロナウイルス新規感染者数が落ち着くことが前提ではあるが、各種イベントも再開に向けて進んでいるため、外出やトラベル関連の需要が増えていくことが見込まれる。ただし、外食需要の巻き返しが生じると、スーパーの食料品部門での売上が苦戦傾向に陥る可能性もある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・今年の客の様子から、これから観光シーズンを迎えるとともに、前年よりも活発に行動する客が増えることが見込まれる。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスで落ち込んだ景気を回復させるような政策が行われることで、今後の集客が回復傾向になると期待している。
		家電量販店（経営者）	・エアコンなどの季節需要の取り込みを期待しているが、上海のロックダウンの影響により商材の入荷遅れや入手自体が困難になることが懸念されるため、予断を許さない状況にある。
		家電量販店（店員）	・今後については、新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴って、夏物家電が好調になることを期待している。
		高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染症の第7波が来なければ、景気はやや良くなる。ただし、当店の主力となっていた50歳以上の客はいまだに自粛体制のような状況にあるため、ゴールデンウィーク後も簡単に客が増えるとは思えない。当分、従業員は増やせないため、現状メンバーで地道に営業したい。
		高級レストラン（スタッフ）	・景気はやや良くなることを期待している。ただし、新型コロナウイルス新規感染者数が高止まりしていることもあり、予断を許さない状況にある。
		高級レストラン（スタッフ）	・前々年に実施されたGo To Travelキャンペーンの再開、道民割などの延長が行われることになれば、今後の人出は増加する。週末の人出はコロナ禍前には及ばないが、確実に増えてきているため、あとは平日対策ができれば景気は良い方向に向かう。
		旅行代理店（従業員）	・景気が良くなることを期待している。
		旅行代理店（従業員）	・今後については夏休み時期に入るため、このまま緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの人流抑制策が行われないことを期待している。
		旅行代理店（従業員）	・地域観光事業の支援策である県民割などが徐々に拡大していることから、このまま都市部も含めて全国的に観光需要が向上することを期待している。
		タクシー運転手	・このまま新型コロナウイルスがピークアウトし、新規感染者数などが許容範囲に収まるようになれば、景気も回復することになる。
		通信会社（企画担当）	・春夏モデルの発売によって通信端末の取替え需要が高まることを期待している。
		観光名所（従業員）	・インバウンドと団体客を除けばだが、行動抑制の呼び掛けがなくなった途端、例年に近い数の国内個人観光客が動いている。物価高騰などのマイナス要因はあっても、これまでの自粛からのリバウンドによるプラスの効果が大きくなっていることから、これから少しずつ平常化に向かうことになる。
		観光名所（職員）	・客足は若干伸びつつあるが、コロナ禍前の水準と比較するとまだまだ遠く及ばない。今後については、ゴールデンウィークが今季最初のターニングポイントになる。新規感染者数が抑えられることが前提にはなるが、今後の観光業界全体の回復と利用者数の増加を期待している。
		百貨店（売場主任）	・客の購買行動がコロナ禍前と大きく変化しているため、仮に新規感染者数の影響を受けなくなったとしても、景気が大きく変化することはない。
		コンビニ（エリア担当）	・ゴールデンウィークをきっかけに客の動きが出てくるとみているが、その後、再び新規感染者数が増加し、行動抑制が生じることも懸念されるため、全体として景気は変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・人の動きは底を脱しており、今後の回復が見込まれる。一方、食品を中心とした最寄り品の値上げによって節約志向が進むことが懸念される。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数の推移がどうなるのかみえてこないため、今後も景気は変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・5月に新型車が発売されるが、飛ぶように売れる金額の車種ではない。ほかの車種の動向をみても、海外のロックダウンなどが解決しない限り、販売量が急激に伸びることは期待できない。消費行動の観点からみても、今後の景気が回復することは難しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・半導体不足の影響に加えて、上海のロックダウンやウクライナ情勢の影響でメーカーにおける自動車の生産遅れがますます進行しており、今後の売上に大きな影響が出てくること懸念される。
		自動車備品販売店（店長）	・今後、消費動向が回復したとしても、それがカー用品にまで及んでくるかは不透明である。
		スナック（経営者）	・ゴールデンウィークを迎えて客足が増える可能性もあるが、現状から5月になって客足がますます減っていくのではないかと心配している。
		タクシー運転手	・人出は少しずつ戻ってきているが、深夜のタクシー利用客はまだ少ない。タクシー利用は4月と同じように推移するとみられるが、乗務員不足は解消されないため、この先、会社の売上がコロナ禍前の80%程度の水準まで戻るのも難しい状況にある。
		タクシー運転手	・いまだに新型コロナウイルス新規感染者の状況に改善傾向はみられないことから、客は外出や旅行、出張を控えている。ただし、夜の会食などについては、少しずつ出掛けるようになってきている様子も垣間みえていることから、全体的な景気は今後も余り変わらない。
		タクシー運転手	・人の流れは徐々に上向いてきているが、タクシー業界にとってはまだまだ厳しい状況が続く。新型コロナウイルスが収束しない限り、どうしようもないため、今後も動向を注視していきたい。
		美容室（経営者）	・今後も余り大きな変化はないとみられるが、ガソリンや電気、ガスなどの光熱費、各種食品などの値上がりが見られるため、全体的に支出を控える雰囲気になっている。今後の売上に不安を感じている。
		美容室（経営者）	・当地においては、いまだに新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてこないことから、客の消費動向が上向きになるとは思えない。
		商店街（代表者）	・石油製品価格の高騰や食品の値上げなど、物価の上昇が影響することになるため、今後も景気は変わらない。
		商店街（代表者）	・ロシアの動向や世界経済の動きが決して良い方向に進まないこととみている客が多いため、今後の景気はやや悪くなる。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの影響に加えて、ロシア情勢が影響することで、今後の景気はやや悪くなる。
		スーパー（企画担当）	・ウクライナ情勢に端を発した地政学リスクの高まりにより、エネルギー、資源、原材料価格の高騰に拍車が掛かるのみならず、戦争のような状態の映像が頻りに流されることで消費者心理にマイナスの影響を及ぼすことが懸念される。これから行楽シーズンを迎えるなか、購買動向が弱気になるのではないかと心配している。
		スーパー（企画担当）	・エネルギーコストの上昇は当分続くとみられる。また、ロシアのウクライナ侵攻の影響により、輸入品が高騰し、夏頃からの値上げ要因になることを懸念している。
		スーパー（役員）	・食料品などの値上げに関する報道が余りにも多いことから、客の節約志向がますます強くなることを懸念している。
		スーパー（従業員）	・エネルギー価格、原材料価格の上昇が仕入原価、経費を押し上げており、今後もこの傾向が継続するとみられることから、景気はやや悪くなる。
		コンビニ（店長）	・物価が高騰しているため、客足がコンビニよりもスーパーやディスカウントストアに向いている。
		乗用車販売店（経営者）	・ロシアのウクライナ侵攻の影響によって、これから原材料の値上げ、半導体やアルミなどの材料不足が進むとみられるため、景気は一段と悪化することになる。
		その他専門店〔造花〕（店長）	・原材料の価格高騰による影響がみられ始めており、取引先のメーカーからは順次価格変更の案内が来ている。しかしながら、販売価格を値上げすることは難しく、仕入価格だけが上昇している状況にある。そのため、今後、利益が減少することが見込まれる。
		美容室（経営者）	・今後、新規感染者数が増えて、まん延防止等重点措置が再び適用されることが懸念される。また、最低賃金の引上げに伴う値上げも見込まれるため、今後の売上は減少することになる。ロシアのウクライナ侵攻が長引くことで値上げが一層進むことも懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスの収束、治療薬の普及、原油高を始めとした物価高の落ち着き、ロシアによるウクライナ侵攻の終結などがなければ、先行きの経済動向も厳しいと言わざるを得ない。
		住宅販売会社（経営者）	・ウクライナ情勢、上海のロックダウン、世界的なインフレなどの影響で、建築価格の先行きと建築資材の供給が見通せない状況にある。そのため、マンションデベロッパーが分譲マンションを市場に安定的に供給できるかどうか不透明な状況が今後も続くことになる。
	×	商店街（代表者）	・前年産の果実収穫量が非常に少なかった。新型コロナウイルスの影響が続くなか、ロシアのウクライナ侵攻による影響がこれから本格化することも懸念されるため、今後の景気はやや悪くなる。
	×	スーパー（店長）	・原油高、円安、商材の値上げ、ロシアのウクライナ侵攻などの影響が、今後ますます客の生活を直撃することになる。
	×	タクシー運転手	・今後も新型コロナウイルスの影響で外出や買物などの消費行動が抑制されるとみられるため、タクシー利用の回復は難しく、需要が低迷し続けることになる。
企業動向関連 (北海道)		-	-
		建設業（経営者）	・土木、建築共に受注が進み、工事の稼働率がかなり上がることになる。ただし、建築資材などの価格上昇と納期遅れが生じることに不安がある。
		建設業（役員）	・現場技術職員の配置もほぼ完了し、これから新規現場の着工が相次ぐことから、新年度前半は計画以上の出来高が積み上がると期待できる。ただし、賃上げや働き方改革に伴う人件費の増加、建設資材価格の高騰や品不足による調達ひっ迫が先々に向けての大きな懸念材料となっている。
		通信業（営業担当）	・新型コロナウイルスやウクライナ情勢など、今後の懸念材料はあるものの、当社の周囲では中長期的な計画や需要が想定よりもしっかりとしていることから、この先の景況感はやや良くなる。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数が再び増加傾向となっているが、経済活動が幅広く再開されつつある。ゴールデンウィーク後の感染拡大が懸念されるが、ウィズコロナが定着しつつあることから、ある程度の経済活動は継続することになる。
		食料品製造業（従業員）	・売上が増減するような要因、案件が見当たらないため、今後も景気は変わらない。
		輸送業（支店長）	・燃料価格が直近で低下する見込みがないため、現在の状態がしばらく続くことになる。
		金融業（従業員）	・円安の加速により物価が一層上昇する懸念が高まっており、個人消費の下押し圧力が強くなっている。観光などの持ち直しは見込まれるものの、ウクライナ情勢の影響による世界経済の下振れやコロナ禍の影響もあり、道内経済は横ばい圏で推移することになり、3か月後も変わらない。
		司法書士	・ロシアに対する経済制裁は制裁を科した側にも影響が出ている。また、まん延防止等重点措置こそ適用されていないが、新規感染者数が余り減少していないため、経済活動の制限も続くことになる。これらのことから、今後の景気回復は見通せず、現況のまま推移する。
		食料品製造業（従業員）	・3月に価格改定を行った影響で、販売量の減少が続くことが見込まれる。また、原材料の各品目において値上げが続いていることから、再度の価格改定を検討しており、その影響も懸念される。
		出版・印刷・同関連産業（従業員）	・景気が良くなるような要因がない。
		金属製品製造業（従業員）	・1～2月の住宅の新築確認申請が前年比で20～30%落ち込んでいる。半導体不足による製品の入荷遅れ、原油高、円安、ウクライナ情勢の長期化などのマイナス要因があることから、今後の景気はやや悪くなる。
		建設業（従業員）	・今後の案件数がみえてこないため、景気はやや悪い状態のまま現状維持で推移することになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		司法書士	・まん延防止等重点措置が解除されても、新規感染者数が大きく減っているわけではない。また、感染力が更に強い新型コロナウイルス変異株の感染者数が増加することになれば、再度、緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の適用が生じる可能性がある。今までもこうした状況を繰り返していることから、景気は再び下向きになるとみられる。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・具体的な影響はまだないが、先行き不安の話をかなり耳にすることから、今後の景気はやや悪くなる。取引先である水産加工業の会社はかなり悲観的であった。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・新型コロナウイルスの影響で中国のロックダウンが続いていることで商材が不足している。この先もロックダウンが続くことで輸入品がうまく入ってこなくなることが懸念される。
	x	-	-
雇用 関連 (北海道)		求人情報誌製作会社（編集者）	・新型コロナウイルス新規感染者数の状況にもよるが、潜在的な求人意欲は強いいため、今後も人材に対する需要は高まることになる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・ウクライナ情勢や新型コロナウイルス、物価高の状況にもよるが、今後の人流増加が期待できるため、サービス業全般で採用ニーズは高まるとみられる。北海道の観光地の求人も少しずつではあるが、前年を上回って推移している。
		職業安定所（職員）	・当地における月間有効求人数は12か月連続で前年を上回っており、全体的に回復の兆しがみられることから、今後の景気はやや良くなる。ただし、産業、業種によっては異なっており、今後の新型コロナウイルスの感染状況、経済活動、消費行動の状況によっては先を見通せない状態となる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・2024年新卒者に対するインターンシップなどの企画が多くなっていることから、企業が先行きに期待感を持っているようにみられる。これは景気に対する明るい材料である。
		人材派遣会社（社員）	・ウクライナ情勢や物価高の影響で消費環境は厳しさを増しているが、それに耐える企業体力を維持するため、企業における中途採用、特にスキルの高い人材へのニーズはしばらく高い状態で推移することになる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・行政の各種消費喚起策によって消費マインドが上向くことへの期待感もあるが、原材料の価格高騰や原油高がどのように影響してくるのか、新型コロナウイルスの新規感染者数がどのように推移するのかなど、今後に向けてのマイナス要因もある。景気や生活に大きな影響を与えることも考えられるため、今後の景気は不透明である。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・新型コロナウイルス新規感染者について、この1週間、当地では過去最高の感染者数を記録しており、予断を許さない状況が続いている。今後の景気は飽くまでも新型コロナウイルスの感染状況次第である。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は増加傾向にあるものの、雇用調整助成金の相談件数が増加傾向にある。また、新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻による経済的な影響を受ける可能性もあるため、今後の景気は変わらない。
		職業安定所（職員）	・日常生活に必要な様々な商材や光熱費が値上がりしており、その状況が今後も続くこととみられることから、景気はやや悪くなる。
	x	*	*

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東北)		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスに関する規制がなくなってきたことに加え、Go Toキャンペーン再開も取り沙汰されている。
		旅行代理店（従業員）	・発地・着地制限のないGo To Travelのような旅行支援施策が見込まれていることから、次月以降も引き続き上昇傾向が続き、夏季需要期の宿泊申込みが拡大するとみられている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス新規感染者数が減らないことに加えて地震の影響もあり、かなり悪い状態であるが、先行きについては、予約状況からみて多少の動きはあるので、今月よりは多少景気は上向きになるとみている。
		商店街（代表者）	・ゴールデンウィーク、花見などのイベント開催である程度の人出が予想される。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・客は戻りつつあり、健康関連商品の売行きも順調に推移している。さらに、今後暑くなってくれば、それに関連する商品が動いてくる。また、それにプラスして新型コロナウイルス関連の商品も順調に動いているため、良くなるとみている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・まだまだ都市部に比べると新型コロナウイルスに対する捉え方は厳しいが、それでもこのゴールデンウィークに数年ぶりに実施される祭りが無事に終われば、人の動きは良くなるのではないかと期待している。
		百貨店（営業担当）	・移動の制限がなく、イベント開催も予定されていることが、来街にはポジティブに影響するとみている。さらに、ウィズコロナの定着が進むと想定している。
		百貨店（売場担当）	・3回目のワクチン接種が進みつつあり、そろそろ2回目終了時と同様の状況まで改善するのではないかと考える。
		百貨店（催事担当）	・行政主導のイベントも再開している。まだ予断を許さないものの、人の動きが増え、需要が活発になると考える。
		コンビニ（経営者）	・以前から客単価や買上点数は堅調に推移していたので、それに新型コロナウイルスの規制緩和が加われば、夜間や休日の人出の増加が見込め、当店の立地条件からして景気は更に上向くとみている。
		コンビニ（経営者）	・コロナ禍ではあるが人の動きは活発になっており、当面は販売微増の状況が続くと推測される。
		コンビニ（経営者）	・3回目のワクチン接種が進んでいることと季節の変化により、人の動きが良くなることが予想される。
		コンビニ（エリア担当）	・盛夏に向けて人流増加が期待できる。
		コンビニ（エリア担当）	・今年は祭りも通常どおり開催される方向で動いている。観光関係の人の移動が本格化すれば、飲食店や小売店の売上に直結するため、売上の伸びが期待できる。
		衣料品専門店（経営者）	・ウィズコロナが進む中で、イベント等は従来どおり行われるケースが多くなり、少しずつ景気回復していくと予測する。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルス対策の自粛モードから、経済を回していこうという動きに変わってきている。スーツを着る機会やビジネスシーンにおける出張などが増えてくると、我々の業界へのニーズも増えてくると予測している。
		衣料品専門店（店長）	・徐々にではあるが足元商圏の客の需要が戻ってきている反面、物価高による消費の節約が今後の懸念材料になっている。
		家電量販店（従業員）	・新型コロナウイルスに関する規制が少しずつ緩和されてきているため、来客数の増加が見込まれる。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・この先、新型コロナウイルスの緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出なければ現状維持、若しくはやや持ち直す動きになると予想している。欧米のように新型コロナウイルスの警戒レベルの判断基準が下がることを切望している。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（経営者）	・コンサートやスポーツ観戦などは大分復活しているので、それらがきっかけとなり人々が大きく動き出す日も近いのではないかと予想している。人が動けば当然経済も回り出すので期待している。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・少しずつ前進していかなければこの先不安しかない。客も感染防止対策をしながら動き出すため、良くなるとみている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・感染状況にもよるが、ゴールデンウィークに向けて、来客数の動き、人の動きが活発化してくるとみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・既存の県民割の延長と、Go Toキャンペーンのようなキャンペーンが再開される予定がある。
		観光型旅館（経営者）	・自粛ストレスもあるため、気候も良くなり新型コロナウイルスの感染対策を気にしながら動き出す人が増えてくるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型旅館（スタッフ）	・世界的にウィズコロナが進み、マスクを外すことやイベントが開催されることが多くなっていくとみている。
		テーマパーク（職員）	・夏に向かって新型コロナウイルスの感染が収束に向かい、外に出る人も多くなると考える。物価が上がっているなか海外にはまだまだ足が伸びないので、国内旅行需要、近県への旅行が多くなるのではないかとみている。
		観光名所（職員）	・新型コロナウイルスの感染状況に関係なく個人客が増えている。また、客が増えるに従って商品も動くようになり、メーカー側でも作ってくれるものが増え、良い方向に向かっている。これまではあるものを売るという商売であったが、これからはやっと売れるものを売るという売場ができていく。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・出版社の新刊点数抑制は続いており、何もしなければ店頭の販売量は変わらないため、現在、付加価値感を意識した売場作りを行っている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・ゴールデンウィーク中は人の流れが非常に多くなるので、2週間後に新規感染者数の増加がどの程度になるのか、その影響がどう出てくるのか分からず、先行きが見通せない。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着かない限り、売上の増加は見込めない。
		百貨店（経営者）	・大きな変化はないとみるが、この先、国内外の様々な環境変化が予測され、物価高によるモノ消費の減少と、新規感染者数の減少などによるコト消費の増加が顕著になり、百貨店の来客数にはマイナスにはたらくことが懸念される。
		スーパー（経営者）	・5月は値上げの商品が更に増え、電気、水道、ガソリン等、インフラコスト単価の高騰が続く。それにより可処分所得は減り、消費環境には逆風だが、食品消費はもうしばらく同じ推移が続くとみている。
		スーパー（経営者）	・ほとんど全ての商品について、価格が上がっているか、今後上がる予定がある。1品単価は上がっているが、買上点数が伸び悩んでいる。
		スーパー（店長）	・商品の相次ぐ値上がりや円安の影響で買い控えが続いている。大型連休で金を使うことが想定されるので、節約傾向に拍車がかかりそうである。
		スーパー（営業担当）	・先行きが見えないロシアのウクライナ侵攻絡みの原油高による物価上昇や、相次ぐ商品の値上げ等で、客の購買は更に慎重になるとみている。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスオミクロン株のこれまでの主流とは別系統が増えてきて、今度はまた別系統が出始めてきているので、その影響がこれからどの程度出てくるかが問題である。ワクチン接種が100%近くまでいくなかで鍵とみている。
		コンビニ（経営者）	・イベント等が開催されて、これまで自粛していた人も外出の機会が増えてきそうである。
		コンビニ（経営者）	・全ては新型コロナウイルス次第である。リモートワークや自炊回帰が進んでいるなかで、新型コロナウイルス発生前の売上に戻ることはないかとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・ウクライナ情勢による物価高騰が止まらなるとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・地元の祭りも徐々に復活しているが、新型コロナウイルスを気にしながら楽しむことになるため、売上増加には結び付かない。
		衣料品専門店（経営者）	・ウィズコロナという点では良い方向に向かっていくとみている。しかし、ウクライナ情勢により物価が上昇し、店頭で扱っている商品も販売価格が上がるため、購買意欲に影響する懸念がある。
		衣料品専門店（店長）	・これからも新型コロナウイルス感染症は終息しないため、今後も感染を予防しながらの生活には変わらず、大きく市場が活性化されることはないかと予想している。
		衣料品専門店（総務担当）	・景気回復の兆しが見えない。他業種の人の話でも同様である。
		乗用車販売店（従業員）	・半導体不足の影響による車の納期遅延が1～2か月で解決するとは思えない。
		乗用車販売店（従業員）	・慢性的な半導体不足が解消しなければ変わらないとみている。
		自動車備品販売店（経営者）	・コロナ禍の生活に慣れてしまっているところがあるので、ヒト・モノの往来がもう少し活性化しないと状況は変わらない。連休後の新規感染者数と国の対応による。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住関連専門店（経営者）	・当店では口コミや紹介による売上が多いので、人の動きは大分出てきているが、商品の値上がりの方が気になっている。景気の上昇にはもう少し時間が掛かるとみている。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	・県内の新型コロナウイルス新規感染者数は高止まりしており、終息がみえない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・夏に向けて配達灯油の販売量は減る。また、店頭ガソリン価格の高騰により、販売量が伸び悩んでいる。
		高級レストラン（経営者）	・気候も良くなってきており、新型コロナウイルスも少しずつ落ち着きを見せているので、少し良くなってくのではないかとみている。
		高級レストラン（スタッフ）	・4～5月の来客数や予約数が増加している。今年度は4月若しくは5月の数字がベースとなって推移していくとみている。新型コロナウイルス騒動が終わり、また別の問題が出てくるとみている。
		高級レストラン（支配人）	・Go To Eatキャンペーンの食事券のようなものが出れば集客は上がるが、それがなければ変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・いろいろな面で不安定な状況が続いており、景気全体が良くなっていくという雰囲気がない。当面は来客数の大幅な増加が見通せない厳しい状況が続くと考えざるを得ない。
		一般レストラン（経営者）	・政府や行政が幾ら大丈夫といっても、やはり新型コロナウイルスに感染してはいけないという気持ちが強く、外に出ることを控えているのが現状である。これは行政と民間で意識の相違が多少なりともあるということだとみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・光熱費などの値上がりが収益を圧迫している。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染状況とウクライナとロシアによる戦争が終息に向かわない限り、景気は上昇と下降を繰り返すとみている。
		タクシー運転手	・3月16日の地震の損害調査は6月まで見込まれているが、調査件数が少なくなっていくことを考えると、特需は5月末までと予想している。それ以降、景気は下降するとみている。
		通信会社（経営者）	・新たなサービスメニューとして格安の無線インターネットの提供を始めるため、マンション、アパート居住者の新規獲得を見込んでいる。それにより若干のプラスを期待している。同業他社との競争も厳しくなっているため、大きな加入者の純増はないが、契約者数のトータルでは、現状維持が続くとみている。
		通信会社（営業担当）	・良くなる材料に乏しい。新型コロナウイルスやウクライナ情勢、円安により更に悪くなる可能性もある。
		通信会社（営業担当）	・ガソリン価格高騰と新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くまでは先がみえない。
		遊園地（経営者）	・新型コロナウイルスやウクライナ情勢、ガソリン・原材料の価格上昇が家計にどう影響するか分からず、楽観できない。
		競艇場（職員）	・イベントによる販売促進に力を入れているため来客数は増えているが、客単価が減っているため売上増加には至っていない。今後も売上は変わらないとみている。
		美容室（経営者）	・ゴールデンウィークで人が動き、新型コロナウイルス新規感染者数が増える可能性もあるので、まだ一気に良くなる状況ではない。
		美容室（経営者）	・固定客が決まっており、新規客はなかなか訪れない。
		設計事務所（経営者）	・公共工事については3月までに設計納品した案件の工事入札が控えているが、物価高や人件費高による不調や設計見直しが想定される。見直ししている間にも更に高騰が続くことが予想される。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・エアコンの早めの交換についての問合せが増えてくると予想している。屋外の塗装、外溝工事も増えてくるとみている。
		その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	・景気が上向きになる要因が見当たらないため、悪い状況が続くことを予想している。
		商店街（代表者）	・前年まで中止が続いていたイベント等が再開する見込みであるが、新型コロナウイルス感染の収束のめどが立っていない状況であり、景気回復には時間を要する。
		商店街（代表者）	・遠い場所の社会情勢が身近な景気に悪影響を及ぼす。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスとウクライナ情勢次第である。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・ウクライナ情勢の影響によるエネルギー価格及び物価の上昇が家計を直撃し、不要不急の消費を控えるようになる。
		スーパー（店長）	・値上げラッシュの影響が販売商品だけでなく、資材・原材料などにも大きく出始めている。ゆえに利益が出しにくい環境に変わりつつある。
		スーパー（店長）	・人は新型コロナウイルス発生前のような日常を取り戻したいと思っているのではないかとみている。外出する機会が増え、スーパーへの足が遠のくという傾向は続くともみている。
		スーパー（企画担当）	・いまだ新型コロナウイルス感染症は収束していないが、食品小売業としては、外食の需要も高まっているし食品の値上げもあって、2～3か月後には販売量も下がるのではないかとみている。
		スーパー（営業担当）	・円安の進行、ウクライナ情勢の不安から、緊縮傾向は強くなるのではないかとみている。
		コンビニ（経営者）	・土日の客は前年よりも戻ってきているが、新型コロナウイルス発生前の5割程度なので、この先もどうなるか分からない状況である。
		コンビニ（店長）	・ウクライナ情勢の先行きが不透明だが、ひどくなっていく一方なのではないかとみている。円安も進み、インフレの方向に針が振れているので、先行きに対する消費者の不安はかなり大きくなっている。景気は冷え込み、この先2～3か月はかなり厳しくなるのではないかとみている。
		家電量販店（店長）	・夏用の商品は気温の変化に影響される。それ以外の商品については、ガソリンや食品の価格高騰、円安を客は警戒しており、消費動向はやや慎重になってきているようである。
		乗用車販売店（従業員）	・中国のロックダウンが解除され部品供給が正常化するとよいが、現状のまま推移していくと確実に売上が減少する。
		乗用車販売店（従業員）	・ウクライナ情勢や円安、原油価格の高騰など懸念材料がそろっている。まだまだ半導体不足も解消されない。悪くなる条件がそろっている。
		乗用車販売店（店長）	・ここ最近では、下取りが入ってこないことによる中古車の商品不足がかなり深刻である。オークション相場も不自然な値上がりをしており、先行き不透明な状態である。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・販売価格が高騰したままで推移し、販売量は今以上に落ち込むとみている。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況による。当地域での新規感染者数は高止まりが続いているので、それが収まらないと新型コロナウイルス発生前の状況には戻らない。
		タクシー運転手	・現在、3月の地震によりタクシー業界は活況を呈しているが、新型コロナウイルスによるマインドの冷え込みは日常生活に定着しつつあるため、それがどの程度影響してくるのか、今の地震の損害調査の仕事量が減ったときにどうなるのかを危惧している。
		通信会社（営業担当）	・物価上昇や、石油製品関連の間接税負担等、目に見えないところの負担が徐々に発生するとみている。輸入品の品薄も想定されるため、やや悪くなるとみている。
		通信会社（営業担当）	・原油価格の高騰に伴う物価の上昇が尾を引き、今後、景気は悪くなる方向へ向かうとみている。
		美容室（経営者）	・ウクライナ情勢の絡みでももろもろの物価が上がっており、それに対応するため、美容院についても回数を減らしたり期間を伸ばしたりすることが予想される。先行きはウクライナ情勢と新型コロナウイルスの感染状況で変わってくる。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症は子供を中心に拡大傾向にあるが、それでも大型連休を前にして、若干ではあるが行動規制の意識が緩和されつつあるようにみえる。前年や前々年と同様に、大型連休明けに急激な感染拡大が起こり、再び、誰もいない、何も売れない状況になることが懸念される。
		住宅販売会社（経営者）	・材料供給に時間を要し、照明器具すら納期が不明である。受注できても完成時期及び引渡価格の確定が難しく、資金の回転が遅い。
	×	スーパー（経営者）	・小麦粉を始めとした原材料価格の高騰やガソリンを始めとしたインフラ支出の増加により、節約志向がますます高まることと予想される。
	×	スーパー（経営者）	・ロシアのウクライナ侵攻によって更にインフレが進み、可処分所得が伸びない状況では、購買意欲が上がってこない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	住関連専門店（経営者）	・客先とはウィズコロナでの対応になってきているが、オーダーメイド関係の仕事は新規物件が増えていないため、なかなか厳しくなっている。
	×	一般レストラン（経営者）	・インバウンドが滞るような政策を根本から見直していかなければならないのではないかと。感染するのを気にしなくなった人たちが平気で旅行をしたり、派手に周遊したりしており、田舎に新型コロナウイルスを持ち込んでいるため、エリア内では地雷を埋め込まれた気になり、仕事以外では外に出歩かなくなってしまっている。これは相当に深刻な問題で、都会と田舎の感覚の違いも含めて、一時しのぎではない中身のあるウィズコロナを国が指定していかなないと、経済の復興は無理である。
企業動向関連 (東北)		*	*
		食料品製造業（経営者）	・ゴールデンウィークの新幹線の予約状況は前年比約200%になっており、土産需要の拡大に期待している。しかし、ゴールデンウィーク後の感染再拡大の不安はある。再拡大となればまた土産需要は大きく減退する。
		食料品製造業（製造担当）	・交通網も滞っていた部分が解消され、イベント開催も新型コロナウイルス発生前に戻ってきているため、人流や来客数が増えるとみている。ただし、それによって新型コロナウイルスに関する各種規制を繰り返す懸念もある。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・今まで止まっていた案件にプラスして、新規の引き合いも増えてきており、2～3か月先までの引き合いも出始めてきている。
		建設業（従業員）	・春以降、工事が増加する。今年も例年同様の工事量が見込まれ、冬場の落ち込みから改善している。
		公認会計士	・新型コロナウイルスの極端な感染拡大等がなければ、小売、サービス、飲食業関係は売上や利益等の業績が今後も少しずつ改善していくとみている。建設業等は悪くなる要素が今のところないので、全体としての景気はやや良くなると判断している。
		コピーサービス業（従業員）	・納期遅延の商品が前倒して早まる知らせが届いているものが出てきている。若干だがその知らせに期待をしている。また、コロナ禍だから出てきた商材及びニーズでこれから期待できるものもあり、現在その仕込みをしている。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の推移次第だが、このままいけば外食需要も回復し、県内の交流人口も増えるとみている。
		農林水産業（従業者）	・前年の米価の下落に対し、ナラシ対策が発動され、損失がある程度補填される可能性がある。
		食料品製造業（営業担当）	・原材料等コストアップによる価格改定など、良くなる要素がない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・イベント開催に対する慎重さがみられる。
		金属製品製造業（経営者）	・客の話から増産の雰囲気はあるものの、ウクライナ情勢や円安の問題で先行きは不透明である。
		建設業（従業員）	・ウクライナ情勢等の要因により2～3か月先は全く予測できないが、現時点において直ちに回復基調に向かう要因は見当たらない。
		通信業（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響を踏まえつつ、客のつなぎ止めに奔走するしかない。
		広告業協会（役員）	・原油高、物価上昇、円安など経済不安が高まっているなか、アフターコロナを見据えた戦略を下方修正せざるを得ず、広告宣伝費が縮小傾向になるのではないかと心配している。
		司法書士	・不動産取引件数は例年並みで推移しており、コロナ禍でも現状維持が期待できる。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・この先の景気が良くなるような要因が見当たらない。また、中小企業では給料が下がらなければよいという状況が続いていて、政府が言うような賃上げなどは難しいため、今後も現状と変わらないとみている。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・ガソリン価格の高値が続いており、車による遠出をちゅうちょする声が聞こえてきている。エネルギー価格のみならず食料品などの値上げなどから、できるだけ家計出費を抑えようとの意識が根底にあるようにみえる。電気料金の価格上昇も極めて迷惑な話である。愚策たる再生可能エネルギーの固定価格買取制度をやめることはできないのであろうか。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他企業〔協同組合〕（職員）	・受注案件・見積依頼はそれなりにあるが、依然として原材料等の価格の上昇及び部品等供給抑制が続いており、生産管理、納期管理に苦慮している。
		農林水産業（従業者）	・果物の開花がそれまでに早く前年と比べて約10日遅いため、特にももの最盛期が遅れ、販売単価が安くなるのではないかと心配している。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・業種柄、既存の業務のみでは生き残りのサバイバルには勝てず、新たな業務への取り組み、人員削減を含むコスト削減に取り組まざるを得ない状況にある。
		窯業・土石製品製造業（役員）	・原材料の価格高騰に伴う製品価格の値上げが浸透するかどうかがポイントとなる。出荷数量の落ち込みは依然続いており、国内外とも景気が上向き要素が全く見当たらない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・エネルギー関連の客は全般的に、2021年度決算の業績が2020年度より悪化している。
		輸送業（経営者）	・4月に入ったら荷動き自体が余り良くない。ウクライナ情勢、新型コロナウイルス、円安などの影響で、生活必需品等の値上がりも拡大していることも要因の1つとみる。業界においては燃料価格はもちろんのこと、タイヤや車両価格が軒並み高騰し、景況感の足を引っ張っている。
		通信業（営業担当）	・例年、年度初めは受注量が減る傾向がある。
		金融業（広報担当）	・コスト高の状況は当面続くものと見込まれる。また、新型コロナウイルス第7波の到来で経済が止まることはないと思うが、各業種とも少なからず影響を受けてしまうのは確実とみている。
		広告代理店（経営者）	・このままウクライナ問題が解決しなければ、インフレが進み景気がより悪くなるおそれがある。
		経営コンサルタント	・新型コロナウイルス、ウクライナ情勢、円安の3重苦が経済活動、消費活動に大きく影響する。
	x	*	*
雇用関連		-	-
(東北)		アウトソーシング企業（経営者）	・新型コロナウイルスも落ち着いてきたので、景気も上向きになるとみている。
		新聞社〔求人広告〕（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で2年連続中止となっていた祭りが開催されるほか、マラソン等のイベントも復活し始めている。
		職業安定所（職員）	・物価高は続くものの、新型コロナウイルスの影響で中止となっていた行事の開催と旅行や観光の増加により、消費・購買意欲は上向きとみている。
		職業安定所（職員）	・求人数が求職者数を上回っている状態が続いている。
		民間職業紹介機関（職員）	・ゴールデンウィーク明けからも人材を必要としているという企業からの問合せもきている。
		人材派遣会社（経営者）	・ウクライナ情勢の影響で原油価格や仕入価格が高騰している。また、中国でのロックダウンにより部品などが届かなくなっていることもあり、回復基調にあった県内中小企業の景気は先行き不透明になっている。
		人材派遣会社（社員）	・円安や原料高の影響が、製造業を中心に採用予定数や採用要件の引上げなどに影響する可能性がある。
		人材派遣会社（社員）	・ゴールデンウィークで一次的に回復へと向かうが、新型コロナウイルス新規感染者数が再び増え、鈍化傾向に戻ると想定している。
		人材派遣会社（社員）	・ウクライナ情勢を注視しつつ、新型コロナウイルスの感染が常態化しているなかでの経済正常化が進むとみている。
		新聞社〔求人広告〕（経営者）	・ゴールデンウィーク明けには、再び新型コロナウイルスの感染状況が悪化することが予想される上、ウクライナ情勢の長期化による不安に様々な物価上昇も伴い、消費マインドは高まりようがない。しばらく様子見て停滞感が続くかとみている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数はなかなか減少に向かわないが、3年ぶりに開催されるイベントも出てきており、広告活動も少しずつ回復傾向になることを期待している。ロシアのウクライナ侵攻が広告に影響しないか注視している。
		その他雇用の動向を把握できる者	・労働力人口が減少しているため、この傾向は継続するとみている。
		職業安定所（職員）	・コロナ禍に加え、ウクライナ情勢による燃料や資材、食料等の価格高騰や円安等、不安要素が大きくなるばかりで、景気回復の好材料が見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		学校〔専門学校〕	・新型コロナウイルス感染症は各分野で経験を積み対策が講じられるようになり、対応力が付いてきている。今後はウクライナ情勢の影響が各分野で見られるとみている。
	x	-	-

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)		百貨店（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況が横ばい傾向になれば、人流は増加し、店舗への来客数も増加する。後追いで売上増加が続くと想定される。
		コンビニ（店長）	・新年度は学校や会社も通常どおり始まっているので、景気は良くなる。
		都市型ホテル（支配人）	・宿泊の稼働は、新型コロナウイルス前に戻りつつある。法人の会合等は、ようやく5割を超えたくらいであるものの、少しずつ増加している。
		百貨店（店長）	・売上、来客数共に、徐々にではあるものの回復の兆しはある。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていけば、Go Toキャンペーン等の経済対策で、少しは良くなる可能性があるかと期待している。
		コンビニ（経営者）	・企業のリモート勤務は継続状態で、来客数は新型コロナウイルス前に戻っていない。しかし、物流トラックの交通量は確実に増えているという実感はある。当店はリニューアルして商材構成も変化させている。時代についていき、売上を伸ばしたいと考えている。
		コンビニ（経営者）	・身の回りの状況に大きな変化は起きないと思うので、今までよりはやや良くなる。
		衣料品専門店（統括）	・通常なら今の時期は、これから夏に向けていろいろな祭りやイベント等がある。新型コロナウイルスも多少は収束に向かっているような気がするので、これからまた、いろいろな行事が復活するのではないかと。そうなれば、やや良くなってくる。
		家電量販店（店員）	・新型コロナウイルスの終息により、消費行動が健全化していくようになれば、景気は向上するのではないかと。
		乗用車販売店（販売担当）	・今月～来月にかけてゴールデンウィークで、当地は観光地のため、かなりの人出が予想される。このまま新型コロナウイルスの感染者が多くなければ良いと思っている。感染状況が落ち着いた状態で推移していけば、2～3か月前とは比べ物にならないほど人出はあると思うので、景気が良くなる感じはする。
		自動車備品販売店（経営者）	・急激に良くなる理由はない。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきて、少し良くなると思うが、新型コロナウイルスに対する考え方が定着したせいか、余り、活発、活況に物事をとらえて動くということは感じられない。今までの延長線で物事が流れている気がする。その他、他国の問題もあって、何となく警戒している雰囲気があり、盛り上がりには欠ける。これからはそれほど販売量等も増えることは期待できない。
		一般レストラン（経営者）	・行楽シーズンなので、少しは良くなると思うが、当店は値上げをするので、常連客の反応が気になるところである。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊稼働やレストラン部門は、いずれも2018年比で110%、95%と売上に改善が見られる。しかし、宴会売上は2018年比43%と依然厳しい状況である。地域柄もあるのかもしれないが、官公庁、金融関係が飲食を伴う集まりを解禁していないため、関係団体の動きも鈍く、売上回復の足を引っ張っている。
	都市型ホテル（総支配人）	・例年ゴールデンウィーク前後は、かなり動きがあるので、5月中旬～6月にかけて、今後どのように動いていくかによって違ってくる。宿泊は、安定して予約が入ってきている。料飲部門も、ある程度動いてくれることを期待して、やや良くなる。	
	旅行代理店（経営者）	・ゴールデンウィークや夏休みが控えており、旅行需要の回復が見込まれる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（所長）	・5月末まで県民割が延長され、新型コロナウイルスの新たな感染拡大が起こらない限り、爆発的とは言えないだろうが、じわじわと持ち直していくのではないかと。その後のGo To Travelキャンペーン再開に期待している。
		旅行代理店（従業員）	・ゴールデンウィーク明けに、新型コロナウイルスの新規感染者が増えなければ、更に期待できる。
		タクシー（経営者）	・全体的に動きが良くなってきたので、この先も良くなると思っている。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス新規感染数が下がってきたことで、外出機会も増え、レジャー等は回復傾向にある。
		テーマパーク（職員）	・徐々に来園者が増加している。学生団体についても、例年どおりの時期に来園や予約が入ってきていることから、良くなる傾向にある。
		商店街（代表者）	・値上がりが続くなか、小売価格へ転嫁せざるを得なくなり、一段と財布のひもが固い状況は続く。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・ウクライナの問題がなかなか落ち着かない。新しい新型コロナウイルスワクチンの活用で、新規感染者が少なくなってくれば、自然と人の動きも出てくる。当分の間は変わらないのではないかと。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・Withコロナの生活様式を模索する動きがあり、旅行に対する意識も変わりつつあるのではないかと、客を見ていて感じることもある。修学旅行や遠足等の学生団体旅行だけではなく、一般団体旅行も復活しつつある。しかし、旅行先で土産を買ったりするまでには至っておらず、引き続き、我慢が必要かと思っている。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・新型コロナウイルス新規感染者数が減らない現状では、まん延防止等重点措置があってもなくても、夜の人出や外出等は増えることはない。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数は高水準で推移しているものの、人流は拡大傾向にあっても売上も回復基調にある。ただし、依然として先行き不透明であることに変わりはない。また、エネルギー価格や食料品等の物価高が消費行動をより慎重にさせる。
		家電量販店（営業担当）	・ロシアでの戦争が終息しなければ、原材料の価格高騰が続き厳しい状況だと思う。現在は、1年前の契約金額の資材で仕事ができているが、来月でそれも在庫切れとなる。今後の発注では見積価格は150%アップで、入荷の確約もできない状況である。
		乗用車販売店（経営者）	・当地域の自動車メーカーは、部品メーカーが中国や東南アジア諸国にあり、各地のロックダウン等で部品が入荷しないため、確固たる生産計画が立てにくく、活気が今一つである。また、大規模小売店への来客数も今までほどではないようである。
		住関連専門店（仕入担当）	・新型コロナウイルス、ウクライナ情勢、物価上昇の連鎖といった3つのネガティブ要素は当分継続すると思われる。消費に関して楽観できる要因はなく、厳しい状況が続くことを前提に考えざるを得ない。
		その他専門店〔靴小売業〕（経営者）	・今一番の問題は、商材入荷が不安定なままだということである。客の動きが少しずつ出てきているので、商材入荷を待っている。靴は中国での生産が多く、新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンのため、輸出港のコンテナが動かないことが大きな原因で、入荷がいつになるか不明な状態である。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・まん延防止等重点措置の解除から、若干上向き傾向にはある。ただし、燃料や原料価格の値上がりやウクライナ情勢の長期化など足止め要素が多く、様子見期間はまだまだ続く。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・社会情勢にもよるが、現状のままと予想する。
		観光型ホテル（経営者）	・変わらないと回答したが、夏前に感染拡大が来なければ変わらないが、来れば悪くなる。ただし、新型コロナウイルスのワクチン接種率の上昇や経口薬販売がなされれば、良くなるのではないかと。
		タクシー運転手	・まだしばらくは、今のような状況が続く気がする。
		通信会社（総務担当）	・新商材が出るものの、需要を爆発的に喚起するほどには期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		競輪場（職員）	・新型コロナウイルス新規感染者数が高止まりの状態であることや世界情勢が不安定で物価上昇が予想される等、今後については不透明な状況である。
		美容室（経営者）	・自国内のGo To EatやGo To Travelキャンペーンでは一過性で、円安メリットを享受できない。海外からの観光客を受け入れる体制作りはできているのだろうか。
		設計事務所（所長）	・行動制限が解除され、にぎわいは戻りつつあるが、再び新型コロナウイルス新規感染者数が増加しており、まだ先が見えない状況である。
		設計事務所（所長）	・価格高騰の状況は、しばらく続く。
		住宅販売会社（経営者）	・微増ながら状況は改善されつつあるので、このまま新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば改善されると思うが、新たな変異株がまん延すれば、変わらない。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・材料価格の高騰により再見積りをしなければならぬケースが目立っている。売る側も買う側も決めきれない場面が増えている。今後も同様の状況が想定され、何らかの対応を考えなくてはならないと思っている。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・物価上昇による懸念があり、やや悪くなる。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の高止まりや原材料価格の高騰、売上の伸長度の低さ等を鑑みても、景気が改善していく方向性にはないのが、正直なところである。
		スーパー（総務担当）	・物価上昇により、悪化が懸念される。
		スーパー（商品部担当）	・生鮮、加工食品の値上げや品薄状況が続く、単価上昇傾向にある。消費者の動向や購入頻度、客単価の推移は良い方向へと進んでいるとはいえない。しばらくは前年割れが続くのではないかと。
		コンビニ（店長）	・商材の販売価格が次々と上昇しており、これがマイナス要因となってくる。
		衣料品専門店（販売担当）	・もう2年以上同じような状態で、規制を強めたり弱めたりしながら進んでいる。ただ、本当にこの辺りで、政治判断がきちっとされない限りは、客は動かない。専門家としっかり意見のすり合わせをした上で、社会的にどういう状況が良いのかということ、国民全体が納得できるような説明がされない限りは、好転し、人の流れができる状況は生まれてこない。その辺りだけをきちんとしてほしいという期待はある。
		乗用車販売店（従業員）	・新車生産にかかる半導体不足が解消されていないため、多くの車種に納期遅延の影響が発生している。販売車両不足の解消は6月ぐらいまでかかる状況で、受注活動も影響を受けている。各種値上げで消費が落ち込む心配である。
		住関連専門店（店長）	・ウクライナ情勢による諸物価の値上げが発生し、今後もしばらくは値上げに歯止めの利かない状況が続くため、やや悪くなる。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・事業所給食部門は人材確保が厳しく、求人強化や人件費引上げ等の対応を取らざるを得ない状況が続いている。食材費等も価格上昇が続く一方、取引条件の見直しは、クライアントに相談には応じてもらっているものの、コストアップが先行する形となり、収支面での厳しい状況が当面は続いていく。
		通信会社（社員）	・身近では、エネルギー資源や生活用品、飲食物等の物価が上昇しており、買い控えなど経済にとってマイナスの影響があるのではないかとみている。今後、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が再発出された場合、マイナス成長に追い打ちがかかるのではないかと。
		通信会社（局長）	・燃料価格高騰や半導体不足の影響を受けて、機器の納入遅れが想定される。納入が遅れると、サービスが開始できない。
		ゴルフ場（従業員）	・物価上昇で、やや悪くなる。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・原材料価格の値上がり、仕入部材全般に広まってきたので、悪化する一方である。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・全く先が読めない世界情勢になったので、原材料価格の高騰、部品不足、並びに円安、これらが絡んでいたのでは、この国は本当にお先真っ暗である。どうか対策を打ってほしい。
	×	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で、客が全然来ない。特に、夜は駄目である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	一般レストラン（経営者）	・ガソリン、水道光熱費、食材、その他ほとんどの物価が上昇して、家計を苦しめるのではないかと懸念している。景気が良くなる要素が見当たらない。
	×	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・今後2～3か月先を考えても、為替が円高に進む要素はなく、物価上昇に対して消費者の給与が上がるとは到底考えられない。
	×	都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの収束がみえてこない。他国のようにマスク着用基準を明確にしてもらいたい。
	×	通信会社（経営者）	・経済を下支えするための金融緩和政策で、多くの国民が苦しんでいる。その結果、より安い物を購入しようとするデフレマインドを一層あおることになっているのではないかと。仕入コスト上昇で利益は逼迫、商材納期は遅延し、値上げをすれば客は逃げる。この上、更に指値オペで円安誘導とは余りの無策に落胆しかない。
	×	通信会社（経営者）	・売上が回復しない上に、そろそろ新型コロナウイルス関連融資の返済が始まる。個人、零細、中小企業からの発注はまだしばらくは期待できない。
	×	美容室（経営者）	・物価の上昇がよく報道されているが、実感もしている。食料品は食べないわけにはいかないので購入するし、光熱費も同様である。消費者の立場になれば当然だが、こうした状況では美容室への来店頻度は下がっていく。東京の美容室とは比較できない状況である。
企業動向関連 (北関東)	-	-	-
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・今が出荷のピークである。今後はそれほどではないと思う。ただ、今年は新型コロナウイルスの影響で、巣籠もり需要のせいか、出荷が多いように感じている。
		金属製品製造業（経営者）	・得意先でも、皆、先がどうなるか分からないので、不安に思っている。新型コロナウイルスとウクライナの件も原因にはなっているだろうが、当社の仕事と直接関係があるかといわれても、はっきりとはしないので、答えようがない。何となく仕事量が少なくなって、良くなっていないということだけは確かである。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・5月はゴールデンウィークで9日間休みがあるので、若干落ちるとみている。5～6月は良くなる要素はないようである。取引先も全て同じではないか。
		その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・しばらくはまだ、新型コロナウイルスの影響が残ると考える。
		輸送業（営業担当）	・ある程度は新型コロナウイルスの感染状況が収まってきているので、特に、レジャー、バーベキュー用品、好天による夏物家電のエアコンや扇風機等の物量は、前年並みを確保予定である。しかし、燃料、原油価格の高騰や協力会社の車両不足により、不安が残る状況である。
		広告代理店（営業担当）	・相変わらず、県内の新型コロナウイルス新規感染者数は高止まりのままで、経済活動の鈍化は、当分変わらない。
		経営コンサルタント	・新型コロナウイルス禍が収束傾向をみせているなかで、ウクライナ戦争が世界中の大きな懸念材料となってきている。このことに引きずられた世界経済の動向が、原料、資材、燃料費等の値上がりとなり、コストアップに悩まされる中小製造業が広範に増えてくると思われる。
		司法書士	・安定しているというか落ち着いた街なので、急に良くなることはない。ほとんど変わらずにこのまま行くのではないかと。
		社会保険労務士	・中小企業の賃金は、物価上昇分ほど伸びないため、個人消費は低迷する。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・公共工事の予算が、減額されている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・当社主力の自動車部品で、2～3か月先の内示も下方修正の情報が届いている。また、中国でのロックダウンの影響は広範囲に及び、長引くことは確実である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・当社の取引先は多岐にわたるが、今まで比較的受注量が減らなかった食品関連の仕事がマイナス傾向になってきたため、やや悪くなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・取引先から「今後段々、注文数が減っていくかもしれないので、ちょっと厳しいかもしれない」といわれている。今のところ、前年と同じかやや低い状態で動いているが、今後はやや厳しい状態になるかもしれない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（総務担当）	・工事が増えてくる気配がなく、先行きが非常に怖い。
		不動産業（管理担当）	・建物オーナーから「経費削減のため清掃等の間隔を伸ばして年間の回数を減らしたい」といった後ろ向きの相談が多く来ている。早いところでは4月から売上が減少する見込みである。
	x	建設業（開発担当）	・今期の公共工事発注は前年比15%減と、長引く新型コロナウイルス禍の影響を受けている。当社受注も前期比10%減で、今期決算も厳しい状況である。建設業は10年来の不況業種になっていて、社員の高齢化が進み、ここ数年は新入社員の採用はできず、いろいろと問題を抱えている。この先、今期決算が心配である。
雇用 関連 (北関東)		-	-
		人材派遣会社（経営者）	・新型コロナウイルス禍とはいえ、ゴールデンウィークで食料品、衣料、行楽地での宿泊、交通手段等でかなり動きが、高まっていたようである。住宅関連も、外壁等の改修も多少みられており、天候次第だと思うが、3か月先は期待を持ってやや良くなる。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・いろいろな場面で経済活動が活発化しており、今後の学校活動も多岐にわたって実施する方向で検討している。
		人材派遣会社（社員）	・今後、電気、ガス、水道等のインフラのほか、ガソリン、食品等の更なる値上げ予想と、ウクライナ情勢の不透明さから、産業を問わず厳しい状況が続くと思われる。人材採用は、各社とも人手不足傾向に変化はないため、しばらくは変わらない。
		人材派遣会社（管理担当）	・自動車部品関連の製造計画が下がったため、やや悪くなる。
	x	職業安定所（職員）	・国が新型コロナウイルスを封じ込めるような政策を続けていく限り、景気は良くなり悪くならない。
		*	*

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)		その他専門店〔雑貨〕（営業担当）	・新型コロナウイルス感染第6波が収束傾向にあることと、3回目のワクチン接種率も50%を超えてきていることから、今夏～秋にかけては規制や制限も掛からず、人流が大幅に回復してくる。一方で、ウクライナ情勢や円安等による業界内でのインフレ化が懸念されるが、全体の消費量が増えるため、景気自体は上向いてくると予測する（東京都）。
		都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスのワクチン接種率も50%を超え、飲み薬等が開発されているなかで、徐々にウィズコロナの方向にかじを切ってもらい、最終的には感染症法2類から5類に変更されれば、3か月後くらいには収束という言葉も見えてくるのではないかと。ただし、まだ不安定な状況なので、政府にはより迅速な対応をお願いしたい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ゴールデンウィーク後の新型コロナウイルス感染者数次第だが、減少傾向にあれば間違いなく良くなる。Go To Travelキャンペーンも再開されると信じている。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスが落ち着きをみせ、Go To Travelキャンペーンが再開される見込みである（東京都）。
		旅行代理店（販売促進担当）	・各地の県民割などは5月で終わる。その後は、Go To Travelキャンペーンの再開が予想されている。再開された場合は、個人旅行が活発になると確信している。また、陽気も良くなってきているので、客の旅行への期待なり関心が高まり、現在よりは確実に良くなる（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・単純に、これ以上景気が悪くなることはないかと判断した。ゴールデンウィークでの集客が販売量の増加に結び付く。また、新商品のキャンペーンを展開して販売量増加を目指しており、数か月後には再度の販売価格アップが確実なので、受注の前倒しを行うことでも販売量を増加につなげていく予定である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・今までがやや悪過ぎたので、今後は物や人の動きが少し出てきて、買物、売上などについても多少は改善されるだろうと期待している。その期待に、何とか客が動いてくれると大変有り難い。さもないと、今の状況下ではなかなか商売の継続について不安感が残る。良くなることを期待し、また良くなるように努力をしていきたい。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・3月末に当店近隣に大型商業施設が開業した。また、小規模ではあるが地域のイベントが開催され始め、週末を中心に来街者が増加傾向となってきた。それに伴い、当店への来店客も増加し始めている。東京都内の新型コロナウイルス感染状況次第ではあるが、2～3月のように感染拡大傾向にならなければ、売上もやや良くなる（東京都）。
		一般小売店〔傘〕（店長）	・外出機会が増えれば購買意欲も上昇する。
		一般小売店〔生花〕（店員）	・7月に東京盆があり、毎年花がよく売れる（東京都）。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・毎年この時期になると新茶が出るので、期待をしている。何しろ人が出てこないことには売上も上がらないので、早く人の動きが通常に戻ることを祈っている（東京都）。
		百貨店（売場主任）	・緊急事態宣言による時短営業を行っていた前年と比べると、営業時間も通常に戻り、夕方から閉店までの来客数も増えている。このまま新型コロナウイルス感染者数が増えず、営業条件も変わらないままであれば、平日の来客数の戻りも見込める（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスも少し落ち着いてきており、特に飲食テナントについては、安定的に売上が増えつつある。このままの状況であれば、今後も少し良くなる（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・現在、ゴールデンウィークを迎えるにあたり、ウィズコロナが浸透し、行楽需要が回復傾向にある。今後2～3か月先の夏休み時期も回復傾向が順調に進んでいけば、商況も回復する期待が持てる（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・前年にはなかったゴールデンウィークでの客の動きが今後良くなることが予想される（東京都）。
		百貨店（財務担当）	・緊急事態宣言の再発出、まん延防止等重点措置の再適用がないことを前提に、今後の景気は上向くと想定している（東京都）。
		百貨店（管理担当）	・新型コロナウイルス感染者数の縮小傾向を受け、外出機会の増加、旅行などへの支出が増える（東京都）。
		スーパー（経営者）	・乾燥野菜や、魚の冷凍など、新しい分野の売上を取りに行く準備をしている。
		スーパー（総務担当）	・ゴールデンウィークなどもあり、値上げへの抵抗もなくなっているのではないかと。
		コンビニ（経営者）	・これから夏場になると、ソフトドリンク、アイスクリームなどの消費が増えるため、客単価、来客数が増える。
		コンビニ（経営者）	・一進一退をしているような感じだが、また最悪の事態がきそうな気もする。
		コンビニ（経営者）	・当社はコンビニエンスストアと学習塾をやっているが、学習塾はほとんどがオンラインから対面授業に切り替わり、生徒数も増えてきている。また、コンビニにおいても、夜遅くまで客が来店するようになってきている。やはり新型コロナウイルスの影響が前年、前々年と大きかったということを強く感じている。これから伸びていくのではないかと。
		衣料品専門店（経営者）	・県民割等で行楽や旅行が少しずつ増えていくと、外出着の需要が増す。
		衣料品専門店（店長）	・5月以降、着物事業部においては浴衣需要期に入ることから、花火大会等のイベントが開催されれば業績回復が期待できる（東京都）。
		家電量販店（店長）	・長期予報どおり、平年より暑い日が続けば、季節商材が売れる。
		家電量販店（店員）	・今夏は前年と比較しても猛暑が予想されている。既に冷房関連商材の動きも出てきているので、今夏は期待できる。
		家電量販店（従業員）	・外出する人が増えれば間違いなく景気は回復する。新型コロナウイルスへの不安はあるが、良くなっている。
		その他専門店〔貴金属〕（統括）	・来客数が増加傾向にあることから、接客機会は確実に増加してきている。今後、接客した客の数に比例して販売量が増加するものとみている（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	・Go To Travelキャンペーンの再開も話題に上っており、燃料価格の激変緩和措置についても補助額と期間が9月末までと拡充されたこともあり、7月になれば現状よりは客足も伸びると予想している（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの影響が少し良くなるのが条件である。ただし、少し良くなるだけでは会社は良くならない。今月も新型コロナウイルス発生前の売上と比べると50%以下である。せめて80%に戻れば、会社の体制も良くなっているの利益を出せる。早く戻らないと、会社がどうなるか分からない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・休日の客単価が伸びている。価格は値上げしているが、関係なく来客数も増えているので、ウィズコロナとして、一定の客の動向に回復傾向がみられる（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスについては確実に落ち着き、徐々に景気が良くなるが、戦争による原価の上がり方によっては、その上昇が鈍くなる可能性がある。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染状況がこのまま推移すればという条件付きで、世間の旅行に対する自粛姿勢が緩やかになり、秋口に一般団体旅行の案件が出るのが予想される。
		旅行代理店（営業担当）	・今の状態が続けば、更に受注が期待できる（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・ウィズコロナの生活に慣れて、新型コロナウイルスが収束していなくても旅行がしたいという客が確実に増えてきている。
		タクシー運転手	・ロシアのウクライナ侵攻を受けた資源価格の上昇やマーケットの混乱があるなか、新型コロナウイルスの感染状況は先行き不透明感が強いものの、感染者数がコントロール可能な水準に落ち着いてきたようにも思える。まん延防止等重点措置の再適用は回避される見通しなどから、景気は多少上向く（東京都）。
		タクシー運転手	・ゴールデンウィーク明けに新型コロナウイルス感染者数が増えなければ良いのだが、こればかりは分からない。夜も少し利用が増えてきているので、やや安心している。昼間の病院や会社の送迎も少しずつ増えており、朝、夜と仕事につながるようになって、少し先が見えるようになってきている。
		タクシー運転手	・飽くまでもウクライナ情勢がこのまま悪化せず、逆に収束してくれば良くなってくる。新型コロナウイルスに関して、世界では規制をどんどん解除しているの、日本もそれに追従していけば、人の流れが生まれてくる。ただし、新型コロナウイルスの感染状況よりも、ウクライナ情勢次第であり、燃料価格の高騰が最も心配である。それが改善されれば大分違ってくるのではないかと（東京都）。
		タクシー（経営者）	・新型コロナウイルス感染者数の増加に対して、政府がどのような対策を採るかによる。
		タクシー（団体役員）	・まん延防止等重点措置が解除され、人流が多少戻ってきているので、新型コロナウイルスが再度感染爆発しなければ、多少は景気が回復するのではないかと。
		通信会社（管理担当）	・新型コロナウイルスが落ち着くことを想定している（東京都）。
		観光名所（職員）	・新型コロナウイルスの感染状況次第である（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・ゴルフ練習場としては書き入れ時である。
		パチンコ店（経営者）	・ようやくウィズコロナを受け入れる社会になってきている。
		その他レジャー施設〔ボウリング場〕（支配人）	・コンベや予約の入りが良くなってきている（東京都）。
		その他レジャー施設〔総合〕（広報担当）	・期待も込めてだが、新型コロナウイルスのワクチン接種率が上がり、感染者数が減少して、人出が更に戻るのではないかと（東京都）。
		その他サービス〔フィットネスクラブ〕（エリア統括）	・新型コロナウイルス感染者数が少しずつ落ち着いてきているなか、来客者数が増えている印象がある（東京都）。
		設計事務所（所長）	・計画中の物件が契約までいくのではないかと考えられるが、物件数としては甚だ寂しい。物価高のなか、そろそろ客も待てないのではないかとと思うので、良い方向に向かう気がする（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔家電〕 (経営者)	・とにかくずっと悪い状態が続いている。客からの話もだんだん途切れてきている。これ以上悪くなるともうどうしようもないということで、変わらないと回答した(東京都)。
		一般小売店〔和菓子〕 (経営者)	・ゴールデンウィーク後、新型コロナウイルスの感染が再び広がるのではないかと懸念している。また、原材料などの値上がりが続ぎ、まだまだコストが上がりそうなので、消費者の購買意欲も落ちるのではないかと。
		一般小売店〔家電〕 (経理担当)	・新型コロナウイルスの感染状況が変われば、街の小売店にも客が戻ってくるかもしれないが、人通りも減っているため期待できない。
		一般小売店〔印章〕 (経営者)	・売上は完全なゼロではないが、来客数は非常に厳しい。客が来てくれる以上は最善を尽くすが、どうなるか分からない。これからまだまだ厳しい状況が続くのではないかと。
		一般小売店〔祭用品〕 (経営者)	・マスク着用義務の緩和、新型コロナウイルス治療薬の承認などが進まない、回復しない。またもろもろの値上がりが続ぎ、需要も滞る。
		一般小売店〔文具〕 (販売企画担当)	・外商部における大型の大口案件が特に決まっていないうことが不安要素としてあるが、小口の案件はそこそこあるので、ある程度現状維持になるとみている。このところ商品価格や原価が上がり、定価が上がってきているので、今後客が買ってくれるか不安なところはある。ただし、市場において実店舗等が少なくなってきたので、そういう意味では生き残っている店として客が来るということは多分にあるので、現状維持ができるのではないかと。
		百貨店(総務担当)	・少しずつではあるが、衣料品、靴、かばんなどに動きがみられるようになってきたので、継続を期待したい。
		百貨店(総務担当)	・新型コロナウイルスやウクライナ情勢、円安など、消費マインドにマイナス方向に作用するであろう事柄が、先行き不透明なまま継続している。具体的な明るさが見える状態ではない(東京都)。
		百貨店(総務担当)	・新型コロナウイルスの3回目のワクチン接種が進展し、感染が比較的落ち着いていることから、個人消費にはプラスの影響が考えられる。一方、国際情勢により物価上昇、円安が進んでおり、日本経済全体にとってマイナス要素が大きくなっている(東京都)。
		百貨店(広報担当)	・消費の2極化傾向が崩れる材料に乏しく、底堅い富裕層、物価高騰に左右されて不安定な中間層という状況が大きく変わる事態は想定しにくい(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・新型コロナウイルス新規感染者の減少は好材料ではあるが、今後も続く各種の値上げは商品単価や家計への影響の懸念が大きく、先行きは不透明である(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・新型コロナウイルスの影響が続くなが、ロシアのウクライナ侵攻、円安、物価上昇など先行きへの不安要素が多く、余り回復は見込めない(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・まん延防止等重点措置の解除後も、ロシアのウクライナ侵攻や、様々な物の値上げ等に不安を感じるためか、消費に対して積極的な姿勢はみられないことから、景気は大きく変わらない。3年振りとなる規制のないゴールデンウィークとなり、旅行などを楽しむ人が増えることで、消費に対しても積極性が出てきて、良くなる方向に向かうことを期待している。
		百貨店(販売促進担当)	・政府が新型コロナウイルス対策の方針を変えてくれない限り、何も変わらない(東京都)。
		百貨店(店長)	・行政による物価対策やGo Toキャンペーン等の影響はプラスと見るが、一方で、ウクライナ情勢や為替、株価など不安材料もある(東京都)。
		スーパー(販売担当)	・客の様子を見てみると、広告初日の価格を出した目玉商品や、ポイント何倍の日、あるいはタイムセールなど、同じ商品なら少しでも安く買い回ろうとしており、店舗の買い回りもみられる。そうした客の買い方はまだ続いている(東京都)。
		スーパー(経営者)	・本当はやや悪くなると回答したいが、現状が余り良くないので、変わらないとしている。野菜などは相場が持ち直して上昇しているものの、それ以外の鮮魚、精肉、食品などは、品物が少ないということと、価格上昇が見込まれることから、余り良くない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・消費者には節約志向が依然として根付いており、食料品メーカーの値上げも相次いで行われているので、買い控えをする消費者も出てくるなか、現状から上向きになることは考えにくい（東京都）。
		スーパー（営業担当）	・単価上昇圧力が更に強まってくれば、それに反比例して販売数量が落ちてくる。こういった現象がしばらく続くのではないかと（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・近隣のイベントが再開されないままなので、特に変わりはない。
		コンビニ（エリア担当）	・前年比では少し上回っているが、新型コロナウイルス発生前の2019年頃の水準までに回復する見込みは薄い。リモートワークの定着などで購買行動自体が変わってしまっている。また、原材料の値上がりによる価格上昇が来客数の押し下げに響きそうである（東京都）。
		コンビニ（商品開発担当）	・ウクライナ情勢悪化による影響が、値上げだけでなく、来客数にも少なからず出てきている。また、新型コロナウイルスも収束してはいないため、先行きはまだまだ不透明である（東京都）。
		コンビニ（従業員）	・コンビニは生活に欠かせない場所のため、大きく変動することは余りない。2～3か月先も安定した水準で推移していく。立地がとても重要ではあるが、地域に根差すことができれば、安定して、なくてはならない存在としてこれからもあり続けていく。
		衣料品専門店（役員）	・新型コロナウイルス感染者数が抑えられ、旅行等の機会が増えれば、衣料品の需要が高まる。
		家電量販店（経営企画担当）	・行き過ぎた円安、原材料不足、エネルギー価格の高騰、新型コロナウイルスの影響が、現在の景気に悪影響をもたらしている要因である。一つずつ解決できるかできないか、現時点では大きく改善する要素は見当たらない（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備は今月余り芳しくなかったが、来月から大分在庫する予定になっている。また、販売は、半導体不足によりメーカーで生産がストップしているため、客の購買意欲がやや低下気味だが、2～3か月後には良くなる。
		乗用車販売店（販売担当）	・短期的には半導体不足の影響で、中古車販売などの利益が増える。ただし、長期的には、ロシアのウクライナ侵攻による影響で食料品や燃料価格などが上昇し、景気が悪くなるということで、結果としてはほとんど変わらないのではないかと（東京都）。
		乗用車販売店（総務担当）	・生産計画はまだ不透明であり、現状が続くと予想している。中古車市場は暴落するとみている。
		乗用車販売店（渉外担当）	・出荷の正常化には相当な時間を要する見込みである。
		乗用車販売店（営業担当）	・良くなると思える情報がない（東京都）。
		乗用車販売店（営業担当）	・世界的な半導体不足、中国上海のロックダウン等、厳しい状況が続いている（東京都）。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・厳しい状況のまま変わらない。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・これから連休が始まると、皆外出するので、商圏が狭くなり、売上が伸びない。薬局なので、客足は減るのではないかと。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・ロシアのウクライナ侵攻や新型コロナウイルスの影響が果たしてこの先どこまで続くのか、不安である（東京都）。
		高級レストラン（経営者）	・昼営業では来客数が伸びているものの、夜営業ではまだまだ少ない。客単価は上がっている。ゴールデンウィーク明けの動向が予測できない。
		高級レストラン（仕入担当）	・新型コロナウイルス感染者数の増減いかによるところが大きい。新変異株のことを考えると楽観視はできない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・今もかなり悪いが、これから良くなることはなかなか望めないのが難しい。客も少しは戻ってきたが、まだまだ以前のようではない。パーティーも以前のように入っていないので、2～3か月先もほとんど変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・長い新型コロナウイルス禍に慣れた現在、同業種全体で売上半減は当たり前の状況である。しかし、新業態でスタートした店舗で、以前より繁盛している店もある（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスが収束しないなら、何らかの手を打ってくれないと、飲食業、観光業をしている人間の生活は成り立っていない。
		一般レストラン（経営者）	・緊急事態宣言も何も出ていない状態で、東京都は新型コロナウイルス感染者数が高止まりしたままゴールデンウィークに入り、人が随分動いているようである。再び感染者数が増えるとまん延防止等重点措置が再適用されるので、この先どうなるかは新型コロナウイルス次第であり、読めない（東京都）。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症以外に物価やエネルギー価格が高騰していることから、飲食への出費を控えることが予想される（東京都）。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・取引先の新型コロナウイルス対応で一部元の状態に戻っていない部分があるが、これは感染状況が落ち着くのを待つしかない。したがって、今の状況が当面は継続する（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今後Go To Travelキャンペーン再開の検討等、良い案もあるかと思うが、やはりウクライナ情勢や新型コロナウイルスの影響が不透明なため、まだまだ先行きは分からない（東京都）。
		旅行代理店（経営者）	・諸物価の値上がりにより、客の財布のひもが固い。
		旅行代理店（従業員）	・海外渡航に関する反応がまだない（東京都）。
		タクシー運転手	・確かに車と人の動きは良くなっていると思うが、タクシーの売上は全く伸びていない。この状態が一般化してきて、普通になるのではないかと（東京都）。
		通信会社（経営者）	・半導体不足のため機器の枯渇状態が続いており、まだ景気は良くならない（東京都）。
		通信会社（社員）	・新番組の引き合いは、動画配信アプリなどの活用と連動しており、今までのやり方が通じない。制作に関する制約や、放送のライセンス以外に課金する仕組みを持たないとやっていけないかもしれないというリスクを体感している（東京都）。
		通信会社（社員）	・プラス要素がない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・今後も物価上昇が続く限り、積極的な消費や景気の回復は見込めない。
		通信会社（営業担当）	・まん延防止等重点措置の解除後、転居の動きが出てきたが、動き自体は大きくなく、前年並みの契約数を維持するものと思われる。
		通信会社（局長）	・5月はゴールデンウィークがあるが、旅行者が増える一方で、家でテレビを見ない客が増えると思われるため、引き続き加入者数の増加は見込めない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・良くなると思える材料がない。
		通信会社（経営企画担当）	・新年度がスタートしたばかりで、今後の動向がまだ不透明である（東京都）。
		通信会社（局長）	・ウクライナ情勢と円相場が不安定なことによる。
		ゴルフ場（経営者）	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が再発出されるかどうかは左右されているところがある。
		その他レジャー施設〔複合文化施設〕（財務担当）	・ロシアのウクライナ侵攻の影響により、材料が高騰している（東京都）。
		その他レジャー施設〔映画〕（営業担当）	・既に景気が悪い状況が続いており、これ以上の悪化は考えにくい（東京都）。
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・新型コロナウイルスが収束するまでは悪いままである。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・新型コロナウイルスが収束方向に向かわなければ、景気はさほど好転しない。販売量や単価にかかわらず、新型コロナウイルスや世界情勢の影響が大きいと感じる。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・新規の問合せ件数などが前年よりも少ない。
		設計事務所（経営者）	・基本的には年俸制の仕事なので、新規プロジェクトが入らない限りは今のままである。
		設計事務所（経営者）	・新型コロナウイルス禍とロシアのウクライナ侵攻による影響は大きい。公共工事頼みの現況では、現状維持でやむを得ない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスとウクライナ情勢が収束しない限り、景気は良くならない。新型コロナウイルスについては、早く4回目のワクチン接種が進展することと、治療薬が普及することを期待している。また、政府による景気対策にも期待したい。
		住宅販売会社（従業員）	・来客数や情報数に大きな変化はない。
		住宅販売会社（従業員）	・今のところ良くなる見通しはない。若干の客は現状への理解があり、販売利回りが落ちているなかでの購入を検討している。相続対策の客は動くが、投資目的の客には厳しい状況である。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（経営者）	・業界全体の景気が上向かないと動きが出てこないのではないかと。早く全体の景気が上向くことを期待している。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・良くなる理由がない。夏の暑さに期待するが、商材事情を考えると不安材料がある。6月頃まで電子レンジは全減である。他の商材も、納期を確認しないと客と話もできない。
		一般小売店〔米穀〕（経営者）	・米穀、雑穀、食品等を取り扱っているが、価格が上昇しているため、購買に非常に慎重になるのではないかと。物価指標も大変上がっているため、慎重な買物が続く（東京都）。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・新型コロナウイルス、ロシアのウクライナ侵攻などの影響により物価が高騰している。あるいは、秋頃には値上げするとの情報を聞いている。所得が増えないなかで、消費は守りに入るため、やや悪くなると予想している。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・車で走っていると、今まであった建物を壊し、更地になっているところが目に付く。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	・急速な円安の影響で、海外からの輸入商材に影響が出ると考えられる（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・ウクライナ情勢、急激な円安、新型コロナウイルスの感染状況の影響から、物価の高騰が見込まれるため、良くなる見通しは立てにくい（東京都）。
		百貨店（経営企画担当）	・前年は緊急事態宣言後の伸びがみられたが、今年は物価上昇の影響もあり、前年比では厳しい状況になると予想している。食料品について、購買量は余り変わらなかったため、値上げによる売上増加も期待できたが、今回は購買自体を抑える傾向にあり、今まで支えてきた食料品の売上減少が全体に与える影響が大きいと推測している（東京都）。
		百貨店（店長）	・新型コロナウイルス感染防止での外出自粛の影響は大きく感じないものの、ロシアのウクライナ侵攻長期化による情勢不安、各種値上げに伴う生活防衛意識は継続する。
		スーパー（店長）	・今後も商材の価格見直しが続くため、買上点数ダウンの傾向が続く。
		スーパー（総務担当）	・ガソリンを始めとする光熱費が上がっており、食料品なども値上げが多くなっていることで、今後は買い控えや、余計な物を買わないといった行動がみられるようになってくる。給与、賃金が大幅に上がっていない現状では、売上が厳しくなると予想している。
		スーパー（仕入担当）	・物価上昇はまだまだ続き、円安による輸入原価の上昇と物流の遅延により、消費は冷え込んでいく。
		スーパー（販売担当）	・物価の上昇やエネルギー価格の高止まりもあり、客の心理は節約ムードが続くと予想している。販売の現場でも、買物リストを見ながら買い回る客が多く、無駄な物は買わないという一面ではないかと感じている。
		コンビニ（経営者）	・夜間、深夜帯の来客数が減少したまま改善の見込みがない。目先のセールの繰り返しで、客の購買意欲も上向かない。
		コンビニ（経営者）	・様々な物が値上げされる予定であり、消費支出が減る。新型コロナウイルスとウクライナ情勢が早期に落ち着くことを願っている。
		衣料品専門店（経営者）	・ウクライナ情勢の影響などもあり、石油を始めとしているような物が値上がりしている。イベントについては、緩みつつあるもののまだまだ規制があり、いまだ商材の動きは鈍い。特に、祭事はまだ制約があるので、やや厳しい状況が続く可能性がある。
		衣料品専門店（経営者）	・商材の不足と値上げが顕在化してくるので、商材確保と値上げ幅圧縮の努力をしている。どちらにしても値上げをすることになるので、売上の減少が懸念される（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店長）	・夏商戦を控えており、天候次第で商材の欠品による機会ロスが想定される（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	・新車の納期遅れの状態はまだ続く。客が新車を購入しに来て、納車まで6か月掛かると説明すると、受注ができない。
		乗用車販売店（営業担当）	・輸出先のロシアが戦争をしているため、大きな影響が出ている。生産台数も減産傾向が止まらず、注文が入っても納車ができない。
		乗用車販売店（店長）	・納期遅延が解消しない限り難しい。
		住関連専門店（営業担当）	・世界的なサプライチェーンの乱れから、住宅設備機器の供給安定化の見通しが立たない。こどもみらい住宅支援事業等の需要喚起策はあるものの、商材がないことによる機会損失の影響は大きい（東京都）。
		住関連専門店（統括）	・新型コロナウイルス禍がまだまだ続くと思うので、来客数もそれほど伸びないとみている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・賃金も実感するほど上がらず、メディアの「値上げ」情報を耳にすることが多くなり、購買マインドは低下傾向になるのではないかと（東京都）。
		高級レストラン（役員）	・新型コロナウイルスの感染状況がこのまま横ばい又は収束に向かえば、新型コロナウイルス禍で初めての行動制限のないゴールデンウィークを迎え、来客数、販売量が前年比で増加し、好転基調になると予想されるが、ウクライナ情勢の思い掛けない長期化により、仕入原価の高騰もあり、景況としては悪化傾向にある（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・3～4か月後もウクライナ情勢次第である。物が入ってこないのでは、経済がうまく回っていかない。消費、景気も決して良くならない。新型コロナウイルスが収束に向かっている、なかなか上向いていかない。
		一般レストラン（経営者）	・長期間に及ぶ自粛生活の影響で、夜に飲みに行く客が大分減っている。また、ゴールデンウィークや夏のお盆など、ピーク時にお金を使うのでそれまでは節約するという志向が大分増えてきている（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・ロシアのウクライナ侵攻や新型コロナウイルスの影響を考えると、経済は鈍化する一方な気がしている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・春休みやゴールデンウィーク期間中の人出増加により、若年層の間で新型コロナウイルス感染が急拡大し、家庭内や職場に広がり、まん延防止等重点措置が再適用され、一気に自粛ムードが広がる。さらに、円安が追い打ちを掛け、値上げが相次ぎ、景気は悪化の一途をたどる。
		タクシー運転手	・ロシアのウクライナ侵攻の影響で、物価が高騰し始めている。既に今年早々上がっている物もあるが、その影響がかなり大きく、今後長引くのではないかと心配している。
		通信会社（管理担当）	・値上げの影響が続く見込みである。
		通信会社（営業担当）	・社会情勢が変化しないと、景気も良くなっていかないように感じる（東京都）。
		通信会社（経理担当）	・夏には身の回り品の値上がりを実感してくると想定している。そのときに消費者が何を切り捨てるのか、様子見である。
		通信会社（経営企画担当）	・仕入れや費用の単価が徐々に上がっているが、売値を上げているわけではないからである（東京都）。
		競輪場（職員）	・全く先が読めない状況である。
		美容室（経営者）	・早く新型コロナウイルスが収束してほしい。
		設計事務所（経営者）	・設計業を営んでいるが、現在、設計事務所を閉鎖する動きが多少見えている。これ以上待っても新規客の獲得は難しいという考え方なのか。当社は行政の指名入札参加を試みているが、行政の仕事も減っており、先が見えない。頑張らなくてはいけないと思っているが、現状は大変厳しい。
		設計事務所（職員）	・日本、世界の社会情勢に明るい兆しは見当たらない（東京都）。
		住宅販売会社（総務担当）	・資材等の価格が高騰している。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・新型コロナウイルス後の動きとして注文が入り始めている一方で、資材価格の高騰が止まらないため、生産に影響が出ている。そうしたことから、全体として景気の上昇に歯止めが掛かる恐れがある（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	一般小売店〔家具〕 (経営者)	・これから先、新型コロナウイルスの感染状況が多少落ち着いてきたとしても、ウクライナ情勢の影響から、とにかく景気が良くなるような要素が何もないので、恐らく現在のようない状態が続く(東京都)。
	×	一般小売店〔食料雑貨〕(経営者)	・物価が上昇している。
	×	スーパー(経営者)	・商材の値上げが相次いでおり、ますます客の動きや販売量の減少が見込まれる。
	×	スーパー(店長)	・ロシアのウクライナ侵攻終結の見通しがまだ全然立たないこと、それに伴う原材料の値上げや客の不安がある。新型コロナウイルスは少しずつ落ち着いてきているが、円安による先行き不透明感、また、自分を含めて一般サラリーマンの給料が上がらないなかで物価だけが上がっているという状況を踏まえると、3か月先は今よりも景気が悪くなるのではないかと(東京都)。
	×	スーパー(ネット宅配担当)	・原油高、円安、穀物の価格高騰など、マイナス要素が多過ぎて今後の見通しが不透明だが、景気自体は悪くなり、より節約志向が強くなる。
	×	コンビニ(経営者)	・ウクライナ情勢が影響してくる(東京都)。
	×	衣料品専門店(店長)	・急激な円安とロシアのウクライナ侵攻により商材の原価が急上昇することが見込まれ、価格転嫁が必要となっている。
	×	衣料品専門店(従業員)	・世界情勢が不安定で、商品単価も上がることで、ますます売上が悪くなる。
	×	ゴルフ場(経営者)	・スタグフレーションが始まっている。
	×	ゴルフ場(従業員)	・経済と新型コロナウイルス感染拡大防止の両立となり、各地ににぎわいが戻ったように報道されるが、まだまだ恐怖を感じて、行動には移せない人が多い。さらに、ロシアのウクライナ侵攻は収束が見えず、円安、物価上昇、車の部品調達や住宅資材の不足がまだまだ続くと思うので、景気悪化は避けられないのではないかと。
	×	ゴルフ場(経理担当)	・円安下での原油、原材料価格の高騰、輸入品を中心とした物流の混乱により、スタグフレーションが更に進行する懸念が強い。業務上不可欠な資材に調達の遅れがみられ、必要性が高い設備投資にも着工の遅れが出ている。資材の先行調達や要員確保など、BCPを強く意識した運営が必要である。
	×	その他サービス〔学習塾〕(経営者)	・元々不登校の生徒たちのなかには、新型コロナウイルスやウクライナ情勢に関して自分のことのように感じ、来なくなる子も多くいる。今後も生徒は減っていき、景気は悪くなる。
	×	設計事務所(所長)	・材料が値上がりしているなかでは、設計の計画もなかなか思うようには進まない。
企業 動向 関連 (南関東)		金融業(従業員)	・長引く新型コロナウイルス禍において、事業を継続していくために業態転換や機械化促進などに取り組む事業者が以前よりも増えてきている。一方、原材料価格の高騰や急速な円安進行については、これから更に事業への影響が大きくなることを危惧する声が多く聞かれる(東京都)。
		その他サービス業〔警備〕(経営者)	・新規で受注した仕事以外の仕事も増え、売上増加が見込める。
		その他サービス業〔ソフト開発〕(従業員)	・受注件数、売上高などを見ると、景気は回復傾向となっている。
		食料品製造業(経営者)	・新型コロナウイルスの影響により人の動きがなくなっている状況が解消されつつあるので、もう少し良くなる(東京都)。
		出版・印刷・同関連産業(所長)	・新型コロナウイルス対策に伴う規制が解除された通常スタイルで物事が動きだしていると感じる。ようやく年間計画どおりに動いており、先を見越した案件の引き合いが増えているので、現状より良くなる。
		その他製造業〔鞆〕(経営者)	・今まで普通に商いができていたのが新型コロナウイルスの影響でやや悪くなり、それがここにきてやや良くなっている。要するに、新型コロナウイルス発生前に戻っているということである。
		金融業(役員)	・新型コロナウイルスの影響、ロシアのウクライナ侵攻等の長期化にもよるが、先行きについては卸売業、サービス業共にやや良化する見通しである。
		不動産業(総務担当)	・新型コロナウイルス感染患者数が減少傾向にあり、ウクライナ情勢も徐々に好転するのではないかと期待感がある(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染者数が現状のままで増えていけば、今まで中止になっていたイベント催事も実施の方向で動き始める。
		広告代理店（従業員）	・まん延防止等重点措置が解除された頃から、問合せや相談件数が増えている。6～7月の実施で検討という話もあり、社会全体として経済を回していこうという流れに移行しているものと期待している（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	・ゴールデンウィーク後に新型コロナウイルス感染者数が増えることが心配である。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・今後も受注量は少ない見込みである（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・当店は飲食店がある中に立地しているが、新型コロナウイルスが長引くなかで、飲食店からのショッピングカードや店長の名刺など、印刷関係の仕事が相変わらず低迷し続けている（東京都）。
		化学工業（従業員）	・新型コロナウイルス対策のまん延防止等重点措置の解除により、工事が再開され始めたので、商品の荷動きが良くなりそうである。
		化学工業（総務担当）	・新型コロナウイルス発生前と消費動向がどう変わってしまっているのかが極めて不透明で、不安感が強い。景気回復を待ち望んでいるが、2～3か月先の期待できる話が聞こえてこない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・新型コロナウイルス感染拡大防止のための人の移動規制がなくなったが、諸物価が上がっていくなかで、これから本格的に値上がりしていくときだと思っているので、景気の動向は横ばいか少しマイナス気味になるのではないかと。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・化粧品容器の受注に回復傾向はみられないが、医療品容器に関しては新型コロナウイルスの影響で滞っていた海外工場が稼働し始めたので、期待している。ただし、確証がないので何ともいえない。
		金属製品製造業（経営者）	・一部の得意先が少しずつ動き出しているようなので、幅広く受注活動に力を入れて努力する。
		金属製品製造業（経営者）	・ロシアとウクライナ問題、原材料の価格アップ、新型コロナウイルスの問題など、解決していないことが多いので先は非常に読みにくい。
		電気機械器具製造業（経営者）	・新型コロナウイルスに加えてロシアのウクライナ侵攻が始まり、人の流れが途絶えている。海外での展示会がほとんど中止になり、せっかくの円安でありながら輸出もままならない（東京都）。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・自動車メーカーは、今年度大幅増産をもくろんでいたが、海外での部品調達が安定していないため、生産計画の見直しが必要となっている。今後も当初計画に比し、減産となる可能性が高い。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・為替の影響を大きく受けており、粗利の減少が著しい（東京都）。
		建設業（従業員）	・ウクライナ情勢による物価上昇がいろいろなところに影響してくる。
		輸送業（経営者）	・政府の燃料価格への介入により、価格高騰に歯止めが掛かることを期待したいが、今の市場を考えると大幅な値下がりには難しい。また、取扱量の増加要因もないため、当面厳しい環境が続くものと推測する（東京都）。
		輸送業（総務担当）	・荷主の国内出荷量が低迷しており、輸出量が全くない。今後もこの現状が続く予想である。
		通信業（広報担当）	・当面は不透明な状況が続く（東京都）。
		金融業（従業員）	・新型コロナウイルスの感染状況が減少傾向にあるので、やや良くなるかもしれないが、日々の感染者数は何千人単位で計上されている状況なので変わらない。
		金融業（総務担当）	・燃料価格の高騰が観光業や運送業に影響しており、売上や利益が減少する可能性がある。新型コロナウイルスもまだ警戒レベルであり、飲食業を始め、関連業種でも売上増加には程遠い（東京都）。
		不動産業（従業員）	・不動産価格においては下降傾向になく、現状の高価格帯を維持する（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		税理士	・米国の景気は、インフレが進んでいるが、利上げも実施するというので、やや回復してきて良くなっているようである。中国の景気は、上海や北京で新型コロナウイルス感染者数が増えており、弱くなっている。この2つの大国の景気がどのような形で日本に影響してくるかによる。日本の中小企業は相変わらず悪いと思うので、3か月後も変わらない(東京都)。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない(東京都)。
		その他サービス業〔映像制作〕(経営者)	・中国上海でのロックダウンの影響やウクライナ情勢、円安の更なる加速が見込まれることから、企業もその対応に必死になっており、広告宣伝、研究費などへの拡大は見込めないため、今の厳しい状況のまま変わらない(東京都)。
		一般機械器具製造業(経営者)	・メーカーの工場の減産や稼働停止が予告されているので、今後その影響が出てくる。
		精密機械器具製造業(経営者)	・受注量が減ってきている。物資が入らず、生産計画どおりに生産ができず、物価や人件費の高騰が追い打ちを掛けている。中国上海のロックダウンは影響が大きいと予測している。
		建設業(経営者)	・新型コロナウイルス及びウクライナ情勢の影響で、景気減退がこの先も続く。
		建設業(営業担当)	・資材価格は高止まり傾向が続いているので、購買意欲が低下すると予想している。
		輸送業(経営者)	・企業の新型コロナウイルス関連無利子融資の返済が始まるが、新型コロナウイルスが収束していないので、業績が戻っていない状態での返済は、企業にとって厳しい。また、ウクライナ情勢、円安、電力不足などの問題があり、先行きは見通せない(東京都)。
		不動産業(経営者)	・新型コロナウイルス禍において、何とか時代に合わせた対応が必要だが、皆元気がない(東京都)。
		不動産業(経営者)	・ロシアのウクライナ侵攻、新型コロナウイルス感染のくすぶり、円安、諸物価の高騰など不安要素が多く、しばらくは景気回復のめどが立たない。
		経営コンサルタント	・円安などの進展が予想され、経費増加が更に進む。消費者が消費を増やす傾向にあるとは考えにくい。
		税理士	・ロシアのウクライナ侵攻が続き、景気はますます悪くなる。賃金、収入は横ばいのまま物価だけが上昇しているため、景気は好転しない。
		経営コンサルタント	・様々な経費の単価が上がる方向で、大変厳しい環境になりつつある(東京都)。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕(経営者)	・ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギーや原材料の不足、価格上昇が継続し、受注量、利益共に低空飛行が続くことが予想される。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(経営者)	・既存契約の値上げができなければ現状維持だが、欠員が出た場合、募集単価が上がっているので、その分収益を圧迫する(東京都)。
		その他サービス業〔ソフト開発〕(経営者)	・新型コロナウイルス感染者数が減少傾向にあることは良い要素だが、ロシアのウクライナ侵攻、円安の影響共に燃料費や輸入穀物価格に直結しているため、悪く感じる(東京都)。
	x	建設業(経営者)	・良くなる要素がない。
	x	建設業(経営者)	・価格が高騰し、品物が数か月掛かる状況のため、客は注文を控えるようになっている。
	x	広告代理店(営業担当)	・新型コロナウイルス、ロシアのウクライナ侵攻、円安の影響により、物価の急激な上昇による買い控えが発生し、各メーカーの宣伝費が少なくなるのではないかと懸念している(東京都)。
雇用関連 (南関東)		-	-
		人材派遣会社(社員)	・派遣求人数に関しては今後も増加が継続していく見込みである一方で、派遣社員の不足感も深刻さを増してきており、求人数に対しての契約数のバランスがより崩れていくことが予想される(東京都)。
		人材派遣会社(経理担当)	・派遣契約数は3月末終了の件数が増加している。新型コロナウイルス禍において、これまで派遣社員側からの契約終了希望は非常に少なかったが、前月は非常に増加した。新型コロナウイルスの影響も落ち着いてきており、人材が流動化し始めている関係から、数か月先の見通しは景気回復傾向にある(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・当社、周辺企業共に採用数が増えている。新卒採用意欲も高い企業が多いようである。新型コロナウイルスの感染者数は余り減ってはいないが、今のままの状態が続けば、景気は上向いていくのではないかと（東京都）。
		新聞社 [求人広告]（担当者）	・予約が徐々に増えている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・全般的に求職者の高齢化がみられるが、仕事のやり方もそれに応じて変わってきている（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・求人の動きが落ち着いており、新型コロナウイルス特需のようなものも今後は見込めない。製造、物流、事務のオーダーは堅調であり、今後も維持できる見込みである。
		人材派遣会社（支店長）	・企業業績がロシアのウクライナ侵攻と円安の影響を受けており、一時的なりソース不足を派遣で対応する一方で、人材紹介のニーズはまだまだ低調である（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・世界情勢等のネガティブな要素はあるものの、日本の製造業でのエンジニア不足はまだ改善されず、今後も好調な状態が継続することが見込まれる。
		人材派遣会社（営業担当）	・求人数は多くなっているものの、まだ景気が良くなるという決め手がない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・いまだに続いているロシアのウクライナ侵攻により、原油や小麦価格が高騰し、それに伴い物価が上昇するなどのマイナスニュースがある。また、終わらない新型コロナウイルス禍による労働環境への影響、金利の引上げによるローン返済負担の拡大など、不安要素が絶えない（東京都）。
		求人情報誌制作会社（営業）	・2～3か月先では、大きく変わることはない。緊急事態宣言の再発出などで経済がストップしない限りは、このままの景気が数か月先まで続く。悪いときに比べると、忙しくなり求人数は増加しているが、それでもまだ人々の消費行動は制限されていると感じる。更に制限がなくなり、消費行動が活発になることで、求人数は上向き、景気が良くなっていると強く実感することができるようになる。
		職業安定所（職員）	・有効求人数が前月と比べて1.7%減少しており、4か月ぶりに前月を下回ったが、前年比では3.0%増加しており、4か月連続して前年同月を上回っている。前々年同月との比較では16.6%の減少である。
		学校 [大学]（就職担当）	・気候が良くなり、外に出る人が増え、消費が伸びると考えられるが、世界情勢への不安から物価上昇の心配もある（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・原油価格の高騰により企業の業績が多少悪化し、採用を見直す企業が出てくる可能性がある。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの景気への影響は大きくなったり小さくなったりすると思うが、ウクライナ情勢が加わるので、やや悪化する（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス需要が収まれば、その分通常の営業ができなかったことのマイナス面が出てくる（東京都）。
		職業安定所（職員）	・物価上昇指数及びウクライナ情勢の影響によるものである。
		職業安定所（職員）	・ゴールデンウィーク中の人流増加による新型コロナウイルス感染拡大の懸念に加え、ロシアへの経済制裁に伴う諸物価高騰の影響により、経済失速の可能性が高まっている。
		職業安定所（職員）	・原材料高、原油高に加えて円安の影響が経営に響いてくるとの声も、管内企業から多く聞かれる（東京都）。
	×	求人情報誌製作会社（所長）	・新型コロナウイルス感染第7波や輸入の関係で落ち込む。

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (甲信越)		高級レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染者も無症状者が多くなり、人流も増えてくると思われる。
		観光型旅館（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者は多い状態のままだが、Withコロナが浸透してきているのか、感染対策をしながら旅行を楽しむ方が増えている。県民割などの効果もあって、客の来館が徐々に回復してきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・今年に入ってから葬儀依頼が多い。墓じまいや永代供養墓の利用も多い。今月も粉骨してお墓の中をきれいに整理している。
		スーパー（経営者）	・大規模イベントやコンサートも100%の収容人数で行われるようになると、これからイベントが多くなるので、忙しくなる。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況もやや落ち着きつつあるが、流れとしては、経済的なことが優先されるので、宴会や会合等、いろいろな場面で飲食の機会が増えてきて、若干上向いてくるのではないかと。
		一般レストラン（経営者）	・現状、新型コロナウイルスオミクロン株がインフルエンザ並みの扱いになりつつある。今後、恐ろしい株に変異しないことを願う。
		スナック（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は増減を繰り返すと思うが、ワクチン効果でリスクが下がってきたので、普通の生活ができるようになってきている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今までより、日々の新型コロナウイルス新規感染者数が非常に多いにもかかわらず、予約やフリー利用は好調である。ワクチン接種や新規感染者数に右往左往していた時期と比較して、明らかに状況が変わっている。自粛ではなく、制限のない生活へとマインドが変わりつつあると感じている。個人利用も、ほぼ新型コロナウイルス禍前と同様な推移かそれ以上であり、法人、団体予約も増加傾向にあるので、確実に良くなっていく。
		都市型ホテル（スタッフ）	・企業関係の一般宴会や懇親会は、企業によっては「参加者全員が抗原検査を受けて、リアルで開催しよう」というところも出てきている。新型コロナウイルスが発生してから3年目に突入しているが、3年目にもなると、企業側も対面での集まりを望んでいるようである。
		観光名所（職員）	・新型コロナウイルス前には及ばないものの、客足が戻ってきている。予約も堅調に伸びている。
		遊園地（職員）	・引き続き、新型コロナウイルスの影響が懸念されるが、感染対策を徹底して万全な受入体制を整えるとともに、積極的に集客施策実施や情報発信を行うことで、多くの客の来園を期待する。
		商店街（代表者）	・先行きは全く分からない。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスが感染拡大した2年の間に、スポーツ関係は、かなり運動の仕方も変わっている。以前は地元でナイターとか早朝野球等、いろいろ行われていたが、今は全てが停止している。今後、スポーツがどのような形で復旧して、再び盛んになるかということが心配でならない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・季節商材の動きが気になるのだが、値上げや商材不足があるなかで、消費者にどのような選択をしてもらい、どのような施策をして購入してもらおうか、思案のしどころである。購買意欲が出るような状況になることを願うばかりだが、先行き不透明感もある。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・良くなってくる要素がなかなか見つからない。
		百貨店（店長）	・現状は新型コロナウイルスの今後の予測がつかないことや物価の上昇傾向、株価下落トレンド等から、なかなか回復は難しい。催事等を以前と同じ様に開催しているが、売上は厳しい。2～3か月先に上向きような新たな施策も余りない。
		衣料品専門店（経営者）	・良くなるとは思えない。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスがまん延して以降、景気が回復していない。世界情勢に対する不安もある。
		一般レストラン（経営者）	・現状の好影響は6月の祭礼終了までは期待できそうである。その後は反動が出てくるように感じている。
		スナック（経営者）	・これから少しずつ暖かくなってくるので、多少、人の動きはあると思うが、基本的にこの新型コロナウイルスが収束しないことには、厳しい状況は続く。段々と皆が新型コロナウイルス疲れから「どうでもいい」という感じで、少しずつ飲みに出てくる客も増えてきているので、多少は良くなると思うが、大きな変化は余り期待できそうにない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（副支店長）	・旅行業界は、新型コロナウイルスの事情に大きく左右されるが、まず個人客が動き出し、その後はグループ、団体につながって需要が増加すると捉えている。しかし、世界情勢の混乱から企業等の業績悪化も見据えると、プラスマイナスゼロの変化なしが妥当と考える
		通信会社（経営者）	・いまだ世間には悪い要因が多く不安定なため、このまま良い方向に進んでいくとは考えにくい。
		通信会社（社員）	・年度替わりの慌ただしさも落ち着き、問合せや新規加入が増えていく材料に乏しい。
		設計事務所（職員）	・今後数か月は、同じ状況が続くと思われる。
		住宅販売会社（経営者）	・建築資材価格の高騰で建物価格も上昇しており、今後の新規別荘建築にブレーキがかかる恐れがある。
		百貨店（営業担当）	・原油から始まって、ガソリン等いろいろな物の値上げが目白押しなので、消費には慎重にならざるを得ない。
		スーパー（経営者）	・円安、原油高、中国での新型コロナウイルスの感染拡大、穀物を始めとした原料価格高騰の一方で、賃金増加は限定的で消費は慎重にならざるを得ない。
		コンビニ（経営者）	・ウクライナの戦争等で物価が上昇してきたら、客も儉約してくると思う。
		コンビニ（経営者）	・近隣にバイパス道路が開通し、当店への来客数が減少している。
		コンビニ（経営者）	・水道光熱費の値上がりやガソリン価格高騰に伴い、生活がひっ迫してくると、客の買上点数も減ってくるのではないかと。本当に必要な物しか買わなくなる等、影響はある。
		コンビニ（店長）	・各種の値上げや今回の侵攻があって、いろいろ難しくなってきた影響が、いよいよ出てくる頃ではないかと感じている。
		乗用車販売店（経営者）	・新車供給遅れの拡大に伴い、納期の不透明な状態が長く続くことで、これまで順調だった受注にも影響が出ることが懸念される。
		自動車備品販売店（従業員）	・中国の都市で新型コロナウイルスによるロックダウン等もあり、この先更に部品不足による商材不足が予想されるため、景気はやや悪くなる。
		その他専門店〔酒〕（店長）	・3か月前よりは現状、商売は良くなってきているが、ガソリン代の高騰や物価上昇もある。当店は日本酒を中心に営業しているが、3か月後には非常に厳しくなるのではないかと考えている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・この先の宿泊数の変動をみると、やや悪くなる。
		タクシー運転手	・県内の名刹で7年に1度の大祭りが始まって、県内各地で同様の祭りが行われている。また、名刹の祭礼もある。人の出入りが今、相当多くなっているのだから、これからまた、新型コロナウイルスの感染拡大第7波と、新規感染者が増えてくると予想されるので、また悪い影響が出てくる。
		ゴルフ場（経営者）	・ロシアに対する経済制裁と緊縮財政の影響が、徐々に響いてくるのではないかと。需給ギャップを埋めるべく積極財政が求められていると考える。
		その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者が減少し、3回目のワクチン接種が進んで治療薬も普及してくれば良くなっていくと思うが、まだまだ楽観視はできない。
	×	スーパー（店長）	・様々な物価が上昇し、生活防衛意識が高まる。
	×	コンビニ（エリア担当）	・水道高熱費や物価の高騰等を含めて、良くなる兆しが無い。
	×	衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルス禍がいつまでも続いていて、ウクライナの戦争にもかなり影響を受けている。また、物価高も大変で、消費には向いていない。
	×	スナック（経営者）	・毎回同じような回答になるが、本当に良くなる要素が見当たらない。他のところはよく分からないが、皆どう思っているのか。回答結果を送ってもらったのをみても、私たちのような本当に小さな店のことはよく分からないが、本当に困っている。物価上昇、賃金低下、良いところがない。何とかしてほしい。
企業動向関連		金属製品製造業（総務担当）	・半導体不足のため、引き合いが増加している。
		食料品製造業（営業統括）	・急激な円安により、輸入ワインの価格が上昇している。需要は抑えられる反面、東南アジアへの輸出が期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(甲信越)		建設業（経営者）	・ウクライナ問題は別だが、新型コロナウイルス新規感染者減少が続いており、受注実績は増加傾向にある。
		食料品製造業（総務担当）	・新型コロナウイルスやウクライナ情勢の影響もあり、景気は不透明である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・個人的なことだが、けがの治療とリハビリで、しばらく現場復帰できずにいる。1人で業務全てを行っているので、生産やワークショップの対応もできず、非常に厳しい状況である。このようなケースにも耐え得る経営体力を備えなければならないが、近年の受注状況ではその余裕すらない。
		金融業（調査担当）	・ウクライナ情勢や円安等、不透明な環境が続く見通しであり、企業マインドも慎重になるとみている。
		金融業（経営企画担当）	・新型コロナウイルスの問題に加え、ウクライナ戦争が長期化する可能性が出てきていることで、景気に悪影響が出る可能性がある。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・先行きは良くなっていくと考えているものの、3か月という短期間で考えると、現状から悪くはならないと思うが、大きく好転するとも考えにくい。やはり、新型コロナウイルスや世界情勢の先行きがはっきりしないと、企業や個人も前向きな方向へはいかない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・円安による輸入価格の上昇が利益を圧迫している。上昇の都度、価格反映できるわけではないため、どこまで影響が続くか不透明である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・再度部品が滞ることが懸念される。新電力小売業から撤退する事業者があり、将来が見通せない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・原材料価格の高騰や部品不足が続き、収益を圧迫している。また、中国の都市のロックダウン、ロシア、ウクライナ問題が悪影響となり、これからも増大しそうである。
	x	食料品製造業（製造担当）	・原材料や副資材、器具を洗うスポンジ、洗剤等、全てが値上がりしている。また商材原価に転嫁できていない状態で、納入が遅れてくると相当に追い込まれる。とても利益を出せる状態にない。
	x	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・受注が減って単価が下がり、資金繰りが大変である。
	x	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・円安による輸入材料の高騰は、商材作りを難しくしている。当面は海外での展示会出展もできないなかで、手詰まり状態が続く。
雇用関連		-	-
		*	*
(甲信越)		人材派遣会社（営業担当）	・物価上昇のため、消費意欲は上がらないと思うが、食材等への無駄遣いをしないという意識が今まで以上に働かださう。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス関連で経済が回り始めているが、ゴールデンウィーク明けの感染拡大の可能性も残っているため、状況的には変わらない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・急激な円安やウクライナ危機を懸念して、固定費が増加する正社員採用には慎重な姿勢が目立つ。有期の契約社員への切替えを大胆に進める大手企業が出始めている。
		-	-
	x	-	-

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (東海)		一般小売店〔土産〕（経営者）	・当県の一部では学校・寮・クラブ活動等に起因する感染者がまだ多いが、新規感染者数も徐々に減少傾向にあり、今のペースで旅行者が増えれば回復は早い。新型コロナウイルスの早い収束を願うのみである。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・ようやく本当のウィズコロナに移行して、経済を回していけそうである。
		コンビニ（店長）	・政治家がゴールデンウィークは通常どおり行動しても良いと発言するなど、行政側が少し緩くなった。ただし、反動も怖い。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスとの付き合い方を徐々に捉えつつあり、そのなかで商売を行うすべを見いだせている。
		百貨店（経理担当）	・新型コロナウイルスも落ち着き、徐々に回復に向かうと思われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・ウィズコロナの生活様式が少しずつ進み、経済も少しずつ回復が予想される。ただし、ロシアのウクライナ侵攻に伴う物価高が景気の持ち直しを遅らせる要因となる可能性がある。
		百貨店（販売担当）	・来客数は回復しつつある様子が販売数も伸びている。ただし、新型コロナウイルス発生前までには戻っていない。
		百貨店（業績管理担当）	・ゴールデンウィークの客足が良く、客の購買意欲が高まっているように感じられる。
		百貨店（計画担当）	・コロナ禍に対する客の考え方に徐々に変化がみられ、少しずつ外出も増えてきていると感じる。ただし、旅行に出掛けるという声も少しずつ聞かれ、消費が分散する可能性もある。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの感染状況は今と変わらない状態で推移していくであろうが、緊急事態宣言などは出ないレベルと見込む。来客数は、夏に向かうトレンドのなかでこれからも伸びていくことが想定される。
		コンビニ（店員）	・夏に向けて、来客数の増加が見込まれる。
		コンビニ（商品企画担当）	・3回目のワクチン接種の進捗による、移動制限を伴わないゴールデンウィークと夏季繁忙期の到来を想定している。
		衣料品専門店（店長）	・人の動きが活発になってきているように感じる。ただし、全ての業種に起きていることではなく、全体に行き渡るまでにはまだ時間が掛かると思う。また、購入の際には不要な物は一切購入したくないという様子なので、消費者の財布のひもはまだまだ固い状況である。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・人の動きも良くなるので、多少は良くなると期待している。夏物も前年は動かなかったため、今年よりは反動があると思われる。
		衣料品専門店（売場担当）	・コロナ禍での日常生活として、今後は消費者も最低限の感染防止対策を行いながら、新型コロナウイルス発生前に近い生活に戻っていくと思われる。
		乗用車販売店（従業員）	・勢いがある。問合せが多いと販売量も増えていくと思う。先に向かって良くなるイメージが強くある。確証はないが、良くなっていくと思う。
		乗用車販売店（従業員）	・新車の納期が掛かるため中古車の相場が大幅に上がっており、それに伴い車を短期間で乗り換える人が増えている。そのため、新車の販売台数が伸びてきている。
		住関連専門店（営業担当）	・リフォーム、改修等の中規模物件でも引き合いが入り始めている。特に商業施設については、改修工事や新築工事の問合せなども入ってきている。
		高級レストラン（経営企画）	・アフターコロナとして、新しい消費、利用方法が見込まれる。
		一般レストラン（経営者）	・政府としてもウィズコロナという方法を選択すると思う。そろそろ皆我慢がでせず外へ繰り出すのではないかとと思う。
		観光型ホテル（経営者）	・5月に県民割が延長されること、3回目のワクチン接種率が50%を超えてきたこと、重症者数が減少傾向にあることから、これ以上悪い要素がなければ、やや良くなる傾向であると思う。2年にも及んだ新型コロナウイルスの影響であるが、これ以上強力な感染拡大がなければ、なだらかに良くなっていくと思う。
		都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスも収束に向かい、予約が入り始めると思う。
		都市型ホテル（営業担当）	・このままワクチン接種済みの人が増え、飲み薬等も出ることで新型コロナウイルス発生前に回復していくと期待している。3か月先には70%程度の回復を見込んでいる。
		旅行代理店（経営者）	・人流の回復に期待を持っている。コロナ禍の緩和へのシフトを望む。
		旅行代理店（経営者）	・このまま新型コロナウイルスの感染が収束していけば、少し回復してくると思う。5月には県民割等が始まるため期待している。
		旅行代理店（営業担当）	・ゴールデンウィークが終わった頃の新型コロナウイルス感染拡大は不安要素であるが、Go To Travelも再開に向けて大詰めとなっており、法人対象のキャンペーンが始まれば確実に団体旅行が動き始めるので、期待ができる。
		旅行代理店（営業担当）	・団体旅行の活性化は見えてきているが、動き出しは都市部からと考えているため、地方では1～2か月の時間差があると想定する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・2～3か月後は真夏に入ってきて髪も伸びてくるため、客には、新型コロナウイルスに負けずに足を運んでほしいと思う。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・コロナ禍での過ごし方が順応できつつあるので、新型コロナウイルス発生前まで回復することを期待している。
		商店街（代表者）	・ゴールデンウィークで人が移動するため、新型コロナウイルスの新規感染者数も横ばいか少し増加すると思うので、状況は余り変わらないと思う。
		商店街（代表者）	・コロナ禍では先は読めない。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・3か月先も今と状態は変わらない。コロナ禍においては、世の中の動向をきちんと見て、自分に有利な物やためになる物には頭を使いながら金を使っている。余り無駄遣いはしない。消費はある程度伸び自分のためには大きな買物もするが、誰かのために金を使うというところまでは回復しない。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・コロナ禍やウクライナ情勢に起因する酒類等の値上げが飲食店での値上げにつながり、飲食店の利用客は更に足が遠のくと予想する。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・物価の上昇で景気の先行きは懸念されるが、身の回りの景気は、しばらくこのまま推移すると思われる。
		一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
		一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・4月に入ってからのもろもろの値上がりで、日用品の買い控えを感じる。しばらくはこの状態が続くように思う。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・新型コロナウイルスが収束するか、ウクライナ情勢がどうなるかや国内のインフレがどうなるかなど、非常に読みづらい。
		百貨店（売場主任）	・皮の原価が値上がりしたのか少しずつ商品は値上がりしているが、価格を気にしないで購入する客も多い。しかし、まずは商品が入ってこない。工場が変わったり飛行機が飛ばないなどで海外からの商品が入ってこないの、客は購入したいが商品がないため売上に繋がらず、厳しい状態がまだ続くと思う。
		百貨店（企画担当）	・食料品と高額品は戻ってきているが、中間層が主力客のファッション衣料雑貨関連の苦戦が続いている。新型コロナウイルスの影響は少なくなってきている感はあるが、新たにウクライナ危機の影響により購買意欲の低下が続くと思われる。若者向けのショップは売上が戻りつつあるが、中高年向けのブランド、ショップは厳しい状況が続く。
		百貨店（経理担当）	・新型コロナウイルスの感染リスクが後退して観光・飲食関連のリベンジ消費が期待される一方で、資源価格の急騰に伴う物価上昇やウクライナ紛争の長期化が景気回復の足かせとなると考える。
		百貨店（販売担当）	・約3年ぶりの規制のないゴールデンウィークということで、来客数の増加を期待できるが、モノよりもコト消費の傾向が強くなっているため、大きな回復には至らないと感じる。
		スーパー（経営者）	・新型コロナウイルス感染症対策として飲食店では客席数を減らしての営業となっており、席数を元に戻さない限り、これ以上の売上増加は困難と思われる。
		スーパー（店員）	・ゴールデンウィークを迎えるが、高止まりしている新型コロナウイルスの感染状況により外出などが手控えられる雰囲気を感じる。これから旬を迎えるスイカは、想像以上の高値なので、不安を感じる。
		スーパー（販売担当）	・良くなるとも悪くなるともどちらともいえず、分からない。
		スーパー（販売担当）	・商品の値上げはまだ続く。来客数アップは、新型コロナウイルスの動向次第で不透明であるため、買上点数アップの施策、関連販売や商品説明の表示などを行っていく。ヒット策が出るかが鍵である。
		コンビニ（企画担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数は大きく減少することはなく、夜間の人出はまだ戻っていない。この状態が続くとすれば、足元から余り状況は変化しないと思われる。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスに対する規制が現状程度であれば、それほど大きく変わることはないと思う。例えばマスク着用の緩和や外出自粛の緩和等を政府が発表すれば、多少は変わると思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・パンなどの食品やビールの値上げが発表され、新型コロナウイルスの新規感染者数もなかなか減らない状況では、先行きが明るいとは考えにくい。
		コンビニ（店長）	・今年になって売上は高水準で推移しており、これ以上上がる要素も下がる要素も特にないため、今の状態が続くと予想している。
		コンビニ（商品開発担当）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきたことで、来客数は増加し、前年を超える動きを見せている。しかし、原材料価格の高騰や生活にまつわる料金の改定が続くなかでは、楽観視できない。第7波が騒がれていることもあり、先行きは不透明である。
		衣料品専門店（経営者）	・夏物は比較的単価も値ごろなので、商品が動くと思う。
		家電量販店（店員）	・来客数が増えていないので、余り売上が伸びそうにない。
		家電量販店（営業担当）	・円安と物価高の影響が続く。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	・今月は例年より暑いためエアコンが売れたが、来客数自体は前年並みで新型コロナウイルス発生前の水準までは戻っていない。ワクチン接種以外の対策が打ち出せないまま、新型コロナウイルスの直接的な影響のほかに東南アジアでのロックダウンによる品薄や物価高など間接的な影響も大きくなり、新型コロナウイルス発生前の売上に戻るのはまだ先と思われる。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いてきて、外出や旅行に行く人が増えるので経済活動は良くなってくると思うが、原油価格の高騰や食品などいろいろな物の値上げで、プラスマイナスゼロという感じである。
		乗用車販売店（経営者）	・当分この状況は変わらないと予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・良くなる要素が見当たらない。
		乗用車販売店（経営者）	・半導体不足に加えてウクライナ情勢や上海のロックダウンによる部品供給問題が浮上している。新車供給の遅れに拍車がかかっている。
		乗用車販売店（従業員）	・これから先もガソリン価格や電気・ガス等の生活インフラ料金の高止まりが続くならば、高額商品に対する財布のひもはなかなか緩んではくれないであろう。客の購買意欲を刺激する店頭誘致にも新型コロナウイルス感染防止対策との絡みで余り多くを望めず、まだまだ厳しい市場環境が続くと思われる。
		乗用車販売店（営業担当）	・客と話をしていると、ゴールデンウィークも余り金を使わない傾向にあるようで、従来のような急な落ち込みはなさそうである。受注残の分が順番に入荷してくれば最低限の売上にはなるが、多くは見込めない。
		その他専門店〔貴金属〕（経営者）	・これからゴールデンウィークもあり、期待感を持つ。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響のほか、円安、ウクライナでの戦争、金地金・宝石や舶来腕時計など材料、仕入価格の高騰があれば、値上げせざるを得ない可能性が大きい。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・売上は、前々年比マイナス9.5%、前年比マイナス1.1%、来客数は、前々年比マイナス17.8%、前年比マイナス6.5%である。回復はしているが、まだ前々年の水準に達していない。
		一般レストラン（従業員）	・団体での食事の規制が解除されないと難しい。
		バー（経営者）	・分からない。大型連休明けの新型コロナウイルスの感染状況次第である。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・様々な問題で解決の方向性が見えてくるか、あるいは常態化してブレイクスルーしていくのか、いずれにしても時間が掛かる。
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・接客の際にガソリン代や光熱費の高騰について言及する客は増えてきているが、足元では購買単価や購買数への影響は少ない。今後の値上げを見据えて、むしろ今は買い時と考えている客も多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（支配人）	・県民割のお陰で確かに個人予約は若干戻ってきているが、自県内だけでは広がりがなく、せめて隣接した県までを範囲内にしてもらいたいと切願している。2～3か月後の予約は前年の2倍以上入ってはいるが、予算比では60～70%と相変わらず低迷しており、新年度のスタートダッシュからは程遠いと言わざるを得ない。
		旅行代理店（経営者）	・今後、まん延防止等重点措置が適用されなければ、このまま旅行業界も前進できると思う。Go To Travelに期待していたが、今のままでも客は動くので開始には慎重になってほしい。Go To Travelは閑散期に実施すべきである。また、1人1回など制限を作るべきかもしれない。ワクチンの3回接種を確認するのはひと苦労だと思う。海外旅行は、できればもう一步緩和してくれないとワクチン接種証明書の手続や帰国前PCR費用等いろいろ大変で、海外旅行のハードルは高い。空港の国際便は人気路線のほとんどが復活未定なのでこの夏も海外旅行の取り込みは厳しく、どのように夏休みの商品を販売するかが課題である。
		タクシー運転手	・悪いままで推移している。
		タクシー運転手	・3か月後がどうなっているか見通しが立たないが、新規感染者数が増えないことを祈っている。いろいろ食品などでも輸送料が高くなって値上げの話が出ているし、ロシアからの木材などの材料費も相当高くなっていて住宅関係にも問題が出てくると思われ、不安材料がたくさんある。特に身近に感じているのはガスや電気の料金改定で、年金受給者が一番困るのではないかと思う。
		通信会社（企画担当）	・新型コロナウイルスの閉塞感からは抜け出つつあるかもしれないが、依然として半導体不足や原油高の影響は続いており、良くなっているといえるほどの景気の回復は見込めない。
		通信会社（サービス担当）	・ゴールデンウィーク明けには新型コロナウイルス新規感染者数が増えることを見越して、企業向けにリモートワークの導入を推奨しているため、各家庭でも高速ネット回線が必要不可欠になってくれば、通信業界では今後の景気も良いと思われる。
		テーマパーク（職員）	・先の見えないコロナ禍で、不安定な状況が続くと思われる。
		レジャーランド（職員）	・県民割は対象者が県民のみに限定されているため、効果は限定的である。ブロック割への範囲拡大となれば集客促進の効果が期待できる。当面は、現在の水準が続くとみている。
		観光名所（案内係）	・新型コロナウイルスの感染状況が大分落ち着いてきたように感じる。このままの状況であってほしいが、各部門全てで値上げの世の中になってしまい、この影響がどこまで響くかだと思ふ。
		ゴルフ場（支配人）	・今後の入場者は各ゴルフ場共に順調に予約が入っている。6月に入ると梅雨の影響も受けるが、現時点においては、このまま良い方向で推移すると見込む。
		美顔美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減らなければ、このままの状態が続く。
		美容室（経営者）	・やはり新型コロナウイルスの影響である。風邪薬のように新型コロナウイルスの治療薬ができれば変わると思う。
		設計事務所（職員）	・政治家の話にも、景気の良くなる政策や話題はない。
		住宅販売会社（従業員）	・横ばいが続くと思われる。
		商店街（代表者）	・ウクライナで戦争が起こり、天然ガス等が世界中で不足するため、悪くなると思う。
		商店街（代表者）	・これまではコロナ禍の影響であったが、現況は世界情勢も踏まえて各所で原材料が値上がりするなど、ほとんどの商品が値上がり傾向なので、客は生活に手一杯となり、なかなか当社商品にまで手が回らないという感覚を持っている。
		商店街（代表者）	・電化製品の値上げが著しく、この状況が続けば、消費者の購買意欲が下がるのは間違いないと思う。
		一般小売店〔高級精肉〕（常勤監査役）	・物価高が現実の問題として実感できる。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	・為替の影響が出てくると思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（総務担当）	・ガソリンの価格高騰や各種値上げなどもあり、消費者の財布のひもは更に固くなると想定される。また、ゴールデンウィークは外出や行楽に金が回りそうであり、消費を引き上げる要因が乏しい。市内においてはプレミアム付商品券が発行される予定であり、その効果に期待したい。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が余り読めないが、現在よりも新規感染者数が増加して何らかの規制が掛かり、来客数が減少しないか心配している。
		スーパー（店長）	・商材値上がりによる過当競争が懸念される。
		スーパー（店長）	・今後も物価上昇が続く一方で給与は増えないので、金の回りは悪くなる可能性がある。
		スーパー（店長）	・今後更なる値上げが予想されることから、節約意識が一層高まると思われる。
		スーパー（店員）	・再値上げの要請のあるカテゴリーもあり、更なる買い控えが予想される。
		スーパー（営業企画）	・新型コロナウイルス感染症対策と経済活動との両立は今後更に進むと見込まれる。外食機会が増えることにより、食品の売上にとっては逆風となる。また、ウクライナ情勢による各種商品の値上げにより、消費は引締め傾向になると思われる。
		スーパー（総務）	・来客数、買上点数は少しだが良くなっている。土日は家族連れでの来店が目立ちにぎわいがあるが、5月以降の商品値上がりが懸念要因で、売上の減少が予想される。
		スーパー（販売担当）	・世界情勢に改善が見込めず国際貿易に支障が出るのは必至で、食料不足が更なる国際関係での支障をもたらしかねない。円安や金融政策の悪い影響が、小売のいろいろな部署に出てくる懸念がある。また、気候不順が需給バランスに一層影響しそうである。
		コンビニ（本部管理担当）	・ロシア・ウクライナ情勢で物価が高騰している。現時点でも商品価格の値上げや電気代の高額負担など影響が出ている。この状況は改善される兆しがなく、新型コロナウイルス以外の理由で先々の景気悪化を懸念している。小売業態では利益の捻出に苦戦すると予期する。
		衣料品専門店（売場担当）	・例年これからの時季は暑くなるため、スーツを上下で購入する客はどうしても減ってくる。ワイシャツやスラックスだけ単品で購入する客や枚数をそろえてセットで購入する客が増えてくる。重衣料と比べると客単価も下がるため、スーツが入用となる繁忙期とは異なってくる。
		乗用車販売店（経営者）	・エネルギーや食品等の価格上昇が相次ぎ、出費抑制の流れになるのではないかと。
		乗用車販売店（従業員）	・ゴールデンウィークで人がかなり動いたため、また新規感染者数が一気に増えるかもしれない。また、重症者は少ないが感染した人は皆かなり苦しい様子で、以前よりも新型コロナウイルスに感染したくないと考える人はむしろ増えていると思うので、景気は悪くなっていく。
		一般レストラン（経営者）	・ウクライナでの戦争の状況がとて心配である。国内では、諸物価が上昇すると考えると、給料が上がれば別だが、これから先に景気が良くなるとはとも思えない。
		一般レストラン（経営者）	・ロシアによるウクライナ侵略がいつまで続くか分からない状態である。身の回りでは、原材料費の値上げなどが一般家庭にも重くのし掛かると思う。会社の商品自体は主にし好品を扱うので、少し心配している。
		旅行代理店（経営者）	・県民割は5月末までの延長が決まっています。それ以降は不透明である。
		旅行代理店（経営者）	・円安、ウクライナ問題、中国のゼロコロナ政策や米国の金利引上げなどの外部要因もあり、様々な生活物資が値上がりしている。6月までは値上げしないと宣言する大手スーパーの広告は、逆に6月以降は値上げするという告知である。大幅な賃金上げが期待できなければどこかで節約を強いられる。インバウンド客の受入れを早期に開始しなければ、宿泊や外食業などの回復は期待できない。
		テーマパーク（職員）	・インバウンドが見通せるようになるまでは難しい。
		パチンコ店（経営者）	・コロナ禍の影響から脱しておらず、監督官庁の規制強化の影響も続いて厳しい。
		理美容室（経営者）	・客との話では、いろいろな物価が上がって余り来られないということであった。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・4月からいろいろな物が値上がりしているため、客は我慢できるものは我慢するという傾向になりつつある。
		理容室（経営者）	・この頃は次から次へと予想外の事案が出てくる。我々はどうしようもない。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・仕入原価が上昇しており取引先からの値上げ案内がますます増えていくと想定する。一方で当社事業の介護保険サービスである福祉用具レンタルの価格は、上限価格が設定されているので値上げは不可能である。
		住宅販売会社（従業員）	・メーカーの人気ではなく企業としての力量の差が、住宅設備の導入力の差となる可能性が高い。危機的状況になるビルダーが増えるのではないかと心配している。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・ウッドショックに加え、原油価格の高騰や建築材料費の上昇が経営を圧迫している。3か月先には、全ての資材が上がるのではないかと心配している。
		その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・4月には年度末までに経費を消化しきれなかった残工事があつたが、5月からは少し落ち着くようである。
	×	商店街（代表者）	・急激な物価の上昇や可処分所得が増えない影響により、消費行動はかなり控えられそうである。ウクライナ情勢が長引くほど、不景気が進行すると思われる。
	×	スーパー（支店長）	・コロナ禍に加えてウクライナ紛争による物価上昇や円安等、消費に対して消極的になる要素ばかりで、収入の増える見込みもなく、ますます買い控えに拍車がかかる。したがって、商いも決して良い方向に向くとは思えない。
	×	コンビニ（店長）	・仕入価格の上昇を価格転嫁せざるを得ない。燃料価格の高騰で配送経費も増加し、売上が減少傾向にあるなかで、とても厳しい。
	×	コンビニ（エリア担当）	・原材料価格の高騰から商品を値上げせざるを得ない状況が進み、客の購買意欲は大きく低下すると予想される。
	×	乗用車販売店（販売担当）	・現時点でも在庫がないが、今後は生産台数がより絞られてくるという話のため、今後もより一層厳しい状況が続くと思う。
	×	通信会社（営業担当）	・まだ現状が続くと思う。
	×	その他レジャー〔スポーツレジャー紙〕（広告担当）	・ウクライナ紛争の影響がかなり出てきたところへ、昨今の円安が追い打ちを掛けてきている。木材や資材関係への影響がかなり大きい。数か月後には必ず目に見える形で現れるので、マインドも冷え込みつつある。
	×	設計事務所（経営者）	・種まき案件もないため期待はできない。さらに、過去の案件請求でかなりのコストダウンを要求されている。
	×	住宅販売会社（経営者）	・分譲住宅用の建築資材の値上がり、土地の値上がりで、この先どうなるか不安で一杯である。
	×	住宅販売会社（従業員）	・建築業に携わっていた30～40代の職人にも、建築業の将来を悲観して転職する人が増えている。
企業動向関連 (東海)		輸送業（エリア担当）	・荷物の増加に対して前年は経費を大幅に増やしてしまった。その反省から適正な経費に抑えるように強気に押し進めている。また新しい循環が始まると思う。
		食料品製造業（経営企画担当）	・人流も徐々に戻りつつあり、消費が拡大することを期待したい。我々食品業界は、これまで家庭内食の需要に支えられてきたが、外食業界の復活にも期待をしたい。
		通信業（総務担当）	・新型コロナウイルス感染症対策を継続しつつ、サービス業界の復帰が期待できる。新規感染者数の連日報告よりも重症者数とその年齢や持病内訳の報告を最優先し、ワクチン接種の啓発を継続すべきである。これにより、どんな業界でも人流の密度を緩和して経済活動を元に戻せる。いつまでも心配を増長させていても世界は同調していないし、我が国だけ周回遅れとなるリスクがある。
		金融業（従業員）	・今後の新規感染者数に影響を受けるかもしれないが、ウィズコロナでの景気回復になると思う。
		金融業（従業員）	・まん延防止等重点措置等に伴う規制が一旦解除され、皆の動きが比較的上向きとなっており、ゴールデンウィーク等も重なり一般の人外に出ることで、景気自体も上向きになっていく。ただし、円安が将来のインフレ材料として懸念されるという話題もある。
		広告代理店（制作担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にあり、夏に向けてのイベント企画等が微増していくと思われる。
		会計事務所（職員）	・自分も含めて、旅行に行こうという話を聞く。新型コロナウイルス感染症対策に気を付けながら、少しずつ活動範囲を広げつつある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他非製造業〔ソフト開発〕(経営者)	・全体としてはまだまだ良くないと考えているが、当社の新製品は高く評価され、5月は来客が多くなる。休み明け早々には2社の訪問がある。2か月後には、工場で稼働できる商品を作成する見込みである。
		食料品製造業(営業担当)	・良くなる要因が見当たらない。
		化学工業(総務秘書)	・当面は新型コロナウイルス対策の我慢から解放されたい気分で消費をする。企業業績は実力の世界で勝敗や明暗は分かれるが、それだけでは景気の良しあしを判断しにくい。円安で国力の低下が示され、ウクライナ戦争を通じて安全保障は国家存亡の問題と感じられる。中長期的には非常に大きな課題に取り組みなければならず、アフターコロナでは国民の生活や仕事の仕方が大きく変化していくと思われる。
		金属製品製造業(経営者)	・仕入価格がまだ上がりそうな話を聞いている。引き続き販売量や引き合いも少なく、期待はできない。
		一般機械器具製造業(経営管理担当)	・受注量、販売量の見込みから判断する。
		一般機械器具製造業(営業担当)	・引き合いや受注は増えたが、入手できない部品があり設備が出荷できない。輸送費が高騰しているため、円安ではあるが利益が出にくい状況である。
		電気機械器具製造業(経営者)	・新型コロナウイルスの感染が収束に向かうという希望のなかで仕事量が増えるという期待はあるが、年配客の利用が減少しており以前よりも客先業界の利用人口が少なくなっているため、余り期待できない。
		電気機械器具製造業(営業担当)	・良くなる要因も余りないが、悪影響も今のところ小さい。
		輸送用機械器具製造業(品質管理担当)	・生産スケジュール上でも、しばらく良くなる傾向は特にない。
		輸送用機械器具製造業(総務経理担当)	・しばらくの間は半導体不足の影響が出ると思われ、ロシアで完成車を造らないことからロシア向けの部品も減っていくため、今のような状態が続くのではないかと見込む。
		建設業(経営者)	・ウクライナとロシアの問題や新型コロナウイルスで世情も不安であり、現時点ではどうなるか想像が付かない。
		輸送業(経営者)	・トラックの新車不足、燃料費高騰並びに輸出入の混乱は、しばらく続くと思われる。
		輸送業(エリア担当)	・コロナ禍とロシアのウクライナ侵攻の影響で、貨物の動きが読めない。
		通信業(法人営業担当)	・諸物価の上昇はこれから本格的になるという予想もあるため、企業も含めて家計は非常に厳しくなり、財布のひもはますます固くなる。まん延防止等重点措置は解除されたが、家計を圧迫する環境が増大しているため、変わらないか今よりも下がっていくと思う。
		不動産業(経営者)	・現状が持続する。
		不動産業(経営者)	・今後は新型コロナウイルスの新規感染者数が減少する傾向がしばらく続くと思われ、外出や遠出する人の増加傾向は当面継続すると予測している。今後も売上は徐々に回復していく、前年を上回る状況も継続していくと予測する。
		新聞販売店〔広告〕(店主)	・石油などの価格高騰により商品が値上がりしているため、消費者は出費を抑えると予想されるため、チラシなども増えてはいかないと思われる。
		パルプ・紙・紙加工品製造業(顧問)	・新型コロナウイルス感染症も収束には向かっているが、やはり景気への影響は大きい。また、原油高、円安、原材料の値上がり分の販売価格への反映は非常に難しく、さらに、ウクライナ情勢による影響も現状より大きくなりそうで、景気はやや悪くなると思う。
		化学工業(営業担当)	・更にプラスチック原料価格は高騰し、収益がひっ迫する見込みである。
		窯業・土石製品製造業(社員)	・原料の値上がりが激しく、客と交渉して製品価格に転嫁しているが、また更に上がる上に供給が不安定で入手できない可能性もある。今後、原料の供給不安が足かせとなりそうである。
		金属製品製造業(従業員)	・ウクライナ情勢に端を発したステンレスの原料でもあるニッケル国際相場の暴騰ともいえる混乱により、経験のないような価格上昇に直面している。仕入先も同業者も、どうしたらよいか分からず立ちすくんでいるような状態となっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般機械器具製造業（経理担当）	・鋼材の価格高騰から、やや悪くなる。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・半導体不足に加え、特に4月以降の急激な円安が今後の原材料価格にどのように影響するかによる。これ以上の利益圧迫は、中小企業にとって厳しい。
		建設業（役員）	・建設業としては物価の上昇でコスト高が否めない。今後の受注にも影響がある。住宅販売に関しても、特に当地域では地価が上昇し、販売価格の上昇に伴って客の動きも悪い。
		輸送業（従業員）	・燃料を始め各種経費の値上げと流通が止まっている各種原材料などを考えると、製造業の荷主は稼働したくてもできないという話を聞く。新型コロナウイルスもまだ完全に収まったわけではないので、当面良い兆しはみえないと思う。
		輸送業（エリア担当）	・趣味やレジャーといった遊興費の節約は、家計で真っ先に手が付けられる支出項目であると思う。ゴルフ練習場に通う人数が減ったり伸び悩んだりしている様子からも、家庭での遊興費の削減が見受けられる。こういったところから切り詰めていくことが社会全体につながっているとすれば、経済は先細りしていくのではないかと。
		通信業（法人営業担当）	・ゴールデンウィークに旅行を計画したが、旅費が高すぎて諦めた。ロシアとウクライナの戦争が長引いているため、ロシア上空を飛ぶ旅客機は軒並み航路変更を余儀なくされ、通常の3倍程度の価格となっている。このように人々の外出したい気持ちにストップが掛かると、景気はますます冷え込むと思われる。
		金融業（企画担当）	・仕入先からの値上げ要請が相次いでおり、販売先との関係で価格転嫁できる企業は良いが、転嫁できない企業も多いと思われる。これにより景気はやや悪くなっていくように感じる。
		不動産業（開発担当）	・工事費が高止まりするようであれば不動産価格の上昇は避けられず、賃金上昇が上回らない限り、景気は下降する可能性がある。
		公認会計士	・コロナ禍により中堅中小企業のバランスシートは傷んでおり、短期的な解決はできない。円安からの出口がみえない。中堅中小企業の後継者不足の問題解決にも時間が掛かる。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・いずれ値上げの方向となるので、一部の受注に影響する可能性がある。
	×	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響と給料が上がらないなかでの物価上昇など悪い材料ばかりで、景気が上向きになる材料はない。まだまだ景気は良くなり、下がっていくと思う。
	×	鉄鋼業（経営者）	・今年度も最大手鉄鋼メーカーが中小事業者向けにだけ大幅な値上げを断行してきた。前年からの累計では、大手自動車メーカーへの値上げは1キログラム当たり40円のもの、我々には90円と2倍以上の金額差となっており、明らかにおかしな販売を続けている。中小企業潰しを大手メーカーが率先している。
	×	輸送用機械器具製造業（経営者）	・資源調達の見込みが立たない。海陸運送業も含めて4月以降の景気は悪化すると思う。5月予定は既に1割ダウンしている。
	×	輸送用機械器具製造業（管理担当）	・まだまだ続きそうなウクライナ情勢と値上げで、景気回復のめどがない。
	×	会計事務所（職員）	・原材料が値上がりするなか円安も加速して一気に進み、仕入価格は高騰している。売上を伸ばしたいが、消費者の可処分所得も増加していない状況では、粗利を確保することがますます難しくなっている。
雇用関連		-	-
(東海)		職業安定所（職員）	・管内企業の求人動向から、やや良くなる。
		職業安定所（職員）	・求人数が増加し、求職者数が減少するなか、雇用保険の受給手続をする人や受給者も減少し始めている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・ボーナス支給後の転職を見据えて、ゴールデンウィーク明け以降に潜在している転職希望者が動き出す。
		人材派遣業（営業担当）	・ゴールデンウィーク後の新型コロナウイルス新規感染者数の状況で変動はするものの、ウクライナ情勢による物価高騰の影響が大きく、回復の見込みは薄い。
		人材派遣会社（社員）	・ゴールデンウィーク後の新型コロナウイルスの新規感染者数が増加すれば、再び求人数が減り、新規感染者数が足元以上に減少すれば、求人数は増える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（営業担当）	・求人数は増加傾向にあるが、求職者とのアンマッチが引き続き増えていくとみられる。
		人材派遣会社（営業担当）	・ウクライナ情勢や円安等の影響が懸念される。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響は、慣れもあるのか落ち着いてきたと思われるが、ロシア・ウクライナ問題による世界経済の混乱もあり、大幅な景気回復は見込めない。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・ウクライナ危機の影響が間接・直接的にいろいろな業種で出始めている。長期化する可能性もあり、景気的には一進一退の状況が続くとみる。
		職業安定所（職員）	・徐々にではあるが新規求人数も増加を続けており、一部サービス業においては人手不足を見込んで求人票を提出し、半導体不足により業務を制限していた企業も徐々に回復しつつある。その一方で、いまだ続くコロナ禍の影響やロシアのウクライナ侵攻等による原材料の価格高騰、重油価格の高止まり、円安の加速、商品の値上げ等、先が見えない状態が続く。
		職業安定所（職員）	・求人倍率の改善傾向は続いているものの、新型コロナウイルスの感染状況の高止まりや第7波の可能性、為替の円安傾向、ウクライナ情勢等の影響による原油を始めとする各種物価の上昇が景気に与える影響が懸念され、不透明感が増している。
		職業安定所（職員）	・景気は少しずつ改善しつつあるが、新型コロナウイルス感染症とウクライナ情勢の状況が景気の動向に今後影響する可能性があると考える。
		民間職業紹介機関（窓口担当）	・足元では時節柄、人の流動化に乗って順調な求人数の推移だが、この後はゴールデンウィークに入ることで例年どおり少しブレーキが掛かると予測される。ただし、客先業界では実際の景気より遅れて求人数に反映されることから、即ということではなく3か月程度後からとなる予想である。
		人材派遣会社（企画統括）	・エネルギー関連の値上げによる物価上昇への影響が出てくる。
		人材派遣会社（営業担当）	・ロシアのウクライナ侵攻が長期化しているため、原価高による主要客の部材調達への影響が出て、外部人材活用への投資にもストップが掛かる可能性もある。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・自動車関連においては、半導体・部品供給不足問題の長期化に加え、ロシア・ウクライナ情勢の影響で材料価格の高騰やエネルギー費の上昇が懸念され、収益状況が悪くなると予想する。
		職業安定所（職員）	・原材料費や燃料費の高騰により物価が上昇しており、当面は現況が続くと思われる。
	x	-	-

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連		都市型ホテル（役員）	・ゴールデンウィーク期間の予約が好調で、ほぼ満室の状態である。ゴールデンウィーク以降も、ツアーなどの団体予約が少しずつ入り始めており、4月下旬時点で5月の予約受注状況は前年比で125%となっている。
(北陸)		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの影響はあるが慣れも出てきており、人の動きに思ったほど悪い影響はない。ゴールデンウィーク中の人の流れは不明だが、駅前周辺から中心部に人が移動するとの見通しもあり、入込客の増加に期待して各店舗は販売促進を行っている。
		スーパー（総務担当）	・新型コロナウイルス感染症対策の規制が現状のままであれば、ゴールデンウィーク等に今までより購買意欲が強まり、需要が増加するとみている。
		コンビニ（店舗管理）	・3回目のワクチン接種が進み、現状よりは活動的になる。
		コンビニ（営業）	・ゴールデンウィークを機に上昇すると見込んでいる。
		衣料品専門店（経営者）	・現状からは良くなっていくと希望的観測をしている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（統括）	・新型コロナウイルスの感染が完全に収束するまでの状況にはならないが、Go Toキャンペーンや県民割など国や自治体による景気回復対策が延長され、ゴールデンウィーク期間はもちろん、その後も外出や外食の機会が増えると考えられる。
		観光型旅館（経営者）	・県民割や地域割引など、ウィズコロナに向けて社会が少しずつ動き出しているように見えるが、予約状況は今までと余り変わらない。
		観光型旅館（スタッフ）	・Go Toキャンペーンの再開により、状況は大きく変化すると考えている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染症による影響は続いているが、良くなることを期待している。レストラン部門では、個人客は戻りつつあるがグループ客の利用はほとんどなく、厳しい状態である。宿泊部門も個人客が中心で、団体客は戻っていない。宴会部門も引き続き大人数での宴会自粛で売上が悪い。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染状況が大きく変わらなければ、このまま少しずつ客が戻ってくると見込んでいる。ただし、ゴールデンウィーク明けの感染状況が客のマインドに大きく影響すると考える。
		タクシー運転手	・多くの人々がワクチン接種をすることで、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少すると考える。活気が出て、景気が良くなってくるとみている。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症対策の規制が緩和されつつあり、人が外に出やすくなっている。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・来客数は増えると思われているが、外食関係の動きが活発になると内食の動きが鈍くなることから、差し引きして業況は変わらないと考える。
		一般小売店〔事務用品〕（店長）	・約2年前に新型コロナウイルス感染症が発生し、世の中全体の人の動きが減少し、当店も来客数が減少した。現在は世の中全体の人の動きは少しずつ増加しているが、当店の来客数は増加する兆しがみえない。
		百貨店（売場主任）	・今後2～3か月先は、3回目のワクチン接種率が上昇し、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少を見込んでいる。しかし、ウクライナ問題の長期化や、中国のロックダウンによる製品の製造ストップの影響が今後出てくると考える。
		百貨店（販売担当）	・5月以降は商品価格の上昇やガソリンの価格高騰、円安と社会情勢による影響が出てくるとみている。食品だけでなく衣料品や雑貨など、値上げによる客の購買意欲低下を予想している。セール品などを導入する予定だが、客が消費を引き締める可能性が高い。また、高額なぜいたく品も値上げの連発で、活況であった上客の購買意欲が低下する可能性もあり、ややマイナス要因になるとみている。
		スーパー（店舗管理）	・商圏人口に対して確実にオーバーストアであることに加え、他企業ではあるがドラッグストアの出店により、客の奪い合いを起す傾向にある。
		スーパー（統括）	・コロナ禍でのライフスタイルの変化に加え、消費者の節約志向、業種業態を超えた競争の激化、働き方の変化、電気料金や物流費等の高止まりなどの影響を受けている。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスやウクライナ問題で不透明ななか、売上の回復について確信が持てない。
		家電量販店（店長）	・前年と比較すると、主要商品の単価が下がっている。客の想定予算内での商品選択が多くなっている。
		家電量販店（本部）	・故障等で必要になった商品の買換えによって売上は安定しているが、伸びる要素はない。
		自動車備品販売店（役員）	・コロナ禍の影響は少なくなるとみているが、ウクライナ問題で更なる値上げも考えられることから、景気の回復はまだ先とみている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・今後も新型コロナウイルスの感染状況に左右されるとみられ、夏頃まで大きな改善は見込んでいない。ある程度の期間、制限のない行動ができる状況が続けば、生活必需品以外の需要が回復してくると見込んでいる。
		高級レストラン（スタッフ）	・無症状や軽症の新型コロナウイルス感染者の数を数えている限り、警戒感が低下するとは考えられない。今後はまん延防止等重点措置も簡単には適用されず、補助金もなく厳しい環境が継続するとみている。
		一般レストラン（店長）	・ゴールデンウィークは昼の予約がそこそこある。多少は動いてきたようだが、夜の動きは鈍い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スナック（経営者）	・ゴールデンウィーク後の新型コロナウイルスの感染状況や国内外の動向によって変化するとみられ、何とも言えない。
		通信会社（職員）	・新型コロナウイルスとの共存により消費の増加が見込める一方、新型コロナウイルスによる長期にわたる停滞や、ウクライナ情勢の影響による原材料不足や価格上昇で、先の見通しが立たない。
		通信会社（営業担当）	・新機種の発売があったが、大きな影響はみられない。今のところ、大きな変化があるとは考えにくい。
		通信会社（営業担当）	・例年は新商品の発売で販売数が少し伸びる時期だが、オンラインショップでの購入が増加しており、期待できない。
		通信会社（役員）	・半導体不足などによる通信、放送端末の納期遅れが心配であるが、それ以外は引き続きこれまでと同様に推移するとみている。
		テーマパーク（役員）	・Go To Travelの再開が6月以降に延期となっている。政府の需要喚起策が再開されるまでは、現状が続くとみている。
		競輪場（職員）	・新型コロナウイルスの感染及び収束の状況次第で、今後どのように売上が変動するのか分からない。
		その他レジャー施設 [スポーツクラブ] （総支配人）	・コロナ禍の状況で、行政からの生活への制限は徐々に緩和されてきているが、コロナ禍からの脱却はできておらず、客の動向も制限が掛かったままである。
		美容室（経営者）	・学校で新規感染者数が増加している。若年層にもワクチン接種が行き届かないと、新規感染者数が減少しない。
		住宅販売会社（従業員）	・新規見込み客は少ないが、継続して話をしている見込み客が多いので、そこから安定して受注できれば強い営業になる。
		住宅販売会社（従業員）	・景気回復の兆しがみられない。
		商店街（代表者）	・ゴールデンウィークで人出が増加し、新規感染者数の増加は必至である。そのためゴールデンウィーク後は更に人出が減ることを危惧している。
		一般小売店[書籍] （従業員）	・原油を始めとして、あらゆる物の値上げが続いている。この状況はまだまだ続くとみられ、良くなる要素は見当たらない。
		百貨店（販売促進担当）	・生活必需品の高騰により節約志向が強まるとみている。旅行や冠婚葬祭に関連した集まりの場が増えるようだが、依然として状況がすぐに回復するとは考えられない。特にファッション関連ではその思いが強い。
		スーパー（仕入担当）	・今後も値上げが続くなかで、安売りによる集客ができない以上、集客に苦戦すると予想する。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルス感染症による上海のロックダウンにより、人気商品が入荷しなくなっている。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車メーカー各社が減産を発表しており、販売の苦戦を見込んでいる。この状況はしばらく続くとみられ、景気は悪くなると考える。
		乗用車販売店（従業員）	・半導体不足やウクライナ情勢による部品供給の遅延等、不安な状況が続いている。
		乗用車販売店（役員）	・円安や国内の物価上昇を受け、今後消費が減少していくと見込んでいる。
		住関連専門店（役員）	・最近では旅行や外食などの需要が回復しつつあり、消費が外に向いている。夏休みなどの期間に旅行等を計画するため、それ以前の消費は控える傾向である。生活用品など価格高騰の影響もあると考える。
		通信会社（役員）	・半導体不足により、当社サービスに必要な電子機器等の入手が困難なことに加え、価格も高騰している。
		パチンコ店（経理）	・諸物価の上昇により、家計が厳しくなると考える。
	×	商店街（代表者）	・自粛が普通の生活になったと感じる。ゴールデンウィークが終わると観光はオフシーズンになり、更に状況が悪化すると思われている。ネット通販の売上も厳しい状況が続いており、販路拡大など新しいことに挑戦するしか道がないと考える。
	×	スーパー（店長）	・今後、あらゆる商品の値上げを見込んでおり、現状は横ばいで推移している来客数や購入点数の減少が進むことを危惧している。
	×	その他専門店[酒] （経営者）	・世の中全てが悪くなる要因ばかりで、良くなる要因が全く見つからない。この先が大変心配である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	住宅販売会社（従業員）	・住宅資材のみならず、食品や燃料、光熱費など全てが値上がりしている。消費者の購買意欲の低下が非常に不安である。
	×	住宅販売会社（営業）	・ウクライナ情勢により木材が更に高騰するとの予測がある上、その他資材や建材の値上げも続いており、それを売価に転嫁せざるを得ず、販売価格のピークアウトがみえない。その結果、高額商品における消費の冷え込みは必至と考える。
企業 動向 関連 (北陸)	-	-	-
	-	精密機械器具製造業（役員）	・小売店への客足が戻りつつある。
	-	金融業（融資担当）	・駅前で開催した大型商業施設の入場者数が事前予想を上回っており、街に活気が戻っている。県内の山岳観光ルートも開通し、地元の経済には追い風である。
	-	金融業（融資担当）	・まん延防止等重点措置が全面解除され、コロナ禍の影響を大きく受けた業種の需要が増加傾向となっている。一方、原材料や原油価格の高騰、円安の進行により原価率が上昇し、企業収益を圧迫している。各種商品やサービスが相次いで値上げされており、消費に与える影響を注視していく必要がある。
	-	税理士（所長）	・国内はウィズコロナの段階だと考える。新型コロナウイルス感染症による経済的なマイナスは、大分なくなってきたようである。円安は良い面と悪い面があるが、良い面を捉えて伸びてくる会社も出てくるとみられることから、相対的にはそれほど悲観することはないと考えている。
	-	プラスチック製品製造業（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大を背景とした供給制約や、ウクライナ情勢の長期化懸念の影響で、食品からエネルギーに至るまで値上げの動きが相次いでおり、当面、個人消費は本格的には回復しないと考えている。
	-	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の分の受注状況から変わらないと考える。
	-	一般機械器具製造業（総務担当）	・当業界では、半導体関連や部品不足に伴う設備需要がまだまだ見込めそうだが、為替や地政学リスクを考慮すると、現状から大きく変わることはないと考えている。
	-	輸送業（役員）	・日本を取り巻く世界情勢が不安定である。
	-	輸送業（管理会計担当）	・新型コロナウイルスや原油価格の高騰、世界情勢等の不確定要素が多く、先の見通しが立たない状況である。
	-	不動産業（経営者）	・個人客や法人客から、期待感のある話が思った以上に少ない。
	-	食料品製造業（経営企画）	・輸入原材料価格は更に上昇する見通しで、採算性は確実に悪化する。製品価格への転嫁は競争力の低下につながるため容易ではない。
	-	繊維工業（総括）	・ウクライナ情勢や円安により、原材料価格の高騰に拍車がかかっている。
	-	一般機械器具製造業（経理担当）	・オートバイ用の部品に関しては依然として受注は堅調で、為替の円安も追い風となっている。その一方で鋼材価格や燃料費等の高騰が続いており、利益を押し下げている。さらに、上海のロックダウンが長引いていることから、中国向けの製品を生産調整している。
	-	建設業（経営者）	・ウクライナ問題の影響で建設資材の品薄や値上げが起これ、工事原価を押し上げることで利益が減少することが目に見えている。
	-	建設業（役員）	・資材価格の高騰が続き、先行きに不透明感がある。そのなかで受注価格も上昇傾向となっており、今後の受注量が不安である。
-	司法書士	・燃料価格や建設資材価格の値上げが大きく、建築関係では新しい事業に慎重にならざるを得ない。	
	×	-	-
雇用 関連 (北陸)	-	-	-
	-	-	-
	-	人材派遣会社（社員）	・現時点の景気が回復傾向であることから、今後は人流が増え、終息していない新型コロナウイルス感染症の第7波が加速するとみている。2～3か月先は結局、現在とほぼ変わらない状態だと考える。
	-	求人情報誌製作会社（編集者）	・大型雇用の話が出てこない。
-	新聞社〔求人広告〕（営業）	・新型コロナウイルス感染症による様子見が出てくる可能性が高い。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・ 徐々に移動制限のないゴールデンウィークを控えているが、その後の新型コロナウイルスの感染再拡大の懸念が拭えない。無症状や軽症者に限れば、ある程度の新規感染者数の増加は許容する時期にきていると考えるが、ウィズコロナのなかで思い切った経済活動になかなかシフトできずにいる人や企業が多いとみられ、急速な景気回復までは期待できない。
		職業安定所(職員)	・ 飲食業関係の求人数は回復傾向にある。今後はエネルギー価格や原材料価格の高騰を懸念する。
		職業安定所(職員)	・ 新型コロナウイルス感染症への不安に加え、ウクライナの問題が継続するとみている。
		学校〔大学〕(就職担当)	・ 求人数については、状況が変化する要素や気配がみられない。
		人材派遣会社(役員)	・ ウクライナ侵攻に対するロシアへの経済制裁や、ウクライナ産の原材料調達難の影響により、取引先企業の経済活動が停滞するとみている。
		民間職業紹介機関(経営者)	・ コロナ禍以降、部品不足等が製造業の生産にマイナス影響を及ぼし、製品納入が遅れるといった支障が出ている。加えてロシアとウクライナの問題によるエネルギー価格の高騰を心配している。
	×	職業安定所(職員)	・ 新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が減少しない。そのためしばらくすると、再び景気が少し停滞する。また、ガソリン価格が上昇し続けていることも懸念材料である。

8. 近畿(地域別調査機関:りそな総合研究所株式会社)

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)		一般小売店〔野菜〕 (店長)	・ 新型コロナウイルスの影響が落ち着くかどうかには左右されるが、このまま落ち着けば、旅行業界もにぎわってきて、飲食店も更に良くなる。
		百貨店(売場マネージャー)	・ 3回目のワクチン接種も進むなか、京都は観光地として人気が高い。コロナ禍次第ではあるものの、外出機会が増える時期になれば、回復傾向が続くと予想される。
		百貨店(外商担当)	・ 新型コロナウイルスの想定外の感染拡大などが無い限り、来客数は順調に回復する見込みである。また、特選ブランドの価格改定など、インフレ傾向の継続により、客単価も大幅な上昇が予想される。
		都市型ホテル(販売促進担当)	・ 顕著にみられるのは、宴会部門での予約や問合せの増加であり、同窓会はまだまだ少ないが、総会や懇親会といった企業関係の動きは活発になっている。宿泊も少しずつ、近隣ホテルとともに稼働率が伸びており、先行予約も増えている。また、景気回復の指標となる休前日の料金についても、高めで設定できている。
		旅行代理店(役員)	・ Go Toキャンペーンの再開により、新型コロナウイルスの感染対策を講じながら、旅行需要の回復に期待したい。
		商店街(代表者)	・ 夕方以降の人出もかなり回復しており、2018年の水準には及ばないが、前年比では相当期待できる。
		一般小売店〔菓子〕 (営業担当)	・ 久しぶりに販売量が伸びているため、この好調を維持し、お中元商戦を良い形で迎えたい。
		百貨店(売場主任)	・ 客との会話から、外出へのハードルは少し下がったように感じる。ただし、長期にわたる自粛生活で消費に対するマインドが変化し、着飾って外出を楽しむ動きは減ったようで、ファッション関連の売上は思うようには伸びていない。
		百貨店(企画担当)	・ 今後は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出されないことが前提であるが、消費者の外出機会の拡大により、売上は前年を上回る。ただし、新型コロナウイルス発生前の2019年の水準には戻らないと予想される。
		百貨店(サービス担当)	・ 今年のゴールデンウィークは前年と異なり、新型コロナウイルスに関する規制がない。集客を伴う催事の再開で来客数が増え、売上も増えることを期待している。
	百貨店(外商担当)	・ 新型コロナウイルスの新規感染者数が少し減少気味になってきたほか、まん延防止等重点措置の解除により、旅行やイベントの規制がなくなり、消費者も少し解放的になることから、景気も少し良くなっていく。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（マネージャー）	・海外情勢の悪化に起因する原料価格や仕入原価の上昇のほか、消費者による活動の再開と、節約行動という二極化の進行はあるものの、全体的には良くなる。
		百貨店（服飾品担当）	・新型コロナウイルスの影響が徐々に弱まるなか、客の今までの買い控えや巣籠りの反動から、消費意欲が伸び、特に高額商材への関心が高まると予想される。また、コロナ禍に伴って整備が進んだデジタル環境も、このまま利用が続くため、売上にプラスにはたらくことが予想される。
		百貨店（マネージャー）	・コロナ禍の影響は続いているものの、少し減ってきている。2～3か月先には、現状よりも影響が更に緩和されそうである。
		百貨店（店長）	・国内客の動きに加え、相変わらず好調な特選洋品のほか、少しインバウンド需要が戻りつつある。国内客も大きな買物は少ないが、ゴールデンウィークの帰省や家ナカ需要のほか、母の日ギフトなどは新型コロナウイルス発生前と変わらない数字を見込めそうである。
		百貨店（販促担当）	・コロナ禍に関しては相変わらず不透明であるが、許容範囲は広がっており、夏本番の消費は例年よりも期待できそうである。特に屋外での需要が期待でき、機能性商材などの打ち出しで活性化を図りたい。安心して楽しめる感覚を、身近に感じてもらえる提案が重要と考えている。
		百貨店（マネージャー）	・直近の客の購買行動をみると、消費に対する前向きなマインドが戻りつつある。このまま新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば、夏休みシーズンのファッションや雑貨、旅行用品などへの需要は強まることが予想される。
		百貨店（売場マネージャー）	・円安の進行や、原油、原料価格の上昇、更にロシアのウクライナ侵攻もあり、景気はまだまだ回復に向かうとはいえない。ただし、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少により、客が旅行や買物などで外出できる安心感が出てきたことで、消費は上向くことが予想される。
		スーパー（店長）	・ガソリン代などの物価の上昇で、依然として厳しい環境が続く。ただし、飲食店への時短要請や移動の規制がなくなるなど、新型コロナウイルスとの共存を図りつつ、経済は活発に動くことが予想される。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況が、景気を左右する一番の要因と考えられるが、4月の客の様子を見ると、外出の増加は見込めそうである。また、前年は低調であった5月のゴールデンウィークや母の日、6月の父の日、7月のバーゲンセール、8月のリゾート需要については、増加が期待される。
		スーパー（企画担当）	・2階に大型の家電量販店を誘致したため、来客数の増加が見込まれる。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加が抑えられているため、テレワーク率が低くなる。テレワークの不便さも聞いているため、出社率は上昇し、売上が約10%増加する。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激減しているわけではないが、これまでの反動か、街中の昼間人口がかなり増えてきた。このまま感染が収まれば、新型コロナウイルス発生前のにぎわいに戻り、ホテルの宿泊客数の回復につながるため、来客数は今よりも増えることが期待できる。
		コンビニ（店員）	・どんどん暑くなるため、冷たい物が売れ始める。
		コンビニ（店員）	・夏場に向けて、コンビニではアイスや飲料の需要が増える。また、涼しさを求めて立ち寄るついでに購入する動きにも期待できる。単価は上がらないが、来客数は増えそうである。
		コンビニ（店員）	・新型コロナウイルスに関する制限も徐々に解除されて、旅行者も増える。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスの感染が収束し、人流や営業時間も元どおりになり、周りの飲食店の売上も回復に向かうことが予想される。ウクライナ危機に関しては、終息を迎えることを願っている。
		乗用車販売店（販売担当）	・先行きを見ると、生産も少しずつ回復していく見込みである。客に販売できる車が増えれば、必然的に販売量も増えていく。今の状況を早く抜け出せることを祈っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・このまま自粛モードが終わり、自由に生活ができるようになれば、更に売上や客単価の改善が期待できる。新型コロナウイルスの影響で外出ができず、今まで使われなかったお金が出てくれば、景気の改善も期待できる。
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・医薬品や化粧品の売上は好調に推移している。マスクなどの衛生用品の動きも引き続き堅調である。今後、気温の上昇に伴って来客数の増加も見込まれ、緩やかな回復が進むと予想される。
		その他小売〔インターネット通販〕（経営者）	・周囲の動きにあわせて、徐々に良くなっていく。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・新型コロナウイルスとの共生に向けた取組みが本格化し、消費が活発化してくることを期待したい。
		高級レストラン（企画）	・新型コロナウイルスの新規感染者数に左右されず、消費者の観光需要が高まることを期待している。
		一般レストラン（経営者）	・緊急事態宣言などが完全に解除されたゴールデンウィークを迎えるに当たり、これをきっかけに客の行動が外出に向かうと予想される。ゴールデンウィーク後には、大人数での宴会や、外食の増加などが期待できそうである。
		観光型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの影響に加え、ウクライナ危機の影響で物価が上がるなど、余り先行きに明るい希望はない。ただし、コロナ禍がある程度収まれば、人の動きは出てくる。
		観光型ホテル（客室担当）	・3回目のワクチン接種が進めば、状況は良くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染状況を除けば上向き傾向にあるが、楽観視はしていない。今後は株主総会のシーズンとなる一方、高齢者が参加する宴席は中止の傾向にある。少人数の宴席で、いかに件数を確保するかが重要となっている。宿泊については、県民割が始まって中規模ホテルにはなかなか恩恵はない。今よりも良くなるものの、新型コロナウイルス発生前の水準には到底届かない。
		都市型ホテル（管理担当）	・3回目のワクチン接種率の上昇や、海外からの入国規制の緩和と円安傾向などによる、観光客の増加を期待したい。
		都市型ホテル（フロント）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少し、海外渡航も可能となってきた。中国では都市のロックダウンなどの厳しい規制が続いているため、インバウンドの回復はまだ見込めないが、国内旅行の動きは期待できそうである。
		都市型ホテル（客室担当）	・Go Toキャンペーンの再開が望まれるが、府民割などの延長は好材料である。3回目のワクチン接種も更に進み、新型コロナウイルスの感染予防策を十分に講じることで、旅行しやすい環境の整備が進む。
		旅行代理店（支店長）	・県民割が始まり、Go Toキャンペーンの再開も期待されるなかで、夏休みは3年ぶりに旅行に行きたいという客も多い。ハワイツアーも再開されており、夏休みの旅行の受注につながっている。何よりも、客の心理として、旅行に行ってもよいという感覚が広がり始めていることが大きい。
		タクシー運転手	・しばらくは修学旅行生の増加で忙しい。
		観光名所（企画担当）	・まだコロナ禍の影響は続いているが、これからゴールデンウィークを迎えるため、やや良くなると予想している。
		遊園地（経営者）	・先行きはいまだに不透明とはいえ、3年ぶりに大型連休を行動制限なく迎えらるることへの期待感が強い。希望的観測ではあるが、過去2年間と異なり、新型コロナウイルスの感染予防と事業活動がある程度両立した、ウィズコロナのライフスタイルが確立されると感じる。
		その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・コロナ禍の収束の動きはないが、一定の落ち着きが見られることから、人の動きが活発化している。今後はロシアのウクライナ侵攻による物価の上昇が、賃金に反映されるかどうかによって左右される。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・コロナ禍の収束がみえてくれば、状況は良くなると予想される。
		その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・オイルマッサージのため服を脱ぐので、寒い時期よりも暖かい時期の方が来客数は増加する。
		その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・ゴールデンウィークに新型コロナウイルスの感染がある程度抑えられれば、経済活動が活発になっていく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（総務担当）	・まん延防止等重点措置の解除に伴い、人の動きが活発化しており、商談客も増え始めている。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・ゴールデンウィークを迎え、まん延防止等重点措置の解除で人の往来も自由になっている。今までの鬱憤を晴らすような行楽の入出をみていると、新型コロナウイルスの感染第7波の発生を心配してしまう。同じように考える客も多く、今が正念場という声がよく出ているなど、先行きは楽観できない。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・徐々に景気は回復しているように感じるが、ゴールデンウィーク後の新型コロナウイルスの新規感染者数が例年のように激増すれば、景気は悪化するため、楽観視はできない。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・原材料価格の値上がりによる影響が、これから消費の面に出てくることを懸念している。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・コロナ禍がどのように推移するのか予想できないほか、ロシアによるウクライナ侵攻もあり、物価がますます上昇することは目に見えている。そのような状況で、生活必需品ではない衣料品の販売が伸びるとは思えず、まだまだ苦しい状況は続く。
		一般小売店〔呉服〕（店員）	・今でも動いている呉服屋もあるなど、販売状況には地域差があるが、1～2年もすれば需要が戻ってくる。
		百貨店（企画担当）	・外商以外の国内売上を含めて、3～4月と上向いてきている。ただし、不安定な世界情勢が続く見込みであり、しばらくはこれ以上の改善は難しい。
		百貨店（販売推進担当）	・現在は好調である高級商材も、株安などの動きが出れば悪化に転じるため、楽観はできない。
		百貨店（特選品担当）	・今後、高額品の需要がどうなるかは不透明である。このまま価格の高騰が続けば、ある程度は今の状況が続くとしても、2～3か月後は今よりも落ち着くことが予想される。
		スーパー（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況に変化はないが、ウイルスへの慣れなのか、以前のような行動の自粛は余りみられない。景気が好転するまでには至らないが、現状維持の動きが続く。
		スーパー（店長）	・今後コロナ禍は落ち着いてくるため、スーパーの状況は悪くなるというよりも、コロナ禍の影響のない状況に戻っていくように感じる。経済全体は活発になることが期待される一方、物価上昇の影響が気になる。
		スーパー（店員）	・雨が続くこと、また野菜が値上がりする可能性がある。
		スーパー（企画担当）	・原料価格の高騰のほか、円安の進行、人件費や電気代の上昇と、上がらない物がないほどコストの上昇が進んでいる。部門内での粗利ミックスの精度を高めて販売力を強化し、利益率を改善させることが重要となる。
		スーパー（経理担当）	・食品に限らず、値上げの動きが相次いでおり、夏～秋にかけて販売価格の本格的な上昇が予想される。賃金の上昇が追い付いていない状況であるため、節約志向や低価格志向に拍車がかかり、価格競争の激化が懸念される。
		スーパー（開発担当）	・消費が冷え込むなかで、商品の値上げが進んでいる。金利の上昇もなく、このままではインフレによる影響で景気が冷え込む。
		コンビニ（経営者）	・また新型コロナウイルスの感染第7波の話題が出始めたため、先行きが心配である。
		コンビニ（経営者）	・不安材料は多いが、経済の動きはかなり出てきている。
		コンビニ（店員）	・コロナ禍や物価上昇などの厳しい情勢のなか、現状維持ができればよい。
		コンビニ（店員）	・新型コロナウイルスの感染状況も落ち着きつつあり、若干景気も上向きになってきたが、ロシアのウクライナ侵攻による影響が、徐々に我々の生活にも出始めている。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・店の周辺を歩く人も少なく、来客数は少ない。このような状況はしばらく続きそうである。
		家電量販店（経営者）	・商品の入荷遅延の主な原因は半導体不足であるが、解消するまでに相当な時間が掛かるため、景気は回復しない。
		家電量販店（人事担当）	・気温の上昇に伴い、季節商材の販売が伸びてくるが、巣籠り需要の反動減の影響が懸念される。エネルギー価格の上昇で省エネ製品への関心が高まっていることが、唯一のプラス材料である。
		乗用車販売店（営業担当）	・半導体不足もあって新車が生産できず、売上が増えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・ウクライナ情勢が落ち着かない限り、原材料費や燃料費の増加は続く。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・政策次第で売上の減少もあり得るなど、先行きは見通せない。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・コロナ禍の下で、スポット買いやローンでの購入が減っている。宝飾品が本当に好きな客に、今まで購入したことのないような商品を勧めて、納得して購入してもらおうという販売力に懸かっている。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・送料無料キャンペーンが終わるため、受注量が増える要素は少ない。
		高級レストラン（スタッフ）	・まだコロナ禍への慎重な対応が必要な部分もあり、席の間隔に余裕を持たせるため、予約可能人数を制限している。
		一般レストラン（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除され、旅行などを楽しみにする人が増えたため、しばらくは来客数が伸びない。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしているため、来客数は今までと変わらない。まだ外出を控えている客が多い。
		観光型ホテル（経営者）	・5～6月もGo To Travelの再開が不透明であるほか、県民割のエリア拡大も不透明である。現時点で2～3か月先の予約状況は、非常に低調となっている。
		観光型旅館（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に対する反応や、府民割への反応が、少し弱まってきたように感じる。
		観光型旅館（経営者）	・政府がGo To Travelを再開しなければ、旅行をしてもよいというメッセージにはならない。
		都市型ホテル（管理担当）	・食材やガス、電気などの各種コストが増加傾向にあり、負担がどの程度増えるのかは不透明である。収入が少し回復しても、収支は余り変わらないことが予想される。
		都市型ホテル（総務担当）	・行動制限の段階的な緩和による消費の活発化がみられるものの、新型コロナウイルスの感染状況の収束がみられないほか、ウクライナ危機の長期化や物価の上昇による影響が、消費マインドの悪化につながる。
		旅行代理店（店長）	・夏の旅行の相談はあるが、まだまだ様子見の客が多く、即決となるケースは少ない。
		タクシー運転手	・新聞などでは旅行の案内も出てきているが、まだ飛びつくような物は見当たらない。まだまだ今の状態が続く。
		タクシー運転手	・現状から更に上向くことは難しそうであるが、規制のないゴールデンウィークにどれだけ利用されるのか見当がつかないなか、大きく増える気配もある。ただし、ゴールデンウィークの反動が、5月中旬以降に現れることが懸念される。
		タクシー運転手	・企業による営業関連の送迎予約など、予約全体の減少傾向は依然として続いている。
		テーマパーク（職員）	・参議院選挙までは目立った動きはなさそうであるが、政権与党が勝った後は増税の動きが出てくるおそれがある。消費は増えることなく、減少につながりそうである。
		ゴルフ場（支配人）	・来客数は増加傾向にあるが、仕入価格などが上昇傾向にあるため、景気は変わらない。
		競艇場（職員）	・ここ数年の電話投票やインターネット投票会員の増加で、全国的に売上が増えており、この状況はしばらく続く予想される。その一方、本場や場外発売場への来場者は減少がみられるが、売上全体としては高いレベルを維持している。
		その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・まだコロナ禍も収束していないなか、ウクライナ危機の推移は見通しが立たず、エネルギー価格の上昇や急激な円安傾向を含めて、当面は不安定な状況が続くと予想される。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は依然として多い状況であるが、プロ野球の試合やコンサートなどの入場規制がなくなり、久しぶりの多くの来場者でにぎわいが戻ってきた。ただし、3か月後の状況は依然として不透明であるため、現状と大きくは変わらないと考えている。
		住宅販売会社（経営者）	・ウクライナ危機や為替の変動といった不確定要素は多いが、住宅需要の極端な落ち込みはないと予想される。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・部材の入荷の遅れは、中国からの輸入の停滞が原因と聞いているが、改善に向かっていると情報は無い。前年から、従業員の作業服も入ってこない状況で困っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・様々な値上げやインボイス制度などへの対応、ルール複雑化に加え、ウクライナ危機による影響もあり、商売がやりやすい環境になるとは思えない。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・現時点では景気は目に見えて悪くなっていないが、ウクライナ危機の影響が、仕入価格や燃料価格といった経費の値上がりにつながり、経営にも徐々に影響が出てくる。コロナ禍の影響も不透明であるため、先が読めない。
		百貨店（売場主任）	・コロナ禍の影響よりも、ウクライナ危機や円安による物価の上昇で、経済が悪化しそうである。この2年間でコロナ禍による経済の疲弊が進み、企業の体力が弱くなっている。所得が増えないなかで物価が上昇した場合、一部の業種での業績悪化や、消費者の購買意欲が低下することは間違いない。
		百貨店（宣伝担当）	・円安や世界的な物流の混乱で、今後は商品の入荷遅れや値上げが予定されている。商品の動きが鈍くなるほか、消費マインドも低下し、財布のひもが固くなることが予想される。
		百貨店（営業推進担当）	・原材料や食材価格の高騰は続き、ボリューム層による消費の鈍化傾向も続くことが予想される。
		スーパー（経営者）	・好調な企業の決算発表でも、今期の見通しは前期よりもかなり控えめになっている。物価の上昇に賃金の上昇が追いつかず、特に年金生活の高齢者世帯は打撃を受ける。ウクライナ危機の長期化も予想されるなか、日々の生活で少しでも出費を減らそうとする圧力はますます強くなる。
		スーパー（店長）	・原材料や燃料価格の高騰の影響で、所得が圧迫され、客単価は低下すると予想される。
		スーパー（店長）	・コロナ禍が落ち着きみせれば、外出が増え、消費は増えると思えるが、それ以上にウクライナ危機による物価の上昇が消費のブレーキとなる。
		スーパー（店員）	・ここ数か月は下降気味である。売値が上がってきているほか、梅雨などの天候要因を考えると、売上の増加が見込めない。
		スーパー（販売促進担当）	・商品価格の高騰は今後も続き、いずれ高止まりとなる。客が物価に慣れるまでは、買い控え傾向が続くと予想される。
		スーパー（社員）	・食品部門では、加工食品の値上げと生鮮食品の相場高が重なっており、客の節約意識はしばらく続くと予想される。競合他社との価格競争も厳しくなる。
		コンビニ（店長）	・コロナ禍が長引いているほか、ウクライナ危機や円安の影響で、ほぼ全ての商品が値上げされている。今後は買い控えや商品の入荷の減少など、マイナスの要素しか思い浮かばない。
		衣料品専門店（販売担当）	・我が国でもウィズコロナの動きが広がらなければ、景気は戻らない。再びまん延防止等重点措置などが適用されるのではないかと、不安で仕方がない。
		家電量販店（店員）	・一部の家電では生産できない物もあるなか、今後はウクライナ危機などの影響も出てくる。
		乗用車販売店（経営者）	・インフレの継続が予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・新車を注文してから納車まで半年程度掛かるため、新車の注文が芳しくない。また、車検の予約状況も良くない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・ウクライナ情勢の先行き是不透明であるほか、原油価格の高止まりによる景気への影響が、これから徐々に出てくる。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・コロナ禍やウクライナ危機が続く限り、好転する期待は薄い。
		一般レストラン（企画）	・ウクライナ情勢が悪化し、こう着化するなか、日本経済への悪影響は更に拡大し、エネルギー価格や原材料価格の高騰が家計を圧迫し、外食への客足が遠のくことを懸念している。また、企業経営にも同様の影響が出ることが予想される。
		一般レストラン（店員）	・海外からの商品の仕入れが難しくなり、代用品を提供しなければならない状態である。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・全体的に大きな変化はないが、取引先の福利厚生は厳しいという声をよく耳にする。
		旅行代理店（従業員）	・世界情勢に何も反応しない政府の下では、成長の期待は薄い。
		通信会社（社員）	・春商戦も終わり、閑散期となる。今後もコロナ禍の影響に左右されるため、先行きが見通せない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（企画担当）	・今後のウクライナ情勢やコロナ禍の推移が不透明で、インフレの動きも懸念される。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・ロシアによるウクライナ侵攻がいつまで続くか予想できない。また、原油相場の上昇や円安の動きなど、経済に良くない要素が多い。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・住宅展示場の出展各社からは、世界情勢の変化で建築資材の高騰が続き、建築単価の上昇が避けられないため、客の様子見が続くという声が多い。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・住宅価格の上昇が止まらないため、販売の鈍化や市場の縮小による影響が顕在化すると予想される。
	×	一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	・ウクライナ危機や円安の影響が出る。
	×	百貨店（売場主任）	・エネルギー価格などの高騰や、物価が上昇している一方、所得は伸びていない。当面は様々な物に対して、買い控えの発生する可能性が高い。
	×	衣料品専門店（経営者）	・本格的な物価上昇の影響で、消費自体はかなり冷え込むと考えられる。
	×	衣料品専門店（経営者）	・衣類は主に中国や韓国で生産されており、今は商品が入ってこない。
	×	家電量販店（店員）	・当面の間は、メーカーからの商品の安定供給が見込めない。他の商品を探しても該当する物がなく、客が購入する動きにつながらない。
	×	家電量販店（店員）	・ロシアのウクライナ侵攻に伴い、商品価格の高騰が避けられないため、購買意欲も下がる。中国での上海市などのロックダウンにより、入手が難しくなった商品もあり、景気悪化はすることが予想される。
	×	家電量販店（企画担当）	・中国での上海市のロックダウンなどによる影響が大きく、商品の入荷のめどが立たず、品薄状態が続いている。先行きは不透明であり、しばらくは今の状態が続くことが予想される。
	×	住関連専門店（店長）	・原価の高騰や円安の進行がエスカレートする一方、状況が改善する兆しは一向にない。仕入れができずに欠品を起こすか、販売価格を大きく値上げして売れなくなるか、ネガティブな二択しか残っていない。
	×	住関連専門店（店員）	・物価の上昇による影響が出てくる。
	×	その他専門店〔宝石〕（経営者）	・ロシアのウクライナ侵攻以来、いろいろな物価が上がっているため、すぐに回復するとは思えない。コロナ禍の影響も心配されるなか、プラスチック材料は見当たらない。
	×	通信会社（社員）	・人気のあるサブスクリプション型サービスでも需要の減少に直面しているため、更なる悪化が予想される。インターネットサービスに経営資源を投入して、悪化を食い止めていきたい。
	×	競輪場（職員）	・新型コロナウイルスの感染状況は下火になりつつあるが、油断はできない。それに加えて、ロシアのウクライナ侵攻や円安の影響で、様々な物の価格の上昇が続きそうであり、良くなる見通しはもてない。
企業 動向 関連 (近畿)		木材木製品製造業（経営者）	・コロナ禍の影響が少しずつ収まったと思えば、急激な円安で海外からの仕入価格が2割も増加した。その分を販売価格に転嫁することも、現状では非常に難しく、丁寧な交渉が必要となっている。ただし、あと2～3か月もすれば、厳しい状況も収まるのではないかと予想している。
		食料品製造業（営業担当）	・夏休み前になれば、人の流れは増えてくる。新型コロナウイルスの感染対策を行いながら行動する人が増えれば、県外からの往來の増加にもつながるため、徐々に景気は良くなる。
		化学工業（経営者）	・飲食店関係に出荷していた業界はこれまで悪かったが、かなり元に戻っている。コロナ禍の影響が続いている業界はあるものの、徐々に減っているため、今後には少し期待できる。
		建設業（経営者）	・今の状況はしばらく続くと予想されるが、材料費が高騰しており、案件が延期や中止となる可能性も否定できない。
		輸送業（営業担当）	・今月は今までほとんどなかった、少し高級な通販の食品の動きが多くみられる。
		広告代理店（営業担当）	・今年に入って、Web媒体、紙媒体共に、広告売上は前年を上回っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		繊維工業（団体職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が多い状態が続いており、ゴールデンウィーク後は更に増えるとの予想もあるなど、好転する兆しが見られない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・現状から変化する時期が見通せない。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・今後も各社の業績や利用者数が回復するため、イベントなどの企画が実施され、受注量の増加が見込まれる。ただし、コストの削減も進んでいるため、劇的な回復とはならない。
		化学工業（管理担当）	・取引先によって好不調が分かれるなど、まだら模様の状況が続くようである。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・ウクライナ危機やエネルギー価格の高騰、生産材料の在庫切れなど、マイナス材料を挙げればきりが無い。その中でも必要とされる部品の調達も死活問題であり、今は何とか現状を維持している。
		金属製品製造業（経営者）	・全体的に荷動きは良いが、採算は悪くなる。
		金属製品製造業（開発担当）	・中国での新型コロナウイルスの感染が収まっていない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・コロナ禍が始まって以降、景気は最悪の状態が続いている。それに加えて、ロシアによるウクライナ侵攻で海外の案件が不安定になっている。この状況はしばらく続くと予想される。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・新型コロナウイルスの感染状況や世界情勢の先行きが不透明で、景気の見通しも予想しにくい。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・まん延防止等重点措置が解除となり、景気の回復が期待されたが、原油相場の高騰や円安の進行で原材料価格が高騰している。それを販売価格に転嫁できないなど、メーカーにとっては依然として苦しい状態が続いている。
		建設業（経営者）	・建設資材価格の高騰で、設備投資の予算との乖離が広がっている。建設資材の納期も不透明で、工期も不確定という状況である。今後は設備投資の予算や計画について、大幅な変更が必要となる。
		輸送業（商品管理担当）	・例年は忙しい3～4月が、新型コロナウイルスの影響で通常月と変わらない売上であったため、今後も厳しい状況は変わらない。
		輸送業（営業担当）	・海外からのコンテナが以前のように入ってくるまでは、良くはならない。
		金融業（営業担当）	・物価が安定しない限り、受注の増加には至らない。
		広告代理店（営業担当）	・コロナ禍は収束せず、夏までは現状のままで推移しそうである。
		司法書士	・各種の制限のないゴールデンウィークが始まり、人々は動き始めているが、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に対する不安や、ウクライナ危機、円安の影響もあり、楽観はできない。
		経営コンサルタント	・気が付くと、当社の売上もかなり減少している。取引先が経営難のため無償で対応するケースが増えており、今後も厳しい状況が続く。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・ゴールデンウィーク前であるが、バタバタすることなく休みに入り、休み明けも忙しくなりそうにない。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・原油や資源相場の高騰に加え、円安が追い打ちとなり、徐々に生活への影響が出てくることが予想される。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除され、ウィズコロナの状態でも経済を回す方針が強まるなか、まだまだ通常の動きは見られない。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・製品単価だけではなく、輸送コストなどの値上がりの影響が出る。
		食料品製造業（従業員）	・原材料や資材価格の高騰による影響がそろそろ出てくる。今後は当社も値上げに動く予定であるため、しばらくは生産や売上の伸びが期待できない。
		繊維工業（総務担当）	・値上げの動きが消費者の購買意欲を抑えることで、売上の減少が懸念される。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・急激な円安やウクライナ危機による更なる原油相場の高騰で、企業収益が圧迫される可能性が高い。以前は、製造業などで円安効果が得られたが、海外生産などの動きが進み、以前ほどは期待できなくなっている。むしろ、輸入価格の高騰が収益を圧迫する傾向にあるため、先行きの見通しはやや悲観的にならざるを得ない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（経営者）	・景気を取り巻く環境が複雑で、先が読みにくい。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・仕入価格の高騰だけではなく、部品の納期も大幅に伸びている。部品を手配しても、予定どおりに入荷しない。
		建設業（経営者）	・物価の上昇や先行きへの不安により、大型の投資をしばらく見合わせる家庭や企業が増えると予想される。
		通信業（管理担当）	・ロシアによるウクライナ侵攻の動きが終息しないため、経済を圧迫している。
		金融業 [投資運用業]（代表）	・物が値上がりし、いわゆるインフレ基調にあるが、賃金は据置きとなれば、スタグフレーションが想起される。政府主導でこの難局を乗り切るしかないが、現時点では期待できない。
		金融業（副支店長）	・2～3か月後もウクライナ危機は沈静化しないと予想され、身の回りの景気は少し悪くなる。
		その他非製造業 [衣服卸]（経営者）	・円安のほか、輸入品の船便運賃の上昇などから、メーカー側でのコストアップは深刻である。販売価格への転嫁が進みつつある状況であるが、既に中小の輸入企業の業績が深刻な状況であり、従業員の削減やコストカットを進める企業が増えている。こういった企業では従業員の所得が減る方向にあるほか、食料品などの価格の上昇で、個人消費に悪影響が出ることは間違いない。
	x	繊維工業（総務担当）	・急激な円安で商品や原材料の仕入コストが増え、収益を圧迫する傾向が顕著になると予測している。また、コストの増加分を販売価格に転嫁できればよいが、それも非常に難しい状況である。
	x	化学工業（企画担当）	・油脂の価格高騰が止まらず、インドネシアでは内需を優先するために輸出禁止措置が執られた。現時点では、原料価格の下がる要因が見当たらない。
	x	金属製品製造業（営業担当）	・原材料の鉄鋼を始め、あらゆる物の価格が上昇している。需要が低迷するなか、販売価格に転嫁できなければ死活問題になる。
x	電気機械器具製造業（営業担当）	・コロナ禍やウクライナ危機による影響で、材料が入ってこない。	
x	輸送業（営業所長）	・以前から、採算割れでの事業運営を強いられているが、運賃の値上げは困難である。とにかくお金がないと言っている取引先があり、廃業しないかどうか不安である。そろそろ新型コロナウイルス関連の休業補償も終了するため、休みの多い社員の給料が出せなくなる。会社が赤字でも給料を支給せざるを得ないほか、無利子の特別融資の返済も近づいているが、有利子で借り換えると採算が合わない。	
x	不動産業（営業担当）	・以前から原油相場が上がっているが、これから更にウクライナ危機によって、原油を含む様々な物の価格が上がってくる。また、円安の影響もかなりの痛手となるため、景気は悪くなる。	
x	その他非製造業 [電気業]（営業担当）	・コロナ禍にウクライナ危機の影響も加わり、先行きが全く見通せない。	
雇用 関連 (近畿)		人材派遣会社（管理担当）	・採用する人材の時給が高騰しており、この傾向は2～3か月続くと予想される。
		人材派遣会社（営業担当）	・まん延防止等重点措置も解除され、通常の生活が戻ってきている。求人数も前々年を超える状況であり、景気の回復が感じられる。
		人材派遣会社（支店長）	・年度末に人員を減らし過ぎた部分があるため、新年度に向けて需要が戻ると予想される。
		職業安定所（職員）	・コロナ禍への対応が進み、経済状況が良くなると予想される。
		民間職業紹介機関（支社長）	・投資効果が出るまでに時間の掛かる製造業からも、投資が活発に出始めている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・ここから夏のインターンシップに向けた広報が盛んになるため、情報サイトへの広告掲載やイベント出展の動きが見込まれる。一方、23年卒の採用については、どれだけミスマッチが出るかによって追加募集の動きが変わるため、まだ見通しが立たない状態である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（経営者）	・新年度の4～6月は様々な悪条件が重なるが、今年は参議院選挙前に政府が景気対策を打ち出してくる予想もあり、それほど景気は悪くならない。一方、企業は今まで以上に慎重になっており、本格的に人材を採用するとは考えにくい。人材派遣は飽くまでも雇用の調整弁であり、当分は今の状況が続く。
		人材派遣会社（役員）	・参議院選挙が終わり、新型コロナウイルスの感染症法上の指定が5類から2類に変更となるなど、正常な経済活動ができる環境が整うまでは、一進一退の動きが続く。
		人材派遣会社（営業担当）	・賃金は伸びないが、食品の値上げは今後も予定されており、家計への影響が懸念される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・大阪関西万博などのトピックスに期待したいが、まだまだコロナ禍の影響を脱した感はない。景気は低調なまま推移し、四半期ベースで横ばいの動きとなりそうである。
		職業安定所（職員）	・求人数が増えているほか、景気回復への期待から新規求職数も増えている。離職の動きでは、コロナ禍の影響もあり、事業主都合による離職者が前年比で増えた。特に、55歳以上の登録者が増加している。その一方、登録中の求職者の中には、新型コロナウイルスの感染拡大への不安から求職活動を自粛するなど、依然として慎重な動きも見られる。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しつつあるなか、3月の新規求職者数は前年比で9.1%減少している。まだ様子を見ている求職者が多いほか、ロシアのウクライナ侵攻に伴うエネルギーや原材料価格の高騰で、物価に影響が出始めているため、先行きが不安である。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・新型コロナウイルスによる特需案件が落ち着きつつある一方、通常の派遣求人が増加傾向になると予想される。
		学校〔大学〕（就職担当）	・ウクライナ危機が解決しなければ、状況は厳しい。
		その他雇用の動向を把握できる者	・根強い人手不足感の高まりもあり、企業の求人意欲は強いが、様々な懸念事項があるほか、先行き不透明感も強い。特に、コロナ禍による物流の停滞や、半導体などの部品不足による生産調整、原油や原材料価格の高騰、食品などの仕入コストの値上げに加え、ウクライナ危機といった海外情勢の変化による影響も含め、企業活動に悪影響を与えようの要素について、注視していく必要がある。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・ロシアのウクライナ侵攻が止まったとしても、経済制裁は継続することになる。新型コロナウイルスの感染第7波の発生や、円安の進行も含めて、今後は好転する要素がないため、景気の悪化が続くと予想される。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・ゴールデンウィーク明け以降、新型コロナウイルスの感染第7波の発生も予想されるなか、ワクチン接種の動きは頭打ちとなっている。ウクライナ情勢も複雑化し、事態の終息の見通しは立っていない。その影響で原材料価格の高騰によるインフレ懸念も高まっているほか、インフレに拍車を掛ける円安も急速に進むなど、国内景気に影響を与える不安材料が非常に多い。これらの要素が一気に解消される可能性は低く、景気はやや下向くことが予想される。
		民間職業紹介機関（職員）	・今後も原材料費や輸送費の上昇傾向が続き、求人企業の採用者数にも影響が出てくる。また、生活福祉資金の貸付けなどの施策により、求職者の相談も増えていない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・物価の上昇で景気は落ち込むと予想される。
		学校〔大学〕（就職担当）	・地政学的な混乱が続けば、景気が良くなるのは米国に限られそうである。
	x	-	-

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連		高級レストラン（事業戦略担当）	・Go Toキャンペーン再開で更なる来客数増加を期待する。
		バー（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、来客数が増加する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(中国)		観光型ホテル(副支配人)	・新型コロナウイルスの影響が少なくなれば、今まで旅行を自粛していた客の動きが活発になる。また夏休みになればファミリーでの利用が期待できる。
		テーマパーク(業務担当)	・新型コロナウイルスに対する規制がない状況が続けば、客は出掛ける機会が増えて消費へとつながる。
		観光名所(管理担当)	・新型コロナウイルス感染に関する規制をなくし、正常時に戻すという国の意思が感じられるため、国民の行動もそれに沿う。
		商店街(代表者)	・客足が戻りつつあるので、景気は良くなる。
		一般小売店[茶](経営者)	・全体的に少しずつ景気は上向く。
		一般小売店[洋裁附属品](経営者)	・季節が良くなり、人通りが増えて景気は上向く。
		百貨店(営業担当)	・ゴールデンウィークや夏休みなどで外出機会が増えるので、衣料品や服飾雑貨等の夏物需要の回復が見込まれる。
		百貨店(営業企画担当)	・久しぶりに移動自粛のないゴールデンウィークなので、県外客の流入の増加が見込める。
		スーパー(店長)	・来客数は戻りつつあるが、新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いてくれば売上も上昇する。
		スーパー(販売担当)	・新型コロナウイルスへの慣れや自粛疲れからか、来客数は回復傾向にあるが、物価が上昇しているので景気が一気に好転するとは考えづらい。ただし、景気が確実に良い方向に向かっている実感はある。
		コンビニ(エリア担当)	・ウクライナ情勢の影響が懸念されるが、新型コロナウイルスの患者が減少し、来客数が増える。
		コンビニ(副地域ブロック長)	・物価高や地元企業の工場停止など不安定な部分はあるが、来客数の回復が進む。
		衣料品専門店(経営者)	・ウクライナとロシアの戦争の長期化に慣れ、市場が元に戻る。
		家電量販店(販売担当)	・夏商戦に期待できる。
		その他専門店[和菓子](経営者)	・新型コロナウイルスの影響が薄れている状況が継続すれば、景気は良くなる。
		その他専門店[土産物](経営者)	・3回目のワクチン接種が進み、国の観光施策が実行されることで来客数が増える。
		一般レストラン(店長)	・客は新型コロナウイルスの感染状況に慣れつつあるのか、感染者数が高止まりの状況でも、以前ほど自粛している様子はない。よほど増加するか、国や県からの制限がない限り来客数は改善する。
		都市型ホテル(企画担当)	・宴会を中心に先行受注が好調で、それに伴う宿泊やレストランの予約も増えており、ホテル全体の業績回復への兆候がみられる。しかし、まだ100%ではなく、生活スタイルの変化による影響や企業・法人関係の集會、懇親の場を設けることへのマイナス思考は今後も継続する。
		都市型ホテル(総支配人)	・新型コロナウイルスの感染状況や政府による対策などの不確定要素はあるものの、人流抑制の緩和や地方版Go To Travelの地域拡大により景気は徐々に回復する。
		都市型ホテル(企画担当)	・Go To Travelが再開すれば、客の動きは大きく変わってくる。
	旅行代理店(支店長)	・国の施策であるGo To Travelの復活に期待する。	
	タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染による制限が解除され、街に人が戻りつつある現状が続けば売上は伸びる。	
	タクシー運転手	・新型コロナウイルスに対する警戒感が薄れ、人の動きが活発になる。	
	通信会社(販売企画担当)	・新型コロナウイルスの感染が落ち着けば、客の外出機会が増える。	
	通信会社(工事担当)	・新型コロナウイルス感染が落ち着いてくる。	
	通信会社(企画担当)	・第7波で再度感染爆発とならなければ、ウィズコロナの生活スタイル、若干の緊張感を伴った日常生活に戻っていく。新型コロナウイルス感染拡大前と比較して、客のし好に変容はあるものの、消費ニーズは戻ってくる。	
	観光名所(館長)	・新型コロナウイルスの感染状況が今より悪化しなければ、景気は少しずつ良くなる。	
	美容室(経営者)	・まん延防止等重点措置が解除されており、人の流れが出てくれば景気は良くなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（営業担当）	・ゴールデンウィークには外出する人が増加するので、新型コロナウイルス新規感染者数の増加が懸念される。
		商店街（理事）	・新型コロナウイルスの感染が広がる前の日常に戻る雰囲気ではない。春の値上げラッシュなど不安材料が多く、景気に変化はない。
		百貨店（経理担当）	・景気が回復しないなか、商品の値上げが続いて個人消費が伸びない。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で客のライフスタイルは変化しており、2か月後に予定しているクリアランスセールでの売上や来客数が急増することはない。
		百貨店（営業担当）	・3回目のワクチン接種が終わり、客の外出意欲が湧いて百貨店の来客数は増えてくるが、中国のロックダウンの影響で、一部の夏物衣料の入荷が未定・遅延している。物価の上昇により衣料品やぜいたく品の売上はすぐには回復しない。
		百貨店（売場担当）	・今後、新型コロナウイルスの感染が落ち着いても、客の購買意欲が高まることは簡単ではない。生活様式が変化しており、業態として対応できていない。
		百貨店（売場担当）	・円安の関係でラグジュアリー商品の価格改定が予定されているので、売上への影響が懸念される。
		百貨店（外商担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増減を繰り返しており、当面の間、景気に大きな変化はない。
		百貨店（外商担当）	・各種商品の値上げや海外紛争など、心理的不安要素があるが、新型コロナウイルスの落ち着きなど好材料も多い。ネガティブな報道がなければ、景気は安定基調で推移する。
		スーパー（店長）	・商品の値上げラッシュで1品単価は上昇するが、購買点数が減少し売上の増加は見込めない。
		スーパー（店長）	・値上げ基調で客は節約志向となり、必要な商品を必要な量しか購入しない状況となり、客の奪い合いになる。
		スーパー（総務担当）	・季節的に売上は伸びるが、景気の上昇は感じられない。
		コンビニ（支店長）	・原材料の価格高騰に伴う各商品の値上げが景気にマイナス影響を与える。
		衣料品専門店（代表）	・ガソリン価格や複数品目が値上げされるなか、政府の対応が不十分なので、景気が上向きになる要素が見当たらない。
		家電量販店（店長）	・半導体不足の問題で生産が制限されており、商品の値上げの影響で客の購入姿勢が慎重になる可能性が高い。
		家電量販店（店長）	・コロナ禍なので2～3か月後の動向はつかみにくい。ウクライナの問題もあり、景気の先行きは不透明である。
		家電量販店（企画担当）	・まん延防止等重点措置が解除されたが、新型コロナウイルスの新規感染者数は減少せず、景気に変化はない。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型車が出て客足は増えたとしても、何か月も先の売上となるため、まだまだ厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・海外のロックダウンによる部品供給不足が深刻で、新車の納期が遅れ、販売が先延ばしになる状況が増えている。
		乗用車販売店（営業担当）	・フェアを実施しているが、来客数の増加につながっていない。
		乗用車販売店（業務担当）	・新型コロナウイルスの影響で生産工場の停止等、景気の先行きが全くみえてこない。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・5月の連休に期待するが、新型コロナウイルスの感染が収まらないと景気回復は難しい。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・コロナ禍でゴールデンウィーク期間も来客数の増加は期待できない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	・ウクライナ情勢による原材料の価格高騰など不安材料が増えていることもあり、景気の先行きが見えない状況が続いている。家計の改善は見込めず、客の財布のひもは固いままとなる。今まで新型コロナウイルスの影響で中止になっていたイベントが再開されているため、今後の景気回復に期待したい。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況による景気の変動が全く読めない。ゴールデンウィーク明けからの感染者数の推移が懸念される。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少すれば景気は上向くが、ウクライナ情勢の影響で物価が上昇しており、景気の先行きは明るくない。
		観光型ホテル（営業担当）	・正直、先のことは分からない。先行予約がまだまだである。
		旅行代理店（経営者）	・これから暑くなれば新型コロナウイルスの感染者数が減少する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・景気は現状より良い状況になる。
		通信会社（経理担当）	・新型コロナウイルスの感染状況によっては、景気の先が見えない状況である。
		放送通信サービス（総務経理担当）	・直近2～3か月は大きな変動はないが、その後の景気は新型コロナウイルスの感染状況に左右される。
		ゴルフ場（営業担当）	・新型コロナウイルス感染の状況により景気の先行きは不透明である。予約状況は現状のまま推移していく。
		設計事務所（経営者）	・建築資材の高騰など、マイナス要因が増加している。
		住宅販売会社（従業員）	・様々なイベントが久しぶりに再開されているが、すぐに元どおりにはならず、しばらくは様子見の傾向が続く。
		商店街（代表者）	・現状が続くと会社の存続にも影響する。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・繁忙期が過ぎて売上が減少する。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・交通費が値上げされ観光への影響が懸念される。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・ウクライナ問題、ガソリン価格の高騰が景気に影響する。
		百貨店（販売計画担当）	・個人所得の低下で景気は悪くなる。
		スーパー（店長）	・ウクライナ情勢の影響で様々な商品が値上がりしており、客の生活防衛意識が高まって景気は悪くなる。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、人の流れも出ているが、景気回復までは時間が掛かる。
		スーパー（店長）	・値上げが続いている状況と外食へ客の流れが進むと、スーパーの売上増加は見込めない。
		スーパー（営業システム担当）	・物価が上昇しており、客の買い控えが発生する。また飲食店で使用できるプレミアム付商品券が県から発行されるため、内食で料理をする機会が減って、店への客足が遠のく可能性があり、少々厳しい状況が続く。
		スーパー（財務担当）	・新型コロナウイルスの感染者数が高止まりしているものの、行楽シーズンで外出機会が増えることで内食需要が低下し、物価上昇による節約で売上が減少する。
		コンビニ（エリア担当）	・現状の世界情勢の影響で輸入に頼っていたものが入ってこなくなる可能性が高く、より価格は上昇する。
		衣料品専門店（経営者）	・日用品の値上がりで景気は悪くなる。
		家電量販店（店長）	・円安の影響で客の消費行動が低下していく。
		乗用車販売店（営業担当）	・販売できる自動車数が減少するので景気は悪くなる。
		乗用車販売店（店長）	・新車納期の長期化が深刻化している。程度の良い中古車にニーズが移っており、損益は整備部門次第の状況が続く。
		乗用車販売店（統括）	・車の製造純化で販売量の減少がしばらく続く。
		住関連専門店（営業担当）	・食品・日用品等の値上げが日常化していくなかで、耐久消費財の家具の買い控えが増える。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・新型コロナウイルス発生前には戻らない。国際情勢や円安で景気の先行きは不透明である。
		タクシー運転手	・ゴールデンウィークになっても新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しないと来客数の増加は期待できず、景気回復も難しい。
		通信会社（営業担当）	・燃料費、原材料費の高騰状況が改善の方向になく、よりシビアな家計コントロールになる。
		美容室（経営者）	・メディアやネットで円安や物価高騰の話題が頻繁に出ており、客の財布のひもは固くなっていく。
		設計事務所（経営者）	・収入の伸びが弱く、客の低価格志向が強まり支出に慎重になる。
		設計事務所（経営者）	・原材料価格が上昇している影響で、建材や各種建築製品にまで値上げの通知が届いている。今後コストの見直し等もあり、民間工事の着工遅れにもつながる。
	×	商店街（代表者）	・物価上昇の話ばかりで先行きが不安になる。売上が伸びる状況ではない。
	×	スーパー（業務開発担当）	・ガソリン代や食料品が値上がりしたことで、車を利用する買物の回数を減らし、必要最低限のものしか購入しない客の買い控え傾向が高まる。
	×	コンビニ（エリア担当）	・原材料の価格高騰及び電気やガスのエネルギーコストの上昇が続けば、景気は更に悪化する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	自動車備品販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大による値上げと品不足に輪をかけて、ウクライナ問題がこれから販売量に与える影響で景気の先行きは不透明である。
	×	一般レストラン（経営者）	・上海のロックダウンやウクライナ情勢の影響で高騰している石油価格や品質の不安定さも発生し、4月に様々な商品が値上がりしているためメニュー改定の必要に迫られている。可処分所得の最後に位置する外食は儉約・節約の対象になるので、売上は厳しい状況になる。ゴールデンウィーク後の新型コロナウイルスの感染状況によっては、経営が更に厳しい状況となる。
	×	通信会社（広報担当）	・半導体等の関係で物品の入荷が遅れがちであり、さらに価格も上昇しているため、なかなか購買に結び付かない。
	×	競艇場（企画営業担当）	・売上が見込めるレースがないので、景気は悪くなる。
	×	美容室（経営者）	・物価上昇の影響で客の節約傾向は強まり、景気は悪くなる。
	×	住宅販売会社（営業所長）	・住宅業界では金利上昇の局面を迎える可能性が高く、ニュースでも具体的な話になっている。資材高騰の状況下で金利上昇が住宅業界にとっては苦しい局面となる。
企業 動向 関連 (中国)		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・コロナ禍による上海の厳戒態勢が原因で主要客からの受注量が減少している。いつ回復するかは不透明であるが、一旦は波が落ち着く。
		化学工業（総務担当）	・仕入価格、販売価格共に値上げが続いているが、全般的には順調に推移する。
		輸送業	・受注量が増加する。
		農林水産業（従業員）	・景気好転の理由がない。
		繊維工業（財務担当）	・輸入品の価格が上昇して原材料価格が高騰すると、商品価格に転嫁されるケースが多くなるので、客の消費行動にブレーキが掛かる。
		化学工業（総務担当）	・原燃料価格、売値の値上げ動向を注視していく。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・大型案件の生産水準が現状のまま継続する見込みである。ロシアへの輸出案件については先行きが見えないので生産を保留する。
		鉄鋼業（総務担当）	・足元の景気から大きく変化することはない。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・コロナ禍や半導体不足、ウクライナ情勢など、景気好転する要素はないが、金属価格の高値推移でプラスマイナスゼロを想定している。
		一般機械器具製造業（管理担当）	・新型コロナウイルス感染の影響で上海がロックダウンするなど、依然として景気は先行き不透明である。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・中国のロックダウンや半導体の部品不足、原材料価格の高騰が続いているため、景気は不透明感がある。
		建設業（総務担当）	・コロナ禍、ウクライナ侵攻などの影響は今後数年続く。
		輸送業（総務・人事担当）	・国内需要に復調の兆しがない。
		金融業（融資企画担当）	・地元完成車メーカーでは大型新型車の国内生産を開始し、その受注に系列の地元部品メーカーは期待しているが、操業度を大きく押し上げるほどではなく、現状程度の低位安定受注を予想する部品メーカーが多い。
		不動産業（総務担当）	・しばらく景気は現状が続く。
		広告代理店（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響が継続しており、客からの情報では受注が増えない状況が続く見通しである。
		食料品製造業（経営者）	・原料、副資材、物流運賃全てが価格高騰しており、値上げの判断を迫られている。
		食料品製造業（総務担当）	・ウクライナ情勢の影響で、当社製品の原料である穀物の価格が高騰している。原油価格の上昇で物流費と資材が高騰しており、景気は悪くなる。
		木材木製品製造業（経理担当）	・ロシアのウクライナ侵攻、円安等により、石油製品、原材料、輸送コスト等の値上げの要求が増えており、インフレが進んで今後の収益が悪化する可能性がある。
		鉄鋼業（総務担当）	・原材料費やエネルギー価格の高騰が生産活動にマイナスに影響してくる。
	金属製品製造業（総務担当）	・鉄原材料価格や電力料の値上げが続き、採算面を大きく悪化させており、この状況は今後も続く。	
	一般機械器具製造業（総務担当）	・海外のロックダウンで部品関係が入手しづらい状況が続く。	
	建設業（経営者）	・建築工事で新築物件の引き合いが減少傾向である。少額のリフォーム案件の受注量も改善傾向にない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信業（営業企画担当）	・電気代の値上げでデータセンターのコストが高騰し、価格転嫁の影響で買い控えが起こると予想される。半導体機器も不足しているため、販売量が停滞する。
		金融業（貸付担当）	・新型コロナウイルス感染症の収束が鈍化し、物価や資源価格の高騰、円安、物流停滞等の不安要素が多く、取引先の収支悪化が懸念される。
		会計事務所（経営者）	・客先の新型コロナウイルスに関する制約が徐々に縮小し、企業活動は増加しているものの、ロシア・ウクライナ問題の影響が拡大し、原材料値上げ等を通じたマイナス影響が見通せない。
	x	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・様々な問題が今後表面化し、景気に影響を及ぼす。
雇用 関連 (中国)		民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	・新型コロナウイルスに対して市場全体が慣れてきたため、各企業の新規採用活動が増える。また、新規事業展開を行う企業も増える。
		人材派遣会社（社員）	・連休後の新型コロナウイルスの感染状況、ロシアのウクライナ侵攻、円安等、様々な不安要素はあるが、景気の上向き状況は変わらない。
		人材派遣会社（支社長）	・まん延防止等重点措置が解除され、人材不足もあいまって今後も採用ニーズは高まる。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・ロシアによるウクライナ侵攻の影響で半導体が不足しているため、自動車業界、ゲーム機器業界などは生産に大きな打撃を受けている。この業界に關係する企業は、採用人数は変わらないが、採用予算を2割縮小させている。その他の業界については回復の兆しがみえており、採用人数は微増するところが多い。
		民間職業紹介機関（職員）	・新型コロナウイルスに関する制約が全て解除されている大型連休での人の移動、それに伴う消費に期待が掛かる。その流れが、1～2か月先と続いていけば、ウクライナ情勢をにらみながらはなるものの、景気は右肩上りになる。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・6月からの選考活動開始に向け、本学訪問企業数が増加するなど、企業の採用活動が本格化する。
		人材派遣会社（副支店長）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着かないと景気回復は難しい。
		人材派遣会社（経営戦略担当）	・新型コロナウイルスの感染状況に落ち着きが見え、求職者心理が上向いてくれば、求職者数に変化が出てくる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・しばらく様子見の状況が続くが、円安は地域の製造業には好影響である。
		職業安定所（所長）	・宿泊業では宴会の予約が入り始めた一方で、各種仕入価格が高騰しているのに宿泊費の値上げが難しく、利益率が下がるという声がある。
		職業安定所（雇用関連担当）	・県内の新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数が下げ止まらない状況が続く。
		その他雇用の動向を把握できる者	・新型コロナウイルスに対する警戒感が薄まり、人流は活発化するであろうが、海外情勢が不安定で物価指数も高騰している状況のなか、客の消費意欲が高まる傾向にはない。
			*
	x	-	-

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)		美容室（経営者）	・今後、各地で様々なイベント行事が開催されることで人出が増え、売上も増加すると思う。
		商店街（事務局長）	・中国での新型コロナウイルス感染再拡大やウクライナ情勢、国内物価上昇等の懸念材料は尽きないが、今のところ徐々に景気は上向いていると思う。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・3回目のワクチン接種が進むなか、ゴールデンウィーク期間中に人流を抑制する規制が設けられなかったことで、観光客を中心に商店街への人出は確実に増加すると思う。本格的な回復にはかなりの時間を要するが、既に飲食関連の売上は増加傾向にあり、景気は少しずつ上向くと予想する。
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が今後も現在の水準に留まり、特に大きな問題が発生しなければ、景気は好転すると思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売促進）	・当県では新型コロナウイルス新規感染者数の高止まり状態が続いているが、観光客が徐々に戻りつつあり、今後はこれまで我慢した反動で消費額が増大すると考えている。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスによるマイナス影響が今後薄れていき、観光客が増加することで景気が上向くと予想している。
		コンビニ（店長）	・遅い時間帯の来客や長時間滞在する客が増加している。
		衣料品専門店（経営者）	・コロナ疲れでストレスがたまっており、買物や旅行に出掛ける人が増加することで景気は上向くと予想する。
		衣料品専門店（経営者）	・ゴールデンウィーク期間中も、客の活発な動きが続けば、売上は増加すると期待している。
		乗用車販売業（営業担当）	・半導体不足は続くと思うが、景気は今より良くなると予想する。
		乗用車販売店（従業員）	・燃料価格や食料品等の値上げ情報をよく耳にするが、景気は徐々に良くなると期待している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・新型コロナウイルス感染症の収束状況次第ではあるが、少しずつ景気は良くなると期待している。
		一般レストラン（経営者）	・今後はアフターコロナやウィズコロナという風潮が主流となり、来客数も増加すると思う。
		旅行代理店（営業担当）	・県民割等が開始されたことで、受注が増加傾向にある。今後も経済対策が継続的に実施されれば、旅行需要の更なる回復が期待される。
		通信会社（社員）	・ゴールデンウィーク期間中に人の動きが少し活発化すると思う。
		通信会社（営業担当）	・コロナ禍でも少しずつ客の動きは回復しており、今後も継続していくと思う。
		観光遊園地（職員）	・行動制限が緩和されることで、消費活動が活発化すると思う。
		商店街（代表者）	・春先に中止となったイベントの再開決定やゴールデンウィーク期間中のイベント開催に加え、今後は夏祭りも実施される見込みである。景気回復までには時間を要すると思うが、少しずつコロナ禍以前の状況に戻ってきていると感じる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の影響は、様々な行動規制の緩和により薄れてきている。一方で、円安状態が継続しており、生活用品等の値上げの影響を消費者が徐々に感じ始める時期であることから、消費活動が今後どのように推移していくのか不安である。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・昼間の来客数は少しずつ戻ってきているが、依然として夜間の来客数少なく、全体としては変わらない。
		百貨店（営業管理担当）	・来客数は前年比プラスで推移しており、客の購買意欲は上向いてきたと感じているが、依然として当県の新型コロナウイルス新規感染者数は横ばいであり、ゴールデンウィーク後の感染者数の急増等の懸念もあることから、今後の予想がつかない。
		スーパー（企画担当）	・様々な商品が値上げされることによる駆け込み需要はしばらく継続すると思うが、特需後の反動はかなり大きいいため、売上の落ち込みを懸念している。
		コンビニ（店長）	・ゴールデンウィーク期間中の消費活動に期待を寄せてはいるが、その後、新型コロナウイルス感染症が再拡大し、市況が減退することを懸念している。
		コンビニ（商品担当）	・ウクライナ情勢等の懸念材料が多く、今後の景気動向の判断が難しい。
		コンビニ（総務）	・しばらく現状が続くと思う。
		衣料品専門店（営業責任者）	・まん延防止等重点措置が解除された後も客の動きは鈍いため、行動制限の更なる緩和が必要だと感じる。
		家電量販店（店員）	・今後の値上げラッシュの影響を懸念している。
		乗用車販売店（役員）	・地政学的なリスクがあり、今後の景気動向の判断が難しい。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・今後の客の動向を予想することは難しく、先行きは不透明である。
		観光型旅館（経営者）	・宿泊客数の回復により売上は増加したが、急速な物価上昇により利益率は厳しいままである。
		都市型ホテル（経営者）	・人の動きは戻ってきているが、光熱費及び原材料費の高騰がどのように影響するか不透明である。
		タクシー運転手	・まん延防止等重点措置が解除された後も人の動きは少なく、景気は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		通信会社（支店長）	・インフレが改善する見通しが見えない。	
		競輪競馬（マネージャー）	・ウクライナ情勢や国内の物価上昇、円安等の懸念材料が多く、今後もしばらく状況は変わらないと予想する。	
		スーパー（店長）	・値上げの影響により消費が低迷すると思う。	
		スーパー（人事）	・値上げが更に進むと、物価上昇に消費者の賃金が追い付かないという状況に陥ることも予想される。いずれにしても、消費活動は徐々に減退すると思う。	
		スーパー（財務担当）	・商品の仕入原価や光熱費の高騰が更に進めば、事業者は販売価格への転嫁を余儀なくされ、結果として消費者の買上点数に大きな影響を及ぼすと思う。	
		家電量販店（副店長）	・ゴールデンウィーク期間中は客が旅行や帰省等に流れるため、売上増加は見込めない。また、連休後に新型コロナウイルスの新規感染者数が増加することで、再び消費が低迷すると予想する。	
		タクシー運転手	・夏季になり暑くなると遍路の仕事がなくなる。新型コロナウイルスの感染状況も予断を許さない状態であるため、この先どうなるか分からないが、今より良くなることはないと思う。	
		通信会社（営業部長）	・物価が上昇しており、客の購買意欲の低下を感じる。	
		美容室（経営者）	・今後は来客数が減少すると思う。	
		商店街（代表者）	・今後も続くだろう自然災害や、そのための安全で強固な街づくりに注力するという発想や感覚がまだない。地方都市は今なお橋を作り道路を作って大都市への人口流出を促しており、地方都市の個性ある復活再生は極めて難しいと考えている。	
	x			
	x	スーパー（統括担当）	・物価上昇による消費低迷を日々感じる。	
	x	衣料品専門店（経営者）	・ウクライナ情勢により様々な物資の価格が高騰しており、市場に悪影響が出ている。	
	x	設計事務所（所長）	・建築業界では原材料や製品の価格が非常に高騰しており、納期の見通しも立っていないことから、このまま失速するおそれがあると思う。	
企業 動向 関連		繊維工業（経営者）	・注文が増えている小売店は、従来と異なる商品群の展開を増やしたり、ネット販売など新しい取組をしている。当社でもネット販売が大幅に増加しており、しばらくは順調に推移すると思う。	
(四国)		食料品製造業（商品統括）	・物価上昇には追いついていないが、ベースアップに協力的な経営者が増えている。給与が上昇することで、徐々に国内需要が拡大し、客の購買力が向上することを期待している。	
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・ふたつきのウェットティッシュとキッチンペーパーの工場を新設したため、今後販路を拡大し売上を増加させる予定である。	
		電気機械器具製造業（経理）	・新型コロナウイルス第7波の兆候はあるものの、社会全体の動きとしてウィズコロナでの経済活動の意識が高くなっている。	
		輸送業（経営者）	・行政がこれまで以上に国民を信用して政策を進めてくれれば、徐々に景気は回復すると思う。	
		通信業（総務担当）	・見通しが不透明な部分があるものの、3回目のワクチン接種も進んでおり、社外イベント等が少しずつ従来の形に戻っていくと予想する。	
		広告代理店（経営者）	・新型コロナウイルスの影響は減少傾向にあり、Go To Travel等の経済施策による観光や宿泊需要の回復で販促広告が少し復活すると見込んでおり、景気はやや良くなると予想する。	
		農林水産業（職員）	・販売者が価格を決められない青果物は、物価の上昇時に取り残される傾向がある。実需者である量販店の意向が強い現在の取引環境では、仕入価格が抑えられ、利益商材に使われる傾向が強く、先行きが不透明である。	
		木材木製品製造業（営業部長）	・受注量に関しては今後も安定すると判断しているが、原料価格の高騰がいつまで続くか不透明であり、見通しが立たない状況である。	
		鉄鋼業（総務部長）	・受注数はある程度見込めても、人手不足が続いているため、生産や販売量は現状が続くと予想する。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・景気動向について、どちらともいえない状況である。	
		建設業（経営者）	・新型コロナウイルスやウクライナ情勢による経済への影響はしばらく続くと思うが、当業界の景気は今後大きく悪くなることはないと思う。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
x		建設業（経営者）	・公共工事の発注時期が不透明であり、状況は変わらない。
		通信業（企画・売上管理）	・今後も状況は変わらない。
		食料品製造業（経営者）	・ゴールデンウィーク明けに新型コロナウイルスの第7波が到来し、景気が悪化と思う。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大防止措置や各種政策の効果により、持ち直しの動きが続くことが期待される一方、ウクライナ情勢や中国の新型コロナウイルス感染拡大、原材料価格の高騰等、景気悪化の要因となる事案が山積している。
		輸送業（営業）	・燃料油価格の高騰が今後も続き、経営を圧迫すると思う。
		輸送業（経理）	・国内の出荷数計画は変わらず低調なままである。海外への輸出入計画について、ロシア向けは出荷計画なし、中国向けも新型コロナウイルスの影響により先行きが不透明である。
		金融業（副支店長）	・原材料価格の高騰により、身近な生活品の価格の上昇が当面続くと予想されるなか、賃上げを実施する企業は少なく、景気は冷え込んでいくと考える。
		税理士事務所	・新型コロナウイルスの感染再拡大やウクライナ情勢等の影響により景気が悪化すると思う。
		化学工業（所長）	・ウクライナ情勢の影響で、今後の見通しが不透明である。また、原油やナフサだけでなく、様々な原材料の価格が高騰しており、今後景気は更に悪化すると思う。
雇用関連	-	-	-
(四国)		人材派遣会社（営業担当）	・外部委託が増加することで雇用が生まれ、景気は少しずつ回復すると思う。
		人材派遣会社（営業）	・物価上昇に伴う値上げ等が消費ニーズにどこまで影響するか懸念材料はあるが、これから長期休暇に向けて集客イベントが平常の開催予定となるため、施設の運営や公共交通機関、観光業施設の求人ニーズが高まると予想する。
		職業安定所（求人開発）	・原油価格の高騰という懸念材料はあるが、新型コロナウイルスの感染状況が夏には収束傾向に向かうと予想しており、景気は小康状態を保つと思う。
		学校[大学]（就職担当）	・雇用情勢が少し明るくなっていくと思う。
		求人情報誌（営業）	・サービス業界ではゴールデンウィークの割引施策が起爆剤になることを期待しているが、一過性のものであり、施策により更なる感染拡大も予想されることから長期的には景気は変わらないと思う。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・異動の時期が落ち着き、求人数が減少すると予想する。
		新聞社[求人広告]（担当者）	・消費者が物価上昇に対して警戒心を強めており、消費活動が減退すると予想する。
	x	-	-

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	(九州)	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況は下げ止まり感があり、各種イベント等も若干の規模縮小傾向はあるものの、開催される見込みであるため、人の動きも現在より活発になる。
		住関連専門店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、仕事を積極的に行えると考えているため好況を見込んでいる。
		その他小売の動向を把握できる者[ショッピングセンター]（支配人）	・商圈内の消費者や事業者は、仮に第7波が発生しても、ワクチン接種が進んでおり、し好みへの買い控えも下げ止まっていることから、外食産業以外では、さほど大きなマイナスはないと考えている。当社ショッピングセンターではシネマにおけるヒット作の有無に左右されるが、延期になっていた話題作も徐々に公開が控えている。
		一般レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスとの共存が普通になり、これまで抑えていた消費意欲が増えていく。
		観光型ホテル（専務）	・早く新型コロナウイルス感染が収まり、平常に戻ることを期待している。
		商店街（代表者）	・客は感染防止対策をしており、店内も感染防止に十分配慮している。2～3か月前とは違い来客数及び客単価が増加し、どん底商況から脱している。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況に人々が動じなくなっており、景気は徐々に回復すると予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少しないが、この状況がこのまま継続するとは考えられず、夏のボーナスが出る3か月後は、若干景気が良くなると期待をしている。
		百貨店（経理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は増加傾向にあるが、食品催事の来客数の増加をみると新型コロナウイルス発生前の状況を少しずつ取り戻しており、衣料品や飲食も良くなっている。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスによる影響も減少傾向にあり、来客数や購買数は増えつつある。
		コンビニ（経営者）	・客の消費行動にプラスの購入が見受けられ、客単価の増加に寄与している。今後は、新型コロナウイルス発生前の水準にいつ追い付くかが問題と考え、来客数増加に期待をしている。
		家電量販店（店員）	・11～12月の売上は落ちているが、今後の売上は上がっていくと予測している。
		家電量販店（従業員）	・新生活の需要ピークが終わり、ゴールデンウィークに向け買い控えが増加している。
		乗用車販売店（従業員）	・このままの流れであれば、何か大きな動きをしない限りは、一向に良くならない。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・前年と比べ来客数が若干増加している。当地の特殊な要因として、海外企業の半導体工場建設で活気付いている。それに伴い、新規の客が増加しており、2～3か月先はより半導体企業の影響を受けていく。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くことが一番であるが、更なる補助事業の実施に期待したい。
		観光型ホテル（総務）	・足下の予約状況等から、コロナ禍で敬遠されてきた宴会需要が徐々に高まっていると考えられる。感染症対策をした上で、人が集う場を取り戻そうという声が増えている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新たな感染を恐れているため、旅行需要が完全に戻るまでには時間が掛かる。
		旅行代理店（職員）	・5月までの県民割に加え、その後にGo To Travelも予定されており、旅行需要の増加に期待が持てる。
		通信会社（企画担当）	・客先の反応や引き合いは悪くない。先の事業展開に合わせた相談も増えており、景況感に悪材料はない。
		ゴルフ場（営業）	・まん延防止等重点措置で抑制されていた反動が出ている。国内の製薬会社でワクチン等が作られるようになり、今後は対策を十分にしておけば、外食や外出が多くなり、経済が回るようになる。
		学習塾（従業員）	・夏に向けて活動が増加するため、営業活動も活発になっている。
		商店街（代表者）	・材料や食品の値上げが継続すると予想され、このままの状況が続いていけば、イベントはできるが、客単価が伸びていくか懸念される。
		商店街（代表者）	・現状からは、明るい兆しが見当たらない。
		商店街（代表者）	・まん延防止等重点措置が解除され今月の売上の動きが若干良くなっている。今後、上向きになるかは先行き不透明で、横ばいが継続すると予想している。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスによる自粛行動がようやく解除され、次は生活必需品の値上げに消費行動は抑えられるようになり、急速な消費回復は望めない。
		商店街（代表者）	・火災後の処理があり、一部では全く商売ができない商店もある。現在、一般の客は近隣のスーパーマーケットで購入しており、商店街へ足が向きにくい状況になっている。
		一般小売店〔食料雑貨〕（店員）	・エネルギー関連や穀物相場等の値上げで、飲食店は特に苦しんでいる。また、テレビ報道によるウクライナ情勢や新型コロナウイルス、円安、物価高騰のニュースで消費者マインドは冷え込んだままとされている。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・新茶時期になり売上を伸ばしたいが、新型コロナウイルスの次はロシア・ウクライナ情勢の影響で、値上げ商品等もあり新茶を購入する余裕はないと予想される。
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスオミクロン株の新変異株の発生や、それに対する政府や自治体の対応、ロシア・ウクライナ情勢等、不透明な要素が多いため、状況は変わらない。
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、旅行需要が復活し、景気浮揚策としてプレミアム付商品券等の施策もある。これにより、徐々に景気が回復していくことを期待するが、大幅な改善にはつながらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（企画担当）	・クリアランスが落ち着き、夏休み前でもあり、秋物入荷がまだ先であるため、客の需要や購買傾向は現状と変わらないと予想している。
		百貨店（営業担当）	・商業施設開業やゴールデンウィークによる人出は予想されるが、直近の感染再拡大で県下の人の動きが懸念される。そのため、地元のサテライトショップや外出を伴わないギフトショップ、通信販売、インターネット受注は堅調な動きとなる。新型コロナウイルス感染拡大の抑え込み次第では来客数増加は見込めるが、急回復は難しい。一方、店頭での自家需要や、嗜好性の高い舶来雑貨・和洋酒・時計・リビング用品等は堅調である。また 購入単価や商品単価も好調に推移しているが、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少まで来客数や購買客数の増加は難しい。
		百貨店（業務担当）	・ゴールデンウィークに向けてレジャー計画を立てる客は少なく、旅行の本格的な動きは一部の人たちに限られている。客の話では、飲食業のみならず新型コロナウイルスの影響で所得が減っており、行動制限とともに景気回復の足かせとなっている。
		百貨店（経営企画担当）	・消費への意欲は、食料品や衣料品共に上向いている。世界情勢等で関連した値上げの動きが各所で高まっており、今後の消費動向に影響を与える懸念がある。
		スーパー（店長）	・更なる物価上昇により、家計支出は抑えようとする動きが出てくる。一方で、新型コロナウイルス新規感染者数は高止まりしているが、まん延防止等重点措置等は適用されていないため、ゴールデンウィークを迎え人流が多く動くことを加味すると、前年以上の景気は見込める。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況とウクライナ情勢について、状況に大きな変化はないと想定する。
		コンビニ（経営者）	・コンビニ商品も値上げが続いており、生活に密着した日用品や軽食、弁当類の販売は維持している。一方、エネルギー関連を含め家計への負担も考慮して、プラス一品の購入は減少しており、買上点数は伸びないと予想される。インフレで売上は数%上昇しても、実質の利益は横ばいである。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数の増加が、当市でも1日1000人を超えるのではないかと不安がある。また、原材料の価格高騰による商品の値上げが続くことにより、来客数減少の可能性があり危惧している。早くウクライナ情勢が落ち着くことを願っている。
		コンビニ（エリア担当）	・ガソリン価格を始め、値上げの影響が続くそうである。新型コロナウイルスに関連する経済対策効果も限定的である。
		コンビニ（店長）	・極端な変化はないと考えたいところであるが、必ずまた新型コロナウイルス感染拡大の波は来ると予測している。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・新型コロナウイルス新規感染者数の高止まりが、このまま続いていくと予想している。来客数も伸びる要素が見つからず、売上も増加しない。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスの影響もあるが、社会全体が沈んでおり、経済対策の効果を期待したい。
		衣料品専門店（取締役）	・洋服に対する価値観は、この2年で変わってしまった。以前は、外出用の見栄えの良い洋服がステータスであったが、このところ持っている洋服や手頃な金額の洋服等を着用する風潮になっている。高級服を扱っている当店は、非常に先行き不安である。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加による来客数減少の状況をみていると、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着かないことには、景気が好転することはない。
		乗用車販売店（従業員）	・現状が、好転する要素が見当たらない。
		乗用車販売店（総務担当）	・新車の配給がなければ自動車販売店は売上が立たない。新年度から赤字が懸念される。
		住関連専門店（経営者）	・まん延防止等重点措置の解除で人の動きは活発になっているが、ウッドショック等材料の値上げや海外からの商品や部品の値上がりで、前年末からの商品の値上げが止まらない。置き家具は、生活必需品のなかで購入順番が後であるため、今後売上が厳しくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・新型コロナウイルスや物価高の影響で、厳しい状況は変わらない。
		スナック（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数は少しずつ減少しているが、企業による大人数での宴会利用等はいまだ自粛しており、現状は少人数での個人利用がほとんどである。この需要が戻らなければ飲食業の本格的な売上回復とはならず、今月レベルの売上が続くようになる。
		都市型ホテル（販売担当）	・Go To Travelの再開とワクチン接種により、稼働率が上昇するかは不透明である。
		タクシー運転手	・乗客数の増加に期待しているが、なかなか客は戻ってこない状態である。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少しているように思えない。
		通信会社（統括者）	・携帯電話関連では、商品の販売及び利益計画を前年よりやや下げているが、4月の客の状況から5～6月も同じ傾向で推移する。
		理容室（経営者）	・この業種は、固定客で成り立っており、新規の客も1度が増えるわけではない。また、若い客も少ないため、景気は変わらない。
		美容室（経営者）	・7月は、新型コロナウイルスの感染が落ち着き、まん延防止等重点措置の適用もない状況が継続することに期待をしている。
		美容室（店長）	・特に売上が減少しているわけではないが、消費者はガソリンや食品の値上げを気にしており、景気が良くなるとは考えにくい。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・状況が好転する材料がないため、景気は今と変わらない。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・新規感染者数も徐々に減少傾向にあり、客の増加要素になると考えている。一方、ゴールデンウィークの行動制限はしない方針のため、新型コロナウイルス第7波発生の懸念があり、経営の不安要素を抱えている。
		設計事務所（所長）	・結果が3か月先に出るため、今月の景気と同じである。
		設計事務所（代表）	・良くなる好材料が見当たらない。
		住宅販売会社（従業員）	・金利動向を見据えながら住宅計画を前倒しで検討する客もいるが、今後における新型コロナウイルスの感染状況に対する不安もまだ残る状況でもあり、大きく景気は変わらない。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・商品の単価が低いにもかかわらず、売行きが悪い。これから当地も暑くなるため、当地産の野菜が少なくなり、また、輸送コストが掛かるため、商品の価格が高くなる。販売量が少ない上に頭打ちとなり、青果に関しては厳しい時期がくる。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・コロナ禍による外国人実習生の欠員や処理場での3密回避などが理由で、産地が人手不足となっており、商品によっては入荷が滞り、販売ロスを引き起こしそうである。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・様々な物が値上がりしており、利幅がない。仲卸のため値は上向きざるを得ず、その分売れなくなっている。ウナギのシーズンになるため、動きが少し良くなることを期待している。
		スーパー（総務担当）	・今後、様々な物の値上げが続き、価格競争が激しくなり、従来と同じ数を販売しても、売上はそれを下回る厳しい展開が予想される。
		スーパー（企画担当）	・物価高への懸念が取り除かれられない限り、節約傾向による販売数量の減少は止められないと推測する。
		スーパー（経理担当）	・食品の値上げやウクライナ情勢など消費支出に悪影響を与える要因も多々考えられ、新型コロナウイルスの影響と併せて先行き不透明である。
		コンビニ（店長）	・ウクライナ情勢が長期化すると、更なる経済悪化が予測される。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスやウクライナ情勢の影響で、供給の厳しい商品が増加し、市場が冷えている。また、急激な物価の上昇により、購買意欲も落ちている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店員）	・3月までは売上が良かったが、今月は動きがない。4月に入り、電化製品は全体的に価格が上がりつつある。そのため、客の買い控えが見受けられる。全体的に給与は上がらず、物価高になっており、来客数や販売も減少し、この状況が継続する。
		家電量販店（従業員）	・4月からの値上げによる買い控えの影響は少ないが、品薄や品切れが続いており、成約に結び付けることができない。以前からの半導体不足による影響に加えて、上海のロックダウンやウクライナ情勢等による影響であり、悪い材料が重なっている。
		その他専門店〔書籍〕（副店長）	・ゴールデンウィークによる人流拡大で、新型コロナウイルスの感染再拡大を懸念している。
		高級レストラン（経営者）	・ゴールデンウィーク後の予約状況は、5月に地元特産の食材があるが、新型コロナウイルスの感染が収束していないため、総会等での会社関係の動きがなく、予約が入っていない。
		その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・販売数量は戻っているが、新型コロナウイルス発生前の水準までには戻っていない。加えて、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で原価高騰となっており、売価に還元できないため、業績に影響が出て景気はやや悪くなる。
		タクシー運転手	・エネルギー価格の高騰により、多くの物の価格上昇につながっていく。今後の消費への影響が不透明である。また、これに対し国が施策を立てていないため、景気は悪くなると考えている。
		タクシー運転手	・現状は回復しているものの、不安定な世界情勢によるガソリンやその他の物価上昇が予想され、景気の先行きは極めて不透明である。
		通信会社（企画担当）	・光回線エリアの拡大が一段落し、販売量の増加が見込めない。
		ゴルフ場（従業員）	・ゴルフ用品が入荷しないため、需要はあっても販売に結び付かない。さらに、穀物高や原油高、円安の影響で、厳しさは増すと予想している。
		競馬場（職員）	・原油価格の上昇により、燃料代や電気代の大幅な上昇が見込まれる。また、ロシアのウクライナへの軍事侵攻や中国の新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンにより、先行き不透明であり、この状況の長期化が懸念される。
		美容室（経営者）	・2～3か月先は夏に入り、暑くなると売上は下がってくる。先行きは不透明であるため、景気回復はまだ遠いと考えている。景気対策に期待をしている。
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの感染は落ち着いているが、ゴールデンウィークの人出による新規感染者数の増加状況次第で変わってくる。円安は輸出には良いが、輸出製品も輸入に頼っている。その費用が基幹産業の問題であり、景気が若干不安定になってくる。
	×	商店街（代表者）	・ロシア・ウクライナ情勢の影響により、ロシアからのエネルギーや穀物の輸入が制限され、物価が予想以上に上がる可能性がある。生活や工場生産のための電気代が徐々に上がると、消費者の行動も買い控えすることになり、景気の低迷が予想される。
	×	一般小売店〔生花〕（経営者）	・特別な取引先が見つかったわけでもなく、切り花主体の店のため、母の日のギフトが終わると夏になり、需要が落ちる傾向にある。
	×	乗用車販売店（代表）	・物価の上昇等で、景気が良くなるとは考えられない。
	×	高級レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数について、大都市では減少しているようだが、当県では増加が止まらず過去最高の新規感染者数になっている。そのため、人の動きがなく希望がみえない状況である。
	×	設計事務所（所長）	・材料や製品単価の上昇があり、また、海外や国内情勢により材料等に影響が出るおそれが大きく、先行きは不透明である。
企業 動向 関連 (九州)		*	*
		農林水産業（経営者）	・依然として新型コロナウイルスの感染力は落ちていないが、新型コロナウイルスとうまく共存していく雰囲気になっている。特に影響が大きかった外食が、すぐには完全な状態に戻らないにせよ、今後徐々に戻っていくと考えている。量販店や外食部門では5月に期待ができる。また、梅雨明けの7月はアウトドアの需要も含め大いに期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般機械器具製造業（経営者）	・具体的な話はないが、半導体の動きが良くなることは明らかであり、将来的には各メーカーにおいて材料や生産の状況が改善してゆく。改善の動きが具体的になると、当社でもその対応をしていくことになる。
		電気機械器具製造業（取締役）	・車載や半導体関連の引き合いが強くなっている。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・客の状況では、まだまだ生産に余裕があり、今後徐々に増えてくる。
		建設業（社員）	・4年度は公共工事が減額になり、新型コロナウイルス対策に予算が多く計上される。現場でも、新型コロナウイルスの感染者を出さないように感染症対策を励行し、発注機関や元請業に迷惑が掛からないように実施している。早期の発注を期待している。
		金融業（営業担当）	・ゴールデンウィークを迎えるに当たり、観光や大型レジャー施設、商業施設への人出の増加が期待できる。そのため、特に小売、サービス業は期待ができる。しかし、3か月先もウクライナ情勢が解決していなければ、4月の状況と変わらないと推測される。また、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向であれば、一層状況は悪くなる。
		不動産業（従業員）	・オフィスビルの入居状況が、好調に推移している。
		広告代理店（役員）	・3か月予想が上向きである。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・自社Webのアクセス数や問合せ件数が伸びており、企業が人材投資を積極化している。
		農林水産業（従業者）	・今後は、全国的に暖かくなり、全国的にも青果物は潤沢に出荷される見込みで、単価の安定を望む。
		家具製造業（従業員）	・世界情勢が不安視され、歯止めの利かない円安の影響もあり、原価の圧迫は不可避である。受注数での回復も期待はまだ薄く、当面は厳しい状況が続く。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・受注予定内容から判断すると、2～3か月先も変わらない。
		化学工業（総務担当）	・損益は、前年度並を想定している。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・受注関係は、現状のまま推移するのではないかと心配している。新型コロナウイルスの感染状況とウクライナ情勢が落ち着くことを願っているが、焼き物は、夏場に掛け若干落ち込むのではないかと危惧している。今後の受注関係は、Webに力を入れなければいけない。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・半導体関連客からの見込みは変わらない。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・上期は半導体不足の影響で、急な非稼働設定等が多くなると予測される。
		輸送業（従業員）	・東欧の情勢が落ち着かない限り、現状は変わらない。
		輸送業（従業員）	・需要は引き続き好調である。特に健康志向により、プロテインや青汁の引き合いが国内外問わず多い。また、男性用化粧品受注も伸びている。しかし、原料入荷が遅れ売上は現状と変わらない。
		輸送業（総務担当）	・円安が生活費に影響を及ぼしてくると予想され、物価高で景気が良くなるとは考えられない。
		通信業（職員）	・官庁が施主である営業案件数や受注予想額が伸びておらず、受注目標に対して厳しい状況となっている。
		通信業（経理担当）	・半導体不足の影響で、情報通信機器のリードタイムが長くなっているものの、受注自体は変化がないと予想している。
		金融業（従業員）	・公共投資が高水準で推移しており、住宅投資も持ち直しの動きが見られる。また、ウクライナ情勢が緊迫状態を強め、原材料費や食料品などの値上がりによる影響が多くの業種で見られる。一方で、まん延防止等重点措置が解除されたこともあり、飲食店、ホテル・旅館、旅行業では需要が回復している。
		金融業（調査担当）	・収束が見えないコロナ禍とウクライナ情勢の混迷で閉塞感が強まっている。食品や身の回り品など幅広い品目で物価上昇が見込まれており、企業によるコスト負担の増加や、消費マインドの冷え込みが懸念される。
		金融業（調査担当）	・サービス業では利用客の更なる増加が見込まれるが、企業収益を圧迫する資源や素材価格は高騰し、部品や材料不足が2～3か月後も続く予想されるため、全体の景気は変わらない。
		新聞社〔広告〕（担当者）	・好材料がないため変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		経営コンサルタント（社員）	・物価上昇が購買意欲や購買点数に表れ、財布のひもを締めることになる。
		経営コンサルタント（社員）	・この数年、内向的かつ消極的傾向が強くなっている。
		その他サービス業〔物品リース〕（職員）	・国際情勢の不安感から円安傾向になっており、また物価上昇もあることから、現状より状況が若干悪くなる可能性がある。
		食料品製造業（経営者）	・原料不足に加え、原料や資材の価格が高騰し、今後の収益に影響が出ると予想される。
		金属製品製造業（事業統括）	・世界的な部品不足による生産体制への影響や、材料やエネルギーの高騰、ウクライナ情勢もあり、先行きが見通せない状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・主要取引先における半導体製造装置の部品や部材に調達できない物が発生しており、生産調整をしなければならない。
		金融業（営業）	・消費は、緩やかな回復傾向にあるが、物価高やウクライナ情勢等、マイナス要因も多く、今後に影響を与える。
		広告代理店（従業員）	・ワクチン接種で新型コロナウイルス感染の重症化が抑えられたため、現在では感染状況が一服しており、今後は徐々に正常に戻ると予想される。しかし、ロシアのウクライナ侵攻以降、エネルギーや穀物等の価格高騰及び急激な円安の進行で、当面景気は若干悪くなる。
		x	繊維工業（営業担当）
雇用 関連 (九州)		-	-
		人材派遣会社（社員）	・お中元時期になり、既存の客から問合せがある。現在は新型コロナウイルス感染症対策による規制がないため、期待をしている。
		新聞社〔求人広告〕（社員）	・新型コロナウイルスの感染状況次第である。現状でも一定数の感染者は出ているものの、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等には至っておらず、新型コロナウイルスと経済との両立が一定レベルで進みつつある。ここ2年間で中止されてきたイベントも再開の報道が相次ぎ、新聞広告の出稿にもつながりそうである。ただし、強力な新型コロナウイルス変異株の発生も考えられるため、予断を許さない状況ではある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルス発生による景気の落ち込みからの、今後の業績回復を見込み、新卒や中途の求人が増え始めている。また、リストラや定年退職などを機にシニア層で起業する人も多く、急な景気回復は難しいが、新しい動きとして期待ができる。
		人材派遣会社（社員）	・求人数は増加しているが、状況に応じてリモートワークができる求人数が少ないため、求職者の流動性が生まれず、職場環境により固定化されている。職場環境を変えることに大きく踏み込まない限り、現環境下で回復することは難しい。
		人材派遣会社（社員）	・企業側からの求人数も少し増えつつあるが、人選がなかなかひも付かず、その結果、稼働数は変わらない状況が続いていく。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加の兆しがあるため、急な展開は望めない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・上半期は積極的に仕掛けていくべきところであるが、新型コロナウイルスに対する不安がまだ残っている。
		職業安定所（職員）	・4月の新規求人数は、前年を多少上回りそうであるが、新型コロナウイルスの影響による休業相談や雇用調整助成金の申請件数は、1月以降高止まりしており、70件以上になっている。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染状況で景気変動しているため、今後も変わらない。
		民間職業紹介機関（職員）	・ここ2年を比べると回復傾向にはなっているが、コロナ禍は継続しており、現時点で採用環境が改善していることを考えると、これ以上良くなる原因が見当たらない。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス感染の再拡大で、新規感染者数が高止まりしている。また、世界情勢により原油や原材料費が高騰している。このため建設資材卸業者は、原材料費の高騰で収益の悪化を懸念している。今後の景気が好転する好材料が見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大はピークを超えたが、いまだ新規感染者数は高い水準であり、直近では再拡大している。また、ウクライナ情勢の着地点がみえず、エネルギーや原材料の価格高騰につながる。この状況が続けば日本経済に大きな打撃を受け、今後の企業求人数にも影響が出てくる。
	x	-	-

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)		コンビニ（副店長）	・来月はゴールデンウィークもあり来沖の航空便も満席状態なので、来客数、売上共に期待できる。
		家電量販店（営業担当）	・前年は天候不順と新型コロナウイルスの影響で数値が悪化していた。その影響で今年の2～3か月後は反動増が予想される。
		一般小売店〔酒〕（店長）	・新型コロナウイルス感染率が高くなっているが、PCR検査を積極的にした結果なので、今からワクチン3回目接種を行うことで、観光客も戻りつつある。
		百貨店（店舗企画）	・新型コロナウイルスの感染状況は高止まりしているが、3回目のワクチン接種も徐々に進んでいることから、期待感が強まる。
		スーパー（企画担当）	・ここに来て、観光客が増えつつあり、県経済にとっては明るい兆しがみられる。そのようななかで、家計における節約疲れから消費意欲が改善するとみられる。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの治療薬も出てきて人の動きが活発になっているので、景気の上昇が期待できる。
		コンビニ（店長）	・県内の新型コロナウイルス新規感染者数が高止まりのなか、ゴールデンウィークには多くの客が来店されており、観光客の姿もよくみられる。これは、感染者数と景気が反比例するのではなく、景気も上げながら新型コロナウイルス対策を行うウィズコロナの時代に入ってきたとみている。
		コンビニ（代表者）	・新型コロナウイルスへの対応が変化しつつあり、全国的に人流は活発化し、前年を上回る景気動向になっていくと判断する。
		その他専門店〔陶器〕（製造）	・ゴールデンウィークで良くなり、その後また静かになりそうだと予想している。
		観光型ホテル（代表取締役）	・宿泊予約は前年と比べて良くなっている。料飲部門はまだ低調である。
		観光型ホテル（企画担当）	・ホテルの4月の販売室数は前年比1%増加なのに対し、4月末時点での7月の予約室数は前年比36%増加とプラス幅が大きくなっている。
		観光名所（職員）	・Go To Travelが再開する期待がある。
		スーパー（販売企画）	・新型コロナウイルス問題、物価高騰、ウクライナ戦争など将来不安が多くあり、消費者の財布のひもはますます固くなり景気回復の見通しは大変厳しい状況にあると考えられる。
		衣料品専門店（経営者）	・今月は新型コロナウイルスによる緊急事態宣言も全解除状態なので、売上のアップを期待していたが、様々な物品の値上げの影響が、売上が上がらない。客の出も良くない状態である。今のところ景気が良くなる気配がしない。まだまだ我慢の状態だとみられる。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染が収まり市場が活気付かないと変わらないとみている。来店せずにWebで手続きを済ませる傾向も高まっているのでそれも影響している。
		その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・先行きの受注について、法人需要は戻りつつあるものの観光需要は依然厳しい状況である。全国対象のGo To Travel再開等の起爆剤がないと受注増加は難しい。
	住宅販売会社（代表取締役）	・不動産価格の高止まり、建築資材価格の高騰もあり良くなる要因が見当たらない。	
	住宅販売会社（役員）	・不動産売買において現在より需給が良くなるかということ、そこまでとは見受けられない。	
	衣料品専門店（経営者）	・ゴールデンウィーク明けは、いろいろな物の価格の高騰で景気が悪くなるとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（マネージャー）	・新型コロナウイルスの影響も残りながら、原油価格の高騰も重なり、かなり厳しい状況になりそうである。取引会社からも、経費削減のため出張等もかなりなくなりそうという声も聞こえる。
	x	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しない限りは全般的に大変な状況かとみている。
	x	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・食材の値上がり厳しく、単価に反映しにくい。求人数が厳しく、時給等どんどん上がっている。また、新型コロナウイルスで飲食を自粛している地元客の戻りが鈍い。
企業 動向 関連 (沖縄)		食料品製造業（役員）	・今後は沖縄の本土復帰50年でイベントも増加するので、沖縄への観光客の増加やフェアの増加が見込める。
		広告代理店（営業担当）	・いまだ収束がみえない新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻による経済的ダメージを危惧する状況はあるものの、沖縄の本土復帰50周年をビジネスチャンスと捉える県内企業も多いことから、多少なりとも販促活動が活発になるとみている。
		窯業土石業（取締役）	・公共、民間工事の見積り依頼、受注とも横ばいの状況が続いており、当面現状で推移するとみられる。
		建設業（経営者）	・見込みの高い客の集客の動きが鈍い。
		輸送業（代表者）	・宮古島、石垣島の建設関連は、石垣島の陸上自衛隊関連工事の官需部門と宮古島のホテル関係の民需関連で回復の兆しがみられ、軽石の影響も軽減しているが、新たな新型コロナウイルス変異株の感染増加と燃料油を始めとした物価の上昇の影響が懸念される。
		輸送業（経営企画室）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は増加しているがウィズコロナの状況が継続すると考えられるため、新型コロナウイルス発生前と比べると景気は良くはないが、特段変化はないと推察する。
		-	-
	x	会計事務所（所長）	・好転材料が見当たらない。
雇用 関連 (沖縄)		-	-
		人材派遣会社（経営者）	・ようやく動き出した派遣依頼は、このまま順調に推移していくのではないかと期待感がある。新型コロナウイルスの環境も落ち着きつつあり、周辺企業の動きも活発になっている。
		人材派遣会社（総務担当）	・求人案件が増加しているが、人材不足でなかなかマッチングができない状況である。
		職業安定所（職員）	・観光、飲食関係の求人数は上向きの印象がある。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・今後は中小企業の採用活動が中心となってくるため、求人数としては徐々に減少していくとみられる。コロナ禍ではあるが、急激な変動はなく、例年どおりの推移と予想している。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・一旦求人数が増加してきたが、新型コロナウイルス新規感染者数が徐々に増加傾向にあるので、求人のためらっている企業もある。
		求人情報誌製作会社（営業）	・例年、夏シーズンは求人数が減少する時期ではあるが、求人計画の予定や募集再開準備に向けた動きなどもみられ、差引きプラスマイナスゼロかとみている。
	-	-	
	x	-	-